
京都市
健康づくりに関する意識調査等に関する
報告書

平成30年3月
京 都 市



健康長寿のまち・京都

目次

第 I 部 健康づくりに関する意識調査	1
第1章 調査の概要	3
1 調査目的.....	3
2 調査概要.....	4
3 報告書における表及び図表の見方.....	5
4 調査の精度.....	5
第2章 調査結果の概要	6
1 基礎項目.....	6
2 健康状態, 健(検)診等に関する項目.....	7
3 「健康長寿のまち・京都」の取組に関する項目.....	11
4 身体活動・運動に関する項目.....	12
5 喫煙に関する項目.....	15
6 飲酒に関する項目.....	18
第3章 調査結果	20
1 基礎項目.....	20
2 健康状態, 健(検)診等に関する項目.....	25
3 「健康長寿のまち・京都」の取組に関する項目.....	39
4 身体活動・運動に関する項目.....	45
5 喫煙に関する項目.....	66
6 飲酒に関する項目.....	83
第4章 調査票	93

第Ⅱ部 公共施設等における受動喫煙防止対策実態調査...101

第1章 調査の概要	1
1 調査目的.....	1
2 調査概要.....	1
3 報告書における表及び図表の見方.....	3
第2章 調査結果の概要	4
【公共施設】.....	4
【公共交通機関】.....	6
第3章 公共施設の調査結果	7
1 受動喫煙防止対策の状況.....	7
2 現在の受動喫煙防止対策に対する認識.....	12
3 今後の受動喫煙防止対策.....	15
4 受動喫煙防止対策が進まない(困難である)理由.....	16
5 受動喫煙による健康への影響に対する認識.....	17
6 受動喫煙防止対策の強化に関する制度案の認知状況.....	19
7 喫煙環境の揭示状況.....	20
第4章 公共交通機関の調査結果	22
1 受動喫煙防止対策の状況.....	22
2 現在の受動喫煙防止対策に対する認識.....	25
3 今後の受動喫煙防止対策.....	26
4 受動喫煙防止対策が進まない(困難である)理由.....	28
5 受動喫煙による健康への影響に対する認識.....	30
6 受動喫煙防止対策の強化に関する制度案の認知状況.....	32
7 京都市路上喫煙の禁止等に関する条例の認知度.....	33
8 乗務員への受動喫煙に関する教育の実施状況.....	34
第5章 調査票	35

第 I 部

健康につくり関する

意識調査

第1章 調査の概要

1 調査目的

京都市では、市民主体の健康づくり活動を推進し、年齢を重ねても一人ひとりのいのちが輝き、地域の支え手として活躍できる、活力ある地域社会「健康長寿のまち・京都」を実現するための取組を進めています。

本調査は、市民の皆様の身体活動・運動、喫煙、飲酒等に関する意識を調べ、健康の増進や生活習慣病の予防に向けた取組等の状況を把握することを目的としています。

調査結果については、平成25年3月に策定した「京都市民健康づくりプラン(第2次)」の現時点における取組の評価、見直し及び各分野別行動指針の改定に向けた基礎資料として活用します。

2 調査概要

(1)調査の名称

健康づくりに関する意識調査

(2)調査対象

市内にお住まいの15歳以上の方

(3)調査時期

平成29年6月5日～平成29年6月23日

(4)調査方法

無作為に抽出した5,000名の市民への郵送による調査

(5)対象者の構成

【性別・地区別構成比】

	男性		女性		無回答		合計		
	対象者数	回答者数	対象者数	回答者数	対象者数	回答者数	対象者数	回答者数	有効回答率(%)
総数	2349	1016	2651	1365	-	56	5000	2437	48.7%
北区	184	86	211	107	-	4	395	197	49.9%
上京区	125	58	151	84	-	2	276	144	52.2%
左京区	258	109	292	166	-	4	550	279	50.7%
中京区	170	78	207	108	-	5	377	191	50.7%
東山区	59	27	74	35	-	3	133	65	48.9%
山科区	217	96	244	125	-	6	461	227	49.2%
下京区	126	50	151	80	-	3	277	133	48.0%
南区	174	68	178	85	-	2	352	155	44.0%
右京区	324	144	358	176	-	9	682	329	48.2%
西京区	248	106	277	158	-	9	525	273	52.0%
伏見区	464	194	508	240	-	5	972	439	45.2%
無回答	-	0	-	1	-	4	-	5	-

【性別・年代別構成比】

	合計	男性	女性	無回答
全体	2437	1016	1365	56
青年期(15～24歳)	179	85	92	2
壮年期(25～44歳)	591	227	363	1
中年期(45～64歳)	683	302	376	5
高齢期(65歳以上)	971	398	530	43
無回答	13	4	4	5

(6)回収率

	平成29年度調査	平成23年度調査
発送数	5000件	5000件
回収数	2437件	2243件
回収率	48.7%	44.9%

3 報告書における表及び図表の見方

- ①図表内の「N」は、設問に対する回答の合計数である。
- ②単数回答の設問は円グラフ、複数回答の設問は帯グラフとする。ただし、単数回答であっても選択肢が多い場合は、棒グラフとしている。
- ③集計は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位までを表示しているため、比率の合計が100.0%とならない場合がある。
- ④複数回答を求めた設問では、設問に対する回答者数を基数として算出しているため、回答比率の合計が100.0%を超えることがある。
- ⑤クロス集計表は、分析軸となる質問(性別、年代別等)の選択肢ごとに、最も多い回答を濃い灰色、2番目に多い回答を薄い灰色で着色している。
- ⑥クロス集計表では性別や年齢について無回答の人を除いているため、回答者総数と数が合わないことがある。
- ⑦本文や図表内の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している。
- ⑧第2章以降において、「健康と運動に関する調査(平成 23 年度)」(以下、市民意識調査)及び「受動喫煙防止対策等に関する意識調査(平成 22 年度)」(以下、たばこ意識調査)の2種類の調査と過年度比較している。

4 調査の精度

標本誤差は、以下の式で得られ、比率算出の基数(n, 回答者数), 回答の比率(p)によって誤差範囲が異なる。回答比率は、ある設問の1つの選択肢に対して得られた回答者の割合である。定数 1.96 は、信頼率 95%と設定した場合の定数である。

$$\text{標本誤差} = \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}} \times 1.96$$

N:母集団数, n:サンプル数(有効回答数), p:回答比率

この計算式に従って算出される各調査の標本誤差は以下のとおりとなる。

(1)京都市健康づくりに関する市民意識調査(N=1,249,497)

回答比率 n	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
2437	±1.18%	±1.58%	±1.81%	±1.93%	±1.97%
1365	±1.58%	±2.11%	±2.41%	±2.58%	±2.63%
1016	±1.83%	±2.44%	±2.80%	±2.99%	±3.05%

第2章 調査結果の概要

1 基礎項目

- BMIは普通体重が70.6%, 低体重が10.0%, 肥満が17.3%となっている。(問4 P22 参照)
- 1日のうち自由になる時間では, 前回(H23)調査と比較すると, 「2時間以上4時間未満」がやや増加する一方で, 「4時間以上6時間未満」が減少している。(問7 P24 参照)

(%)

問	設問	選択肢	今回調査	前回調査(H23)
4	BMI	低体重(BMI18.5未満)	10.0	9.5
		普通体重(BMI18.5~25未満)	70.6	69.9
		肥満(BMI25以上)	17.3	16.9
7	自由時間	2時間未満	15.0	16.3
		2時間以上, 4時間未満	26.8	23.1
		4時間以上, 6時間未満	19.7	24.6
		6時間以上, 8時間未満	9.9	8.6
		8時間以上, 10時間未満	7.3	6.3
		10時間以上	20.0	19.3

2 健康状態、健(検)診等に関する項目

① 健康状態について

- 健康に関する知識の入手先は、前回(H23)調査同様、「テレビ・ラジオ」が63.1%と一番多い。
前回(H23)調査から大きく増えているのは、「インターネット」で15%以上(26.4%→41.7%)
増えている。(問8 P25 参照)
- 過去1ヵ月間の健康状態については、「良い」(60.9%),「あまり良くない」(23.4%),「とても
良い」(9.5%)の順となっている。年代別にみると、高齢期(65歳以上)では、「あまり良く
ない」と「良くない」が34.4%と他の年代に比べ多くなっている。(問10 P28 参照)
- 健康に関心のある人は81.5%と多い。
青年期(15歳~24歳)については健康に関心のある人は58.7%と少ない。(問11 P29 参照)
- 健康に関心があると回答した人で健康のために心がけていることでは、「なるべく体を動かす」
(60.4%),「バランスよく食べる」(58.2%),「たばこを吸わない」(51.6%)の順に多くなっている。
前回(H23)調査に比べ、全ての項目が増加しており、「たばこを吸わない」(38.3%→
51.6%)と回答している割合が一番増加している。(問11-1 P30 参照)
- 健康に関心がない人又はどちらともいえないと回答した人の、健康に関心がない理由につ
いては、大きな病気になったことがないが58.9%となっている。(問11-2 P31 参照)

(%)

問	設問	選択肢	今回調査	前回調査(H23)
8	健康に関する知識や情報 の入手先	家族	41.3	40.3
		友人・知人・同僚など	39.1	37.0
		会社・学校など	13.2	14.0
		保健福祉センター	3.3	4.8
		医療機関	42.0	40.3
		新聞・雑誌・本	48.6	52.4
		テレビ・ラジオ	63.1	68.9
		インターネット(携帯電話含む)	41.7	26.4
		ソーシャルネットワーキングサービス	5.8	-
		その他	1.6	1.6
10	過去1ヵ月 間の健康状 態	とても良い	9.5	-
		良い	60.9	-
		あまり良くない (高齢期(65歳以上))	23.4 (28.0)	- -
		良くない (高齢期(65歳以上))	4.0 (6.4)	- -
		健康に関心がある (青年期(15歳~24歳))	81.5 (58.7)	- -
11	健康への関 心の有無	健康に関心がない	3.3	-
		どちらともいえない	11.0	-

(%)

問	設問	選択肢	今回調査	前回調査(H23)
11-1	健康のために普段の生活で心がけていること	食べすぎない又はカロリーを制限する	46.3	35.6
		バランスよく食べる	58.2	47.5
		飲酒を控える	30.9	22.3
		たばこを吸わない	51.6	38.3
		なるべく体を動かす	60.4	49.9
		十分な睡眠をとる	50.9	48.7
		気分転換をする(ストレスを解消する)	43.8	39.8
		丁寧に歯を磨く	44.3	-
		歯間ブラシや糸ようじを使用する	34.9	24.2
		定期的に健(検)診を受ける	45.6	-
		その他	4.3	3.1
11-2	健康に関心がない理由	大きな病気にかかったことがない	58.9	-
		自分の年齢では健康に気をつけなくて良いと思っている	16.6	-
		その他	24.9	-

② 健(検)診等に関する項目について

- 過去1年間の定期健診の受診の状況を見ると、「通学先や職場で受けている」(35.2%)が多くなっている。ついで「かかりつけの医院や病院の勧めで受けている」が 22.2%, 「受けていない」が 22.1%となっている。

「受けていない」を職業別にみると、「無職」(25.8%)「主婦・主夫」(23.6%)の順に多くなっている。(問 12 P32 参照)

- がん検診受診率は、前回(H23)調査と比べ、全ての検診項目が増加しているが、「検診を受けていない」が 49.3%と一番多くなっている。

傾向として年齢が上がるごとに、「検診を受けていない」の割合が少なくなっている。また、京都市が実施するがん検診の対象年齢別に見るがん検診受診状況では、前回(H23)調査に比べ、前立腺がんを除き、検診受診率が多くなっている。(問 13 P36 参照)

- 歯科健診や歯科治療の受診状況については、青年期のうち、15～18歳では、「健診を受けた(両方とも受けたを含む)」が62.8%であるが、19～24歳では19.2%に減少している。(問 14 P38 参照)

(%)

問	設問	選択肢	今回調査	前回調査(H23)
12	過去1年間、どのように定期健診を受診したか	通学先や職場で受けている	35.2	29.3
		かかりつけの医院や病院の勧めで受けている	22.2	18.2
		受けていない	22.1	23.1
		(職業(無職))	(25.8)	-
		(職業(主婦・主夫))	(23.6)	-
		医院や病院に自分で申し込んでいる	11.3	8.2
		健(検)診機関に自分で申し込んでいる	8.2	5.6
		市役所から案内のある特定健診(メタボ健診)等を受けている	7.3	4.5
13	定期的に受けている検診	各区の保健福祉センターに自分で申し込んでいる	1.4	1.0
		検診を受けていない	49.3	-
		乳がん	29.5	18.5
		子宮がん	25.4	17.4
		胃がん	14.3	8.2
		大腸がん	14.3	8.7
		肺がん	7.0	3.1
前立腺がん	5.1	3.1		

(%)

問	設問	選択肢	今回調査	前回調査(H23)
13	京都市が実施するがん検診の対象年齢ごとの受診率	胃がん(50歳以上)	20.8	12.1
		大腸がん(40歳以上)	18.4	11.5
		肺がん(40歳以上)	8.8	4.1
		乳がん(30歳以上)	32.7	20.5
		子宮がん(20歳以上)	26.1	18.0
		前立腺がん(50歳以上)	8.1	10.7
14	歯科健診や歯科治療の受診状況	健診を受けた(両方とも受けたを含む)	28.9	-
		(15歳~18歳)	(62.8)	-
		(19歳~24歳)	(19.2)	-
		治療を受けた(両方とも受けたを含む)	41.2	-
		受けていない	38.8	-

3 「健康長寿のまち・京都」の取組に関する項目

- 「健康長寿のまち・京都」という言葉を知っている人は 25.2%だった。
年代別にみると青年期(15歳～24歳)では 10.6%であるのに対し、高齢期(65歳以上)では 37.3%となっている。(問 15 P39 参照)
- 「健康長寿のまち・京都いきいきポイント」事業の認知度は、8.7%となっている。
年代別にみると青年期(15歳～24歳)では 2.2%であるのに対し、高齢期(65歳以上)では 12.8%となっている。(問 16 P40 参照)

(%)

問	設問	選択肢	今回調査	前回調査
15	「健康長寿のまち・京都」の認知度	知っている	25.2	-
		(青年期(15歳～24歳))	(10.6)	-
		(高齢期(65歳以上))	(37.3)	-
		知らない	73.7	-
16	「健康長寿のまち・京都いきいきポイント」事業の認知度	知っている	8.7	-
		(青年期(15歳～24歳))	(2.2)	-
		(高齢期(65歳以上))	(12.8)	-
		知らなかった	79.1	-

4 身体活動・運動に関する項目

- 「「たちくらみ」や「めまい」がしたり意識を失ったことがある」など何らかの運動を阻害している要因がある人の割合が 38.6%となっている。その中で医師から身体活動に制限するよう言われている割合が高齢期(65 歳以上)で 22.0%となっている。(問 21 P49, 問 21-1 P50 参照)
- 過去 1 年間で運動の取組状況をみると、前回(H23)調査に比べ、運動を行っている人(「定期的に(週 2 回以上), 行っている」+「定期的ではないが, 行っている」)の割合が多くなっている(44.4%→52.7%)。(問 23 P52 参照)
- 運動をする目的では、「体力・健康づくり」(83.7%),「趣味・気晴らし」(61.0%)の順に多くなっている。(問 24 P57 参照)
- 運動を継続するために必要なことでは、「やる気」(79.2%),「健康」(70.0%),「時間」(65.1%)の順に多く、前回(H23)調査と同様の傾向を示している。
「運動した成果がわかること」については、50.2%が必要と考えている。(問 25 P58 参照)
- ロコモティブシンドロームについて、「言葉も意味も知らない」が 55.6%で最も多くなっている。傾向として年齢が上がるごとに、認知度が高くなる。
「言葉も意味も知らない」を年代別にみると、青年期(15 歳～24 歳)では 71.6%, 壮年期(25 歳～44 歳)では 63.8%, 中年期(45 歳～64 歳)では 57.3%, 高齢期(65 歳以上)では、46.5%と年代が上がるごとに認知度が高くなる。(問 26 P63 参照)

(%)

問	設問	選択肢	今回調査	前回調査(H23)
21	身体の不調を感じたり、医師に指摘されたことの有無	「たちくらみ」や「めまい」がしたり、意識を失ったことがある	14.6	-
		医師から足腰に障害があると言われたことがある(背柱管狭窄症や変形性膝関節症などと診断されたことがある場合も含む)	12.9	-
		医師から心臓に問題があると言われたことがある(心電図検査で「異常がある」と言われたことがある場合を含む)	12.4	-
		運動をすると息切れしたり、胸部に痛みを感じたりする	7.8	-
		運動をすると足腰の痛みが悪化する	7.1	-
		体を動かしてない時に胸部の痛みを感じたり、脈の不整を感じたりする	6.4	-
		家族に原因不明で突然亡くなった人がいる	0.9	-
		上記については該当しない	45.5	-
21-1	身体活動を制限なく行っても良いと医師から言われたか	はい	40.5	-
		いいえ (高齢期(65歳以上))	16.0 (22.0)	-
		たずねていない	38.6	-
23	運動に対する取組状況	定期的(週2回以上)、行っている	24.8	23.4
		定期的ではないが、行っている	27.9	21.0
		行っていないが、今後行うつもりである	18.4	23.3
		行っておらず、今後行うつもりはない (健康への関心がない)	15.4 (38.6)	-
		(1日のうち自由になる時間が2時間未満)	(21.6)	-
24	運動をする目的※1	体力・健康づくり	83.7	87.6
		趣味・気晴らし	61.0	65.0
		友人・仲間との交流	43.3	45.1
		家族とのふれあい	27.9	25.7
		美容・(肥満解消※2)	33.7	53.9

(%)

問	設問	選択肢	今回調査	前回調査(H23)
25	運動を継続するために必要なこと※1	時間	65.1	72.8
		場所・施設	55.5	61.9
		やる気	79.2	83.4
		指導者	25.4	30.1
		一緒にする仲間	39.1	45.8
		取り組むきっかけ	51.7	55.9
		金銭的余裕	43.1	49.0
		健康	70.0	74.6
		運動場所等に関する情報	33.6	-
		運動した成果がわかること	50.2	-
26	ロコモティブシンドロームの認知度	言葉も意味もよく知っている	7.3	-
		言葉も知っており、意味も大体知っている	11.5	-
		言葉は知っているが、意味はあまり知らない	9.5	-
		言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない	12.1	-
		言葉も意味も知らない	55.6	-
		(青年期(15歳～24歳))	(71.6)	-
		(中年期(25歳～44歳))	(63.8)	-
(壮年期(45歳～64歳))	(57.3)	-		
(高齢期(65歳以上))	(46.5)	-		

※1 「運動をする目的」、「運動を継続するために必要なこと」で「そう思う」「どちらかと言うとそう思う」の合計の割合を示している。

※2 前回調査(H23)では「肥満解消」が選択肢に含まれていたが、今回の調査では選択肢にはなっていない。

5 喫煙に関する項目

- 喫煙率は、前回(H22)調査と比べ低くなっている(17.6%→12.3%)。(問 27 P66 参照)
- 1日の喫煙本数は、「11本～20本」が43.5%と最も多く、11本以上吸っている人は59.9%となっている。(問 27-1 P69 参照)
- 喫煙者の禁煙意向については、前回(H22)調査と比べ、「本数を減らしたい」が多くなっている(28.7%→35.8%)。(問 27-2 P71 参照)
- 受動喫煙による健康への悪影響についての認識では、「強くそう思う」と「ある程度そう思う」の合計が90.4%となっている。(問 28 P73 参照)
- 飲食店等の店頭表示を施設利用時の参考にする人の割合は56.8%であった。(問 33 P78 参照)
- 受動喫煙防止対策が十分でないと思う施設としては、前回(H22)調査同様「ゲームセンター・パチンコ店等娯楽施設」が46.2%と最も多く、ついで、「飲食店」が45.8%であった。(問 34 P79 参照)
- 多数の人が利用する施設で受動喫煙防止対策として望むこととしては、「建物内禁煙」が30.7%と最も多かった。(問 35 P80 参照)
- 受動喫煙防止対策として行政に望むこととしては前回(H22)調査同様「たばこを吸う人に喫煙マナーをPRする」が41.7%と最も多く、ついで「公共施設の建物内禁煙を進める」が39.8%であった。(問 36 P81 参照)

(%)

問	設問	選択肢	今回調査	前回調査(H22)
27	喫煙状況	吸っている	12.3	17.6
		過去に吸っていたが、今はやめている	27.2	26.8
		吸ったことがない	56.3	53.5
27-1	1日あたりの喫煙本数	1本～5本	12.0	8.9
		6本～10本	27.1	19.3
		11本～20本	43.5	49.3
		21本～30本	12.7	13.6
		31本～40本	2.7	5.3
		41本以上	1.0	2.5

(%)

問	設問	選択肢	今回調査	前回調査(H22)
27-2	禁煙意向	やめたい	19.7	39.9
		本数を減らしたい	35.8	28.7
		やめたくない	21.7	18.0
		わからない	19.1	11.0
28	「受動喫煙」が健康に悪影響を及ぼすと思うか	強くそう思う	50.2	56.4
		ある程度そう思う	40.2	33.0
		あまり思わない	4.9	4.4
		まったくそう思わない	0.9	0.7
33	飲食店等の店頭表示を施設利用時の参考にするか	参考にする	56.8	69.0
		参考にしない	23.6	19.8
		わからない	12.5	8.0
34	受動喫煙防止対策が十分ではないと思う施設	保育所(認定保育園含む)・幼稚園	5.8	6.5
		小・中・高等学校	5.8	7.2
		総合支援学校	3.4	-
		大学・専門学校	6.4	10.2
		医療機関	7.8	11.3
		老人ホームなど社会福祉施設	5.0	6.3
		官公庁施設	6.0	8.1
		博物館・美術館	4.7	4.9
		体育館などスポーツ施設	6.7	9.1
		公共交通機関	12.6	20.4
		スーパー・小売店	16.0	16.2
		コンビニ	23.1	-
		百貨店	6.2	7.5
		ホテル, 旅館などの宿泊施設	17.4	19.1
		金融機関	4.3	5.2
		劇場・映画館	9.9	11.6
飲食店	45.8	54.6		
ゲームセンター・パチンコ店等娯楽施設	46.2	56.4		
公園	34.7	-		
35	多数の人が利用する施設で、どのような受動喫煙防止対策を望むか	敷地内を全て禁煙にする	19.9	21.3
		建物内は全て禁煙とし、屋外に喫煙場所を設置する	30.7	32.1
		室内に隔離された喫煙場所(室)を設置し、その場所以外は禁煙にする	27.4	25.4
		室内に喫煙できるスペースを仕切ったり、空気清浄器を設置する	7.3	9.8
		特に何もしない	3.1	1.8

(%)

問	設問	選択肢	今回調査	前回調査(H22)
36	受動喫煙防止対策のために、行政に望むこと	受動喫煙の健康への悪影響について情報提供する	37.8	39.9
		効果的な受動喫煙防止対策について情報提供する	19.7	20.8
		たばこを吸う人に喫煙マナーをPRする	41.7	46.0
		施設の禁煙や分煙がわかるように表示することを普及する	35.5	43.6
		公共施設の建物内禁煙を進める	39.8	42.4
		受動喫煙防止のための規制を進める	30.9	33.6
		その他	4.0	5.7

6 飲酒に関する項目

- 成人の飲酒状況を見ると、前回(H23)調査に比べ、飲酒をする人が少なくなっている(53.7%→50.8%)。
多量飲酒者(1日当たり純アルコール60g(日本酒では約3合)以上飲酒する人)の割合は男性が4.4%、女性が1.1%となっており、前回(H23)調査から半分以下になっている。(問 37 P83, P86 参照)
- 成人の飲酒の習慣がある人の飲酒量をみると、「1合未満」が最も多く、21.4%となっている。前回(H23)調査と比べると、「1合未満」の飲酒は少なくなっているが、「1合以上、2合未満」の飲酒が増加している。(問 37-1 P87 参照)
- 生活習慣病のリスクを高める飲酒をしている者(男性では1日当たり純アルコール40g(日本酒では約2合)以上飲酒する人、女性では1日当たり純アルコール20g(日本酒では約1合)以上飲酒する人)の割合は、男性が17.7%、女性が18.3%となっている。(問 37-1 P87 参照)
- お酒を飲む機会は、「家族と一緒に家や店で飲む」が34.5%と多くなっている。(問 37-2 P89 参照)
- お酒を飲む理由は、「お酒が好き」が40.3%と最も多い。(問 38 P92 参照)

(%)

問	設問	選択肢	今回調査	前回調査(H23)
37	飲酒状況	飲む	50.8	53.7
		やめた	2.6	2.3
		飲まない	41.3	40.6
37	多量飲酒者の割合	男性	4.4	9.1
		女性	1.1	3.2
37-1	飲酒量	1合未満	21.4	36.4
		1合以上、2合未満	16.7	8.3
		2合以上、3合未満	6.9	3.7
		3合以上、4合未満	2.3	2.1
		4合以上、5合未満	0.9	3.3
		5合以上	0.9	-
		飲まない・やめた	43.9	42.9
37-1	生活習慣病のリスクを高める飲酒量	男性	17.7	-
		女性	18.3	-

(%)

問	設問	選択肢	今回調査	前回調査(H23)
37-2	飲酒する機会が多い場面	職場の宴会, 行事等(忘年会, 送別会, 懇親会など)	7.3	-
		同僚, 知人, 友人との飲酒	16.8	-
		家族と一緒に家や店で飲む	34.5	-
		一人で家や店で飲む	28.4	-
		その他	1.7	-
38	お酒を飲む理由	お酒が好き	40.3	42.0
		場の雰囲気	23.2	27.9
		つきあい・上司の勧め等	16.3	18.7
		ストレス解消のため	19.2	22.7
		寝付きをよくするため	6.6	11.6

※上記表では, 前回調査との比較を行うため, 第3章の当該設問とは異なる方法を用いて割合を算出している。各設問は以下の点で算出方法が異なる。

問 37 飲酒状況 第3章では, 回答者全員を母数とし, 飲酒状況を算出しているのに対し, 上記表では, 20歳以上の人を母数とし, 飲酒状況を示している。

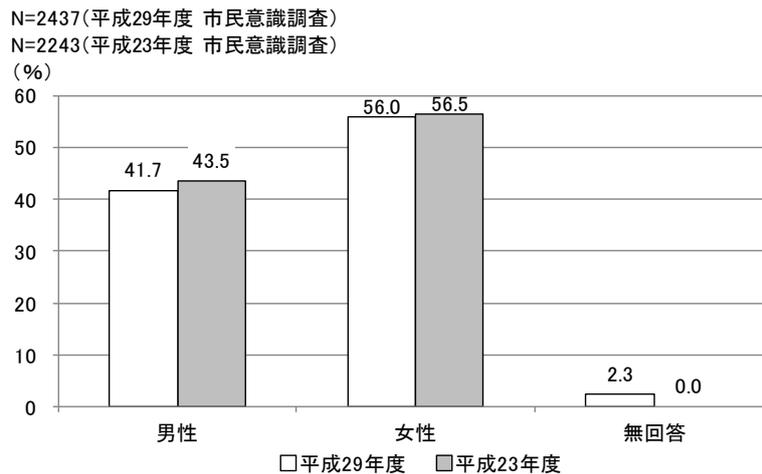
問 37-1 飲酒量 第3章では, 定期的に飲酒をする人を母数としており, 「飲まない・やめた」は母数に含まれていない。一方で上記表では, 20歳以上の人を母数とし, 飲酒量を示している。

第3章 調査結果

1 基礎項目

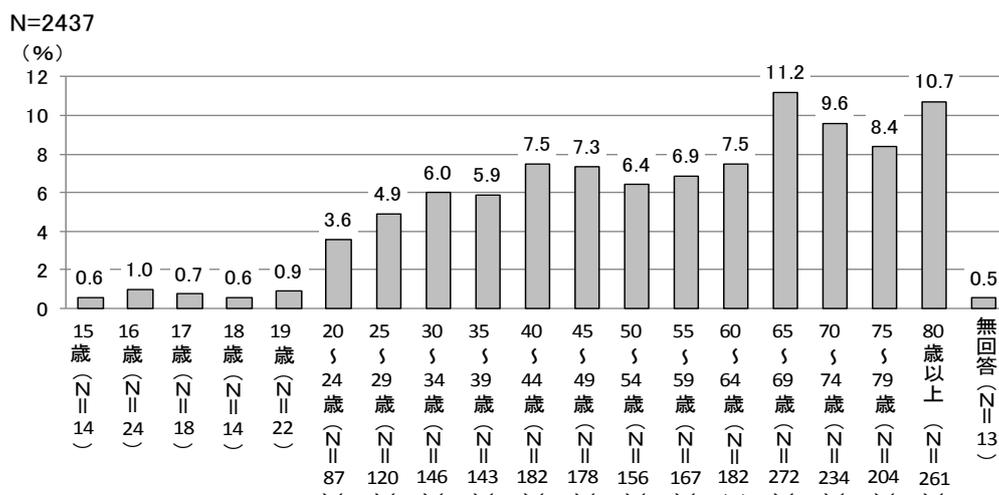
問1 あなたの性別はどちらですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「女性」が 56.0%、「男性」が 41.7%となっている。



問2 あなたの平成29年5月1日現在の年齢はいくつですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

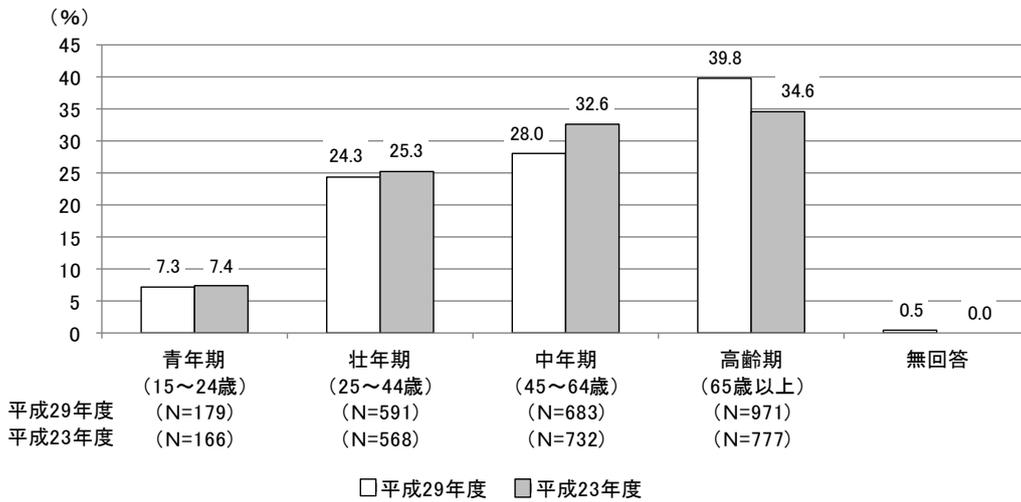
「65～69歳」が 11.2%と最も多く、ついで「80歳以上」が 10.7%、「70～74歳」が 9.6%となっている。



【年代別にみる回答者属性】

「青年期」と「壮年期」では概ね同じ割合となっている。中年期では前回(H23)調査よりもやや減少した一方で「高齢期」の割合が増加している。

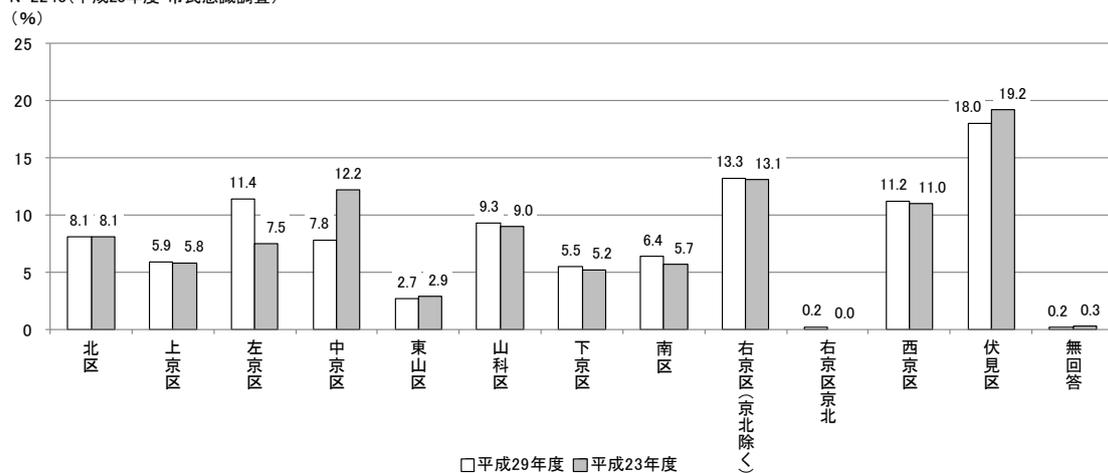
N=2437(平成29年度 市民意識調査)
N=2243(平成23年度 市民意識調査)



問3 あなたのお住まいの行政区はどちらですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「伏見区」が18.0%と最も多く、ついで「右京区(京北除く)」が13.3%、「左京区」が11.4%となっている。

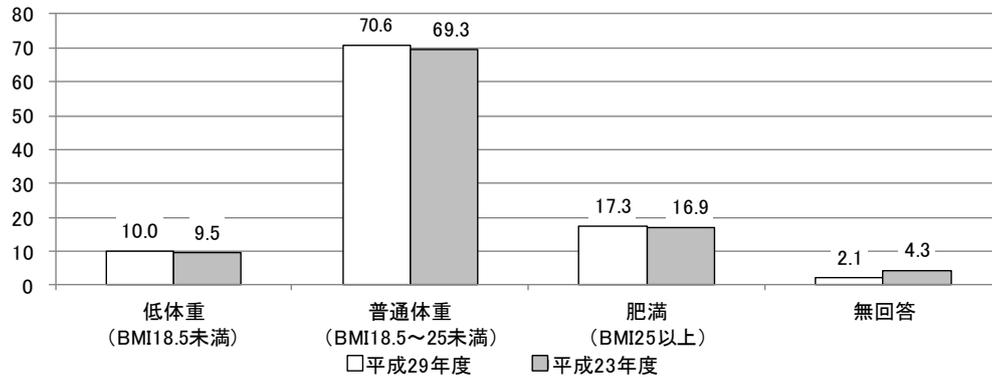
N=2437(平成29年度 市民意識調査)
N=2243(平成23年度 市民意識調査)



問4 あなたの身長及び体重をお教え下さい(小数点第1位まで記入してください)。

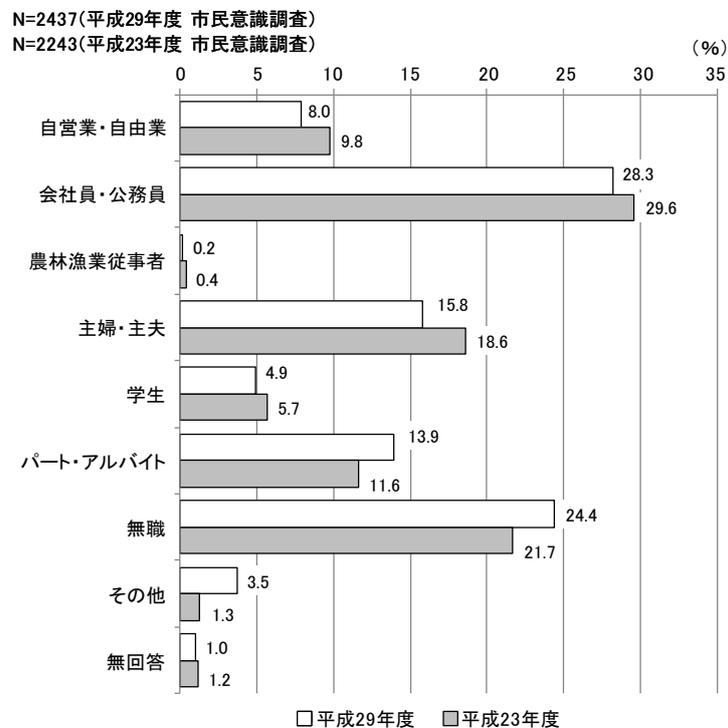
「普通体重」が70.6%と最も多く、ついで「肥満」が17.3%、「低体重」が10.0%となっている。前回(H23)調査と概ね同じ傾向となっている。

N=2437(平成29年度 市民意識調査)
N=2243(平成23年度 市民意識調査)
(%)



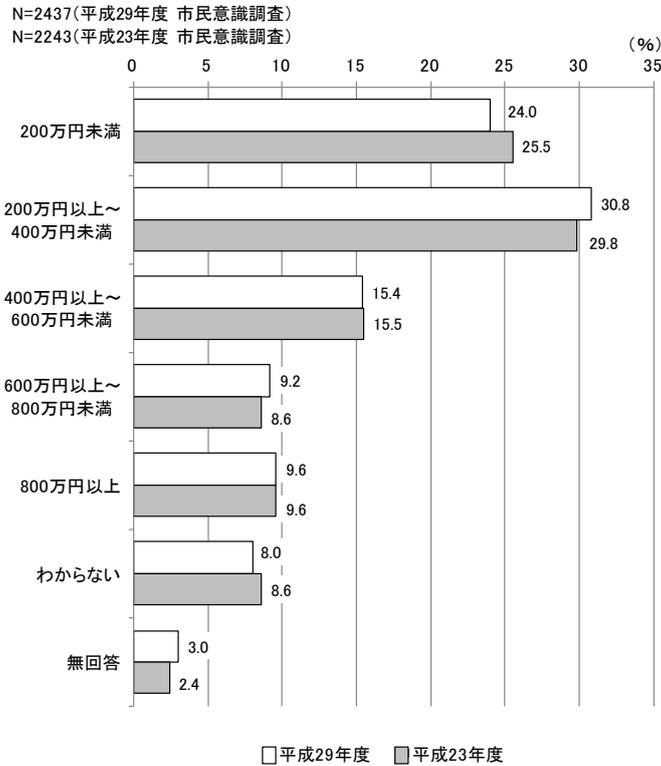
問5 あなたの現在の職業は次のうちどれですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「会社員・公務員」が28.3%と最も多く、ついで「無職」が24.4%、「主婦・主夫」が15.8%となっている。前回(H23)調査と比較すると大きな差はみられない。



問6 あなたの世帯の過去1年間の所得はどれくらいですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「200万円以上～400万円未満」が30.8%と最も多く、ついで「200万円未満」が24.0%、「400万円以上～600万円未満」が15.4%となっている。概ね前回(H23)調査と同じ傾向を示している。



【年代別にみる所得】

高齢期では、400万円未満が75.3%となっている。

(単位: %)

	合計	200万円未満	200万円以上～400万円未満	400万円以上～600万円未満	600万円以上～800万円未満	800万円以上	わからない	無回答
全体	(N=2437)	24.0	30.8	15.4	9.2	9.6	8.0	3.0
青年期(15～24歳)	(N=179)	19.0	19.0	7.3	4.5	12.3	35.8	2.2
壮年期(25～44歳)	(N=591)	12.2	29.3	26.7	13.0	10.7	6.6	1.5
中年期(45～64歳)	(N=683)	18.2	24.3	17.1	17.3	17.4	4.7	1.0
高齢期(65歳以上)	(N=971)	36.4	38.9	8.9	2.3	2.9	6.2	4.5

【性別にみる所得】

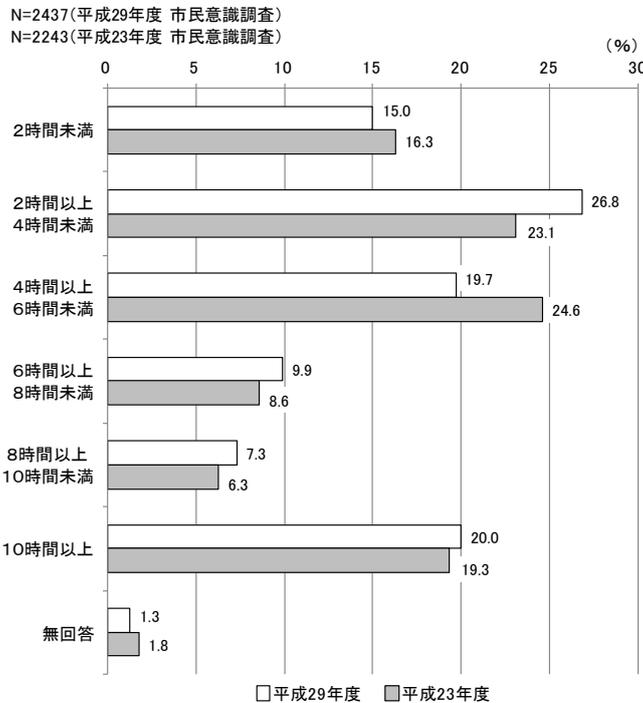
女性では「200万円未満」が27.9%となっており、男性よりも10%程度多くなっている。

(単位: %)

	合計	200万円未満	200万円以上～400万円未満	400万円以上～600万円未満	600万円以上～800万円未満	800万円以上	わからない	無回答
全体	(N=2437)	24.0	30.8	15.4	9.2	9.6	8.0	3.0
男性	(N=1016)	17.8	34.3	17.7	10.8	10.9	6.4	2.1
女性	(N=1365)	27.9	28.4	14.1	8.4	8.8	9.3	3.2

問7 1日のうちあなたの自由になる時間はどのくらいですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「2時間以上4時間未満」が26.8%と最も多く、ついで「10時間以上」が20.0%、「4時間以上6時間未満」が19.7%となっている。前回(H23)調査と比較すると、「2時間以上4時間未満」で多くなっている一方で、「4時間以上6時間未満」で少なくなっている。



【年代別にみる自由になる時間】

青年期から中年期では、「2時間以上4時間未満」が3割半ばで最も多くなっているが、高齢期では、「10時間以上」が最も多くなっている。

(単位: %)

	合計	2時間未満	2時間以上4時間未満	4時間以上6時間未満	6時間以上8時間未満	8時間以上10時間未満	10時間以上	無回答
全体	(N=2437)	15.0	26.8	19.7	9.9	7.3	20.0	1.3
青年期(15~24歳)	(N=179)	12.3	34.1	24.0	11.2	6.7	10.6	1.1
壮年期(25~44歳)	(N=591)	31.8	33.3	19.0	5.6	3.2	6.9	0.2
中年期(45~64歳)	(N=683)	15.8	37.8	21.4	7.8	4.7	12.0	0.6
高齢期(65歳以上)	(N=971)	4.6	14.1	18.5	13.8	11.7	35.3	1.9

【性別にみる自由になる時間】

男性・女性ともに「2時間以上4時間未満」が最も多くなっており、性別による大きな違いはみられない。

(単位: %)

	合計	2時間未満	2時間以上4時間未満	4時間以上6時間未満	6時間以上8時間未満	8時間以上10時間未満	10時間以上	無回答
全体	(N=2437)	15.0	26.8	19.7	9.9	7.3	20.0	1.3
男性	(N=1016)	14.8	27.5	18.8	9.2	7.7	21.6	0.6
女性	(N=1365)	15.4	27.0	20.8	10.2	6.7	18.3	1.5

【高齢期の自由になる時間】

性別による大きな違いはみられないが、「10時間以上」において、男性の方が女性よりも多くなっている。

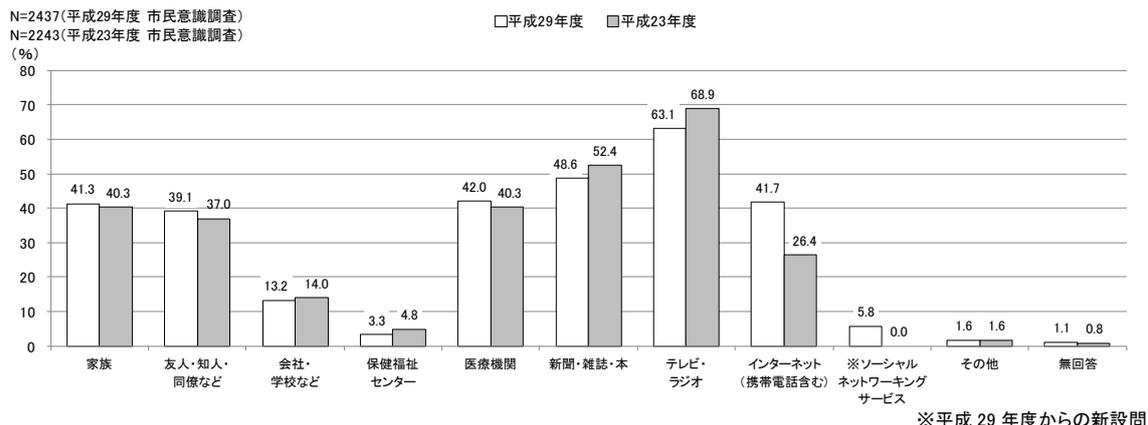
(単位: %)

	合計	2時間未満	2時間以上4時間未満	4時間以上6時間未満	6時間以上8時間未満	8時間以上10時間未満	10時間以上	無回答	
高齢期(65歳以上)	全体	(N=971)	4.6	14.1	18.5	13.8	11.7	35.3	1.9
	男性	(N=398)	3.3	12.6	17.3	14.3	12.8	39.4	0.3
	女性	(N=530)	5.7	15.7	19.8	12.8	10.8	32.1	3.2

2 健康状態、健(検)診等に関する項目

問8 あなたは健康に関する知識や情報をどこから得ていますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。「10 その他」の場合は、具体的な内容等をお書きください。

「テレビ・ラジオ」が63.1%と最も多く、ついで「新聞・雑誌・本」が48.6%、「医療機関」が42.0%となっている。なお、前回(H23)調査よりも「インターネット」の割合が15%以上増加している。



【年代別にみる健康に関する知識や情報の獲得媒体】

青年期と壮年期では、インターネットを介して健康に関する知識や情報を得ている人が60%以上となっている。一方で中年期と高齢期では、テレビ・ラジオから健康に関する知識や情報を得ている人が多くなっている。また、高齢期になると、医療機関から知識や情報を得ている人も多く、50%以上となっている。

(単位: %)

	合計	家族	友人・知人・同僚など	会社・学校など	保健福祉センター	医療機関	新聞・雑誌・本
全体 (N=2437)		41.3	39.1	13.2	3.3	42.0	48.6
青年期(15~24歳) (N=179)		53.6	29.1	38.5	0.6	17.3	19.0
壮年期(25~44歳) (N=591)		46.0	42.3	19.8	1.5	25.5	37.7
中年期(45~64歳) (N=683)		36.3	43.0	16.3	1.6	42.6	56.4
高齢期(65歳以上) (N=971)		39.8	36.4	2.6	6.1	56.3	55.6

	合計	テレビ・ラジオ	インターネット(携帯電話含む)	ソーシャルネットワーキングサービス	その他	無回答
全体 (N=2437)		63.1	41.7	5.8	1.6	1.1
青年期(15~24歳) (N=179)		54.7	61.5	15.1	0.6	0.6
壮年期(25~44歳) (N=591)		58.2	68.5	12.4	1.7	0.7
中年期(45~64歳) (N=683)		67.3	54.8	4.4	1.6	0.1
高齢期(65歳以上) (N=971)		64.8	12.6	1.0	2.0	2.0

【性別にみる健康に関する知識や情報の獲得媒体】

男性・女性ともに「テレビ・ラジオ」が最も多くなっているが、女性が69.0%であるのに対し、男性は55.8%となっている。また、「友人・知人・同僚など」から情報を得る割合をみると、女性は47.3%であるのに対し、男性は28.7%となっており、性別による健康に関する知識や情報を得る方法に差がみられる。

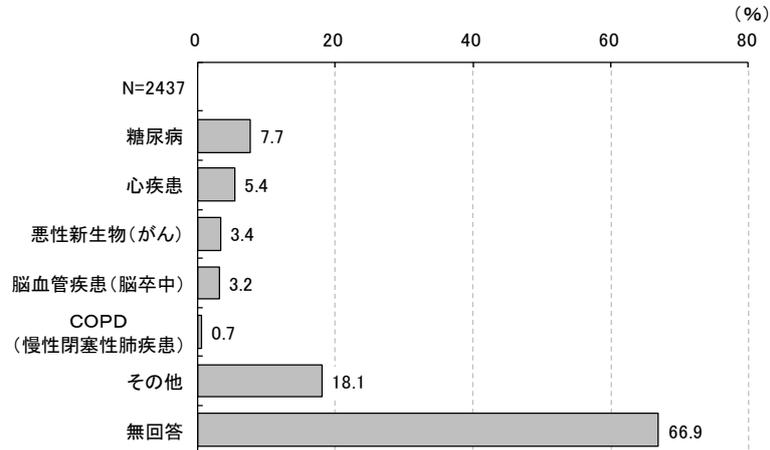
(単位:%)

	合計	家族	友人・知人・同僚など	会社・学校など	保健福祉センター	医療機関	新聞・雑誌・本
全体	(N=2437)	41.3	39.1	13.2	3.3	42.0	48.6
男性	(N=1016)	44.5	28.7	15.1	2.8	42.7	42.7
女性	(N=1365)	39.0	47.3	12.2	3.6	41.8	53.3

	合計	テレビ・ラジオ	インターネット(携帯電話含む)	ソーシャルネットワーキングサービス	その他	無回答
全体	(N=2437)	63.1	41.7	5.8	1.6	1.1
男性	(N=1016)	55.8	44.5	5.9	0.9	0.7
女性	(N=1365)	69.0	40.9	5.8	2.2	1.0

問9 平均寿命の延びに合わせ、病気全体に占める生活習慣病の割合が増加しています。あなたは何らかの生活習慣病を抱えておられますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。「6 その他」の場合は、具体的な内容等をお書きください。

「糖尿病」が7.7%と最も多く、ついで「心疾患」が5.4%、「悪性新生物(がん)」が3.4%となっている。



【年代別にみる生活習慣病の罹患状況】

年代が上がるにつれて、生活習慣病の罹患者の割合も増加している。

(単位: %)

	合計	糖尿病	心疾患	悪性新生物(がん)	脳血管疾患(脳卒中)	COPD(慢性閉塞性肺疾患)	その他	無回答
全体 (N=2437)		7.7	5.4	3.4	3.2	0.7	18.1	66.9
青年期(15~24歳) (N=179)		0.0	0.6	0.6	0.0	0.0	5.6	93.3
壮年期(25~44歳) (N=591)		2.7	1.0	1.2	0.7	0.3	4.1	91.0
中年期(45~64歳) (N=683)		4.8	2.0	3.7	1.5	0.7	15.8	73.4
高齢期(65歳以上) (N=971)		14.1	11.4	4.9	6.5	0.9	30.6	42.8

【性別にみる生活習慣病の罹患状況】

男性の「糖尿病」に罹患している割合が、女性よりも多くなっている。

(単位: %)

	合計	糖尿病	心疾患	悪性新生物(がん)	脳血管疾患(脳卒中)	COPD(慢性閉塞性肺疾患)	その他	無回答
全体 (N=2437)		7.7	5.4	3.4	3.2	0.7	18.1	66.9
男性 (N=1016)		11.2	6.9	4.0	4.4	1.2	18.0	61.5
女性 (N=1365)		5.0	4.3	2.9	2.2	0.3	17.6	71.5

【BMI別にみる生活習慣病の罹患状況】

「肥満」では、糖尿病の割合が16.2%と多くなっている。

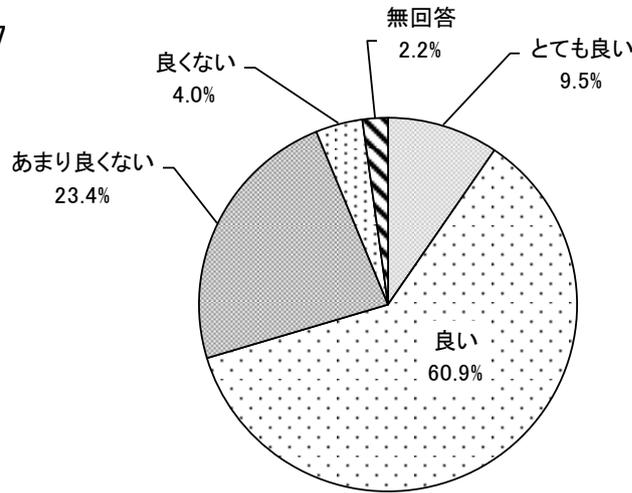
(単位: %)

	合計	糖尿病	心疾患	悪性新生物(がん)	脳血管疾患(脳卒中)	COPD(慢性閉塞性肺疾患)	その他	無回答
全体 (N=2437)		7.7	5.4	3.4	3.2	0.7	18.1	66.9
低体重 (N=243)		3.7	6.2	4.5	3.7	0.4	14.8	71.6
普通体重 (N=1721)		6.0	4.9	3.0	3.0	0.7	17.8	69.2
肥満 (N=421)		16.2	7.4	4.3	4.0	0.7	21.4	53.9

問 10 全体的に見て、過去1ヵ月間のあなたの健康状態はいかがでしたか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「良い」が 60.9%と最も多く、ついで「あまり良くない」が 23.4%、「とても良い」が 9.5%となっている。

N=2437



【年代別にみる過去1ヵ月間の健康状態】

各年代とも「とても良い」、「良い」の割合が多いが、高齢期では「あまり良くない」、「良くない」の割合が 34.4%と多くなる。

(単位: %)

	合計	とても良い	良い	あまり良くない	良くない	無回答
全体	(N=2437)	9.5	60.9	23.4	4.0	2.2
青年期(15~24歳)	(N=179)	19.6	64.8	15.1	0.6	0.0
壮年期(25~44歳)	(N=591)	11.2	65.0	20.3	2.7	0.8
中年期(45~64歳)	(N=683)	8.2	65.7	22.0	2.8	1.3
高齢期(65歳以上)	(N=971)	7.3	54.8	28.0	6.4	3.5

【性別にみる過去1ヵ月間の健康状態】

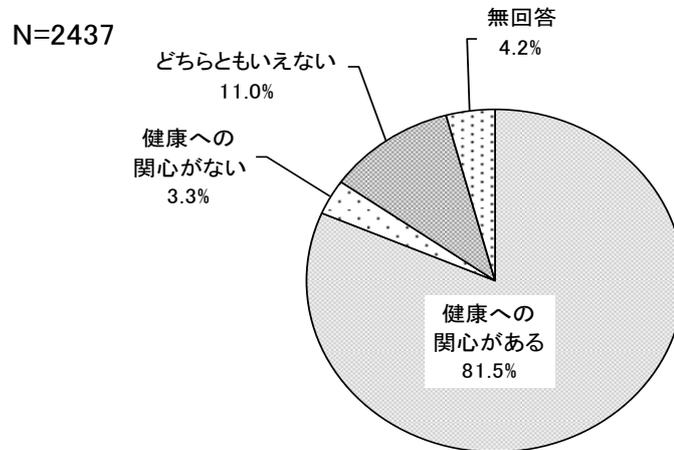
男性・女性ともに「良い」が 60%を超えており、最も多くなっている。その他の項目についても、男性・女性とも同様の傾向を示しており、性別による違いはみられない。

(単位: %)

	合計	とても良い	良い	あまり良くない	良くない	無回答
全体	(N=2437)	9.5	60.9	23.4	4.0	2.2
男性	(N=1016)	10.2	62.6	21.5	4.2	1.5
女性	(N=1365)	9.2	60.1	24.6	3.7	2.4

問 11 あなたは健康について関心がありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「健康への関心がある」が81.5%と最も多く、ついで「どちらともいえない」が11.0%、「健康への関心がない」が3.3%となっている。



【年代別にみる健康についての関心度】

健康についての関心については、各年代とも「健康への関心がある」が最も多くなっている。壮年期から高齢期では80%以上が「健康への関心がある」としているのに対し、青年期では58.7%と少なくなっている。若い年代では、比較的関心が薄いことがうかがえる。

(単位:%)

	合計	健康への関心がある	健康への関心がない	どちらともいえない	無回答
全体	(N=2437)	81.5	3.3	11.0	4.2
青年期(15~24歳)	(N=179)	58.7	11.7	27.9	1.7
壮年期(25~44歳)	(N=591)	80.4	4.7	13.7	1.2
中年期(45~64歳)	(N=683)	86.5	1.8	9.8	1.9
高齢期(65歳以上)	(N=971)	83.2	2.0	7.1	7.7

【性別にみる健康についての関心度】

性別にかかわらず「健康への関心がある」が約80%と多くなっている。

(単位:%)

	合計	健康への関心がある	健康への関心がない	どちらともいえない	無回答
全体	(N=2437)	81.5	3.3	11.0	4.2
男性	(N=1016)	79.1	5.2	11.8	3.8
女性	(N=1365)	83.7	1.9	10.5	3.9

【職業別にみる健康についての関心度】

「学生」を除く職業で「健康への関心がある」が80%を超え、最も多くなっている。「学生」では、60.8%と他よりも約20%少なくなっている。

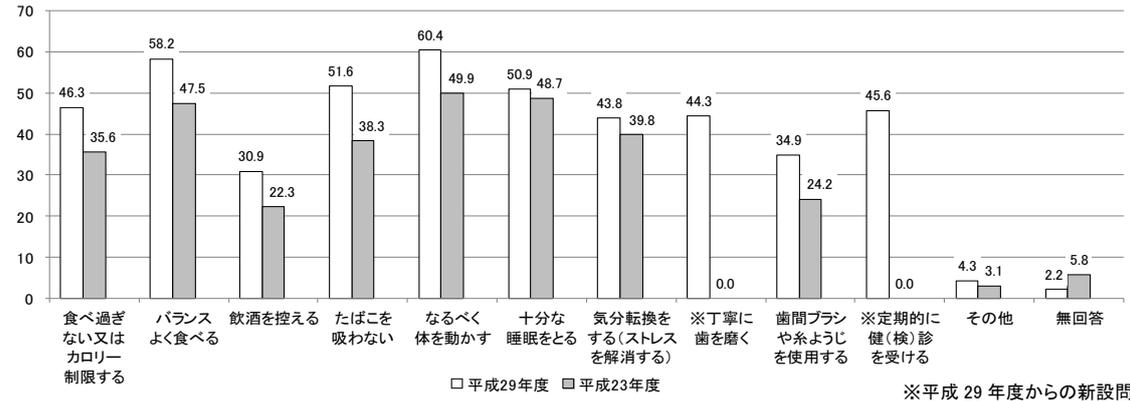
(単位:%)

	合計	健康への関心がある	健康への関心がない	どちらともいえない	無回答
全体	(N=2435)	81.5	3.3	11.0	4.2
自営業・自由業	(N=193)	80.8	3.1	11.4	4.7
会社員・公務員	(N=687)	80.9	4.7	13.0	1.5
農林漁業従事者	(N=6)	100.0	0.0	0.0	0.0
主婦・主夫	(N=384)	88.8	1.0	6.8	3.4
学生	(N=120)	60.8	13.3	23.3	2.5
パート・アルバイト	(N=337)	84.0	2.1	10.7	3.3
無職	(N=595)	80.3	2.2	9.6	7.9
その他	(N=89)	86.5	2.2	9.0	2.2

問 11-1 問11で、「1 ある」に○をつけた方にお聞きします。健康のために普段の生活で心がけていることはありますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。「11 その他」の場合は、具体的な内容等をお書きください。

「なるべく体を動かす」が60.4%と最も多く、ついで「バランスよく食べる」が58.2%、「たばこを吸わない」が51.6%となっており、前回(H23)調査と比べ、増えている。

N=1985(平成29年度 市民意識調査)
N=2243(平成23年度 市民意識調査)
(%)



【性別・年代別にみる健康のために普段の生活で心がけていること】

男性では、各年代とも「なるべく体を動かす」が最も多くなっている。女性では、青年期～中年期では、「バランスよく食べる」が最も多くなっている。また、男性・女性とも年代が上がるにつれて「定期的な健康診断を受ける」が多くなる。

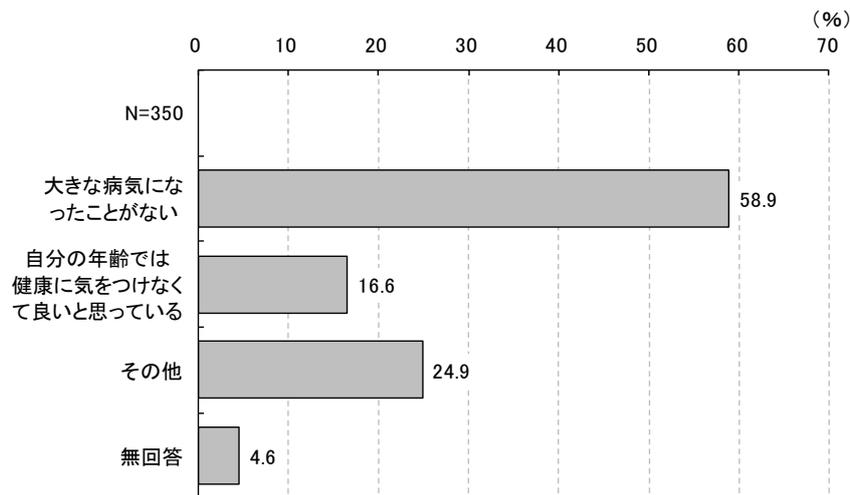
(単位: %)

	合計	食べ過ぎない又はカロリー制限する	バランスよく食べる	飲酒を控える	たばこを吸わない	なるべく体を動かす	十分な睡眠をとる
男性	全体 (N=804)	44.5	47.4	34.8	55.2	64.1	47.6
	青年期(15～24歳) (N=46)	30.4	50.0	19.6	41.3	60.9	37.0
	壮年期(25～44歳) (N=169)	42.0	44.4	30.2	49.1	58.0	43.2
	中年期(45～64歳) (N=252)	48.0	49.6	31.3	50.8	61.9	46.4
	高齢期(65歳以上) (N=336)	44.9	47.0	42.0	63.7	69.3	52.4
女性	全体 (N=1143)	47.6	66.0	28.3	48.9	57.1	53.4
	青年期(15～24歳) (N=58)	46.6	58.6	22.4	55.2	32.8	53.4
	壮年期(25～44歳) (N=305)	41.3	61.6	25.9	53.4	49.5	48.2
	中年期(45～64歳) (N=336)	46.1	68.2	33.6	50.9	52.7	50.6
	高齢期(65歳以上) (N=440)	53.2	68.2	26.8	43.0	68.9	59.1

	合計	気分転換をする(ストレスを解消する)	丁寧に歯を磨く	歯間ブラシや糸ようじを使用する	定期的に健(検)診を受ける	その他	無回答
男性	全体 (N=804)	36.4	34.5	25.7	44.9	4.0	2.1
	青年期(15～24歳) (N=46)	41.3	39.1	13.0	8.7	2.2	6.5
	壮年期(25～44歳) (N=169)	42.0	31.4	26.6	28.4	3.6	2.4
	中年期(45～64歳) (N=252)	36.5	31.3	26.6	44.8	2.8	2.4
	高齢期(65歳以上) (N=336)	33.0	37.8	26.2	58.0	5.4	1.2
女性	全体 (N=1143)	49.4	51.1	41.7	45.6	4.3	2.4
	青年期(15～24歳) (N=58)	51.7	44.8	15.5	6.9	1.7	0.0
	壮年期(25～44歳) (N=305)	48.5	42.3	33.8	27.2	3.3	2.6
	中年期(45～64歳) (N=336)	53.3	50.0	47.9	55.7	3.9	2.4
	高齢期(65歳以上) (N=440)	46.8	58.9	45.9	55.7	5.7	2.5

問 11-2 問11で、「2 ない」又は「3 どちらともいえない」に○をつけた方にお聞きします。健康に関心がない理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。「3 その他」の場合は、具体的な内容等をお書きください。

「大きな病気になったことがない」が58.9%と最も多く、ついで「その他」が24.9%、「自分の年齢では健康に気をつけなくて良いと思っている」が16.6%となっている。



【年代別にみる健康に関心がない理由】

健康に関心がない理由として「大きな病気になったことがない」が各年代とも最も多くなっている。また、青年期では、「自分の年齢では健康に気をつけなくて良いと思っている」が25.4%と多くなっている。

(単位: %)

	合計	大きな病気になったことがない	自分の年齢では健康に気をつけなくて良いと思っている	その他	無回答
全体	(N=350)	58.9	16.6	24.9	4.6
青年期(15~24歳)	(N=71)	62.0	25.4	15.5	2.8
壮年期(25~44歳)	(N=109)	65.1	16.5	22.9	3.7
中年期(45~64歳)	(N=79)	57.0	3.8	36.7	2.5
高齢期(65歳以上)	(N=88)	51.1	19.3	23.9	9.1

【性別にみる健康に関心がない理由】

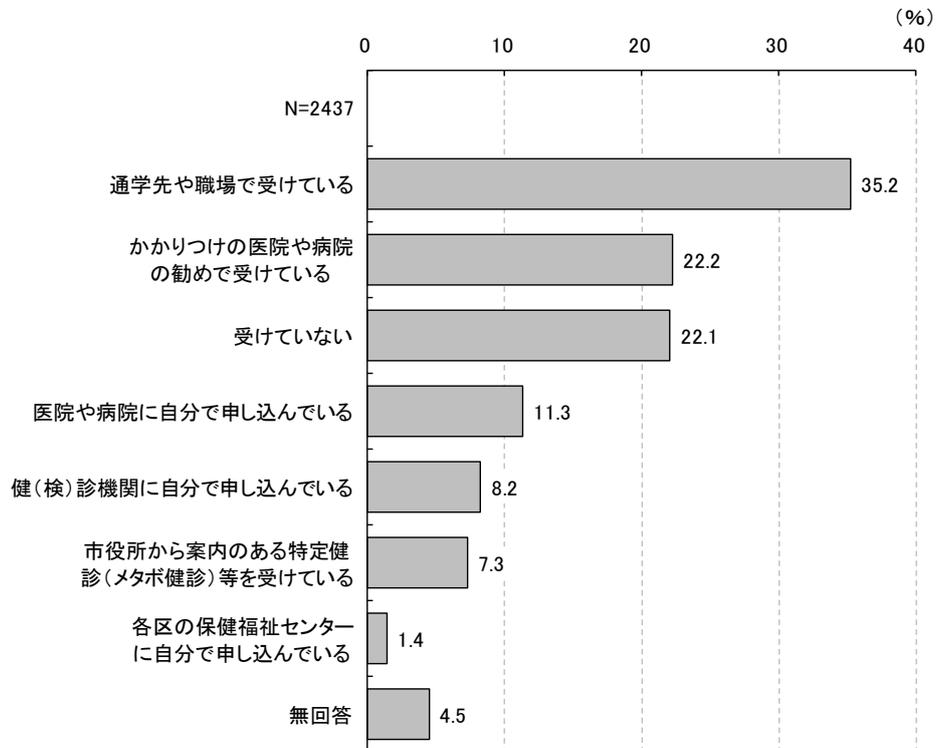
男性・女性ともに「大きな病気になったことがない」が最も多くなっている。また、男性では、「自分の年齢では健康に気をつけなくて良いと思っている」が20.8%となっている。

(単位: %)

	合計	大きな病気になったことがない	自分の年齢では健康に気をつけなくて良いと思っている	その他	無回答
全体	(N=350)	58.9	16.6	24.9	4.6
男性	(N=173)	62.4	20.8	17.9	4.6
女性	(N=169)	55.0	13.0	31.4	4.1

問 12 あなたは、この1年の間に定期健診をどのようにして受けられましたか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

「通学先や職場で受けている」が35.2%と最も多く、ついで「かかりつけの医院や病院の勧めで受けている」が22.2%、「受けていない」が22.1%となっている。



【年代別にみる定期健診の受診状況】

青年期から中年期では「通学先や職場で受けている」が最も多くなっている。高齢期では、「かかりつけの医院や病院の勧めで受けている」が最も多い。また、各年代とも「受けていない」が約2割から3割程度となっている。

(単位:%)

	合計	通学先や職場で受けている	かかりつけの医院や病院の勧めで受けている	受けていない	医院や病院に自分で申し込んでいる	健(検)診機関に自分で申し込んでいる	市役所から案内のある特定健診(メタボ健診)等を受けている	各区の保健福祉センターに自分で申し込んでいる	無回答
全体	(N=2437)	35.2	22.2	22.1	11.3	8.2	7.3	1.4	4.5
青年期(15~24歳)	(N=179)	75.4	1.7	19.6	0.6	0.0	0.6	0.6	1.7
壮年期(25~44歳)	(N=591)	58.0	4.6	28.4	6.3	5.1	1.5	0.8	1.5
中年期(45~64歳)	(N=683)	45.8	12.9	20.6	11.0	13.0	5.4	0.9	3.2
高齢期(65歳以上)	(N=971)	6.7	43.5	19.8	16.6	8.3	13.4	2.3	7.1

【性別にみる定期健診の受診状況】

男性・女性ともに「通学先や職場で受けている」が最も多いが、男性が女性よりも10%以上多くなっている。また、女性では「受けていない」が25.1%と多くなっている。

(単位:%)

	合計	通学先や職場で受けている	かかりつけの医院や病院の勧めで受けている	受けていない	医院や病院に自分で申し込んでいる	健(検)診機関に自分で申し込んでいる	市役所から案内のある特定健診(メタボ健診)等を受けている	各区の保健福祉センターに自分で申し込んでいる	無回答
全体	(N=2437)	35.2	22.2	22.1	11.3	8.2	7.3	1.4	4.5
男性	(N=1016)	43.3	19.9	18.7	11.2	6.5	5.8	0.8	4.4
女性	(N=1365)	30.3	23.2	25.1	11.3	9.4	8.4	1.8	4.2

【定期健診の受診状況別にみる職業】

「受けていない」で「主婦・主夫」や「無職」の割合が多くなっており、25%前後となっている。また、「市役所から案内のある特定健診等を受けている」では、「無職」が多くなっており、44.6%となっている。

(単位:%)

	合計	自営業・自由業	会社員・公務員	農林漁業従事者	主婦・主夫	学生
全体	(N=2437)	7.9	28.2	0.2	15.8	4.9
通学先や職場で受けている	(N=858)	2.2	64.6	0.0	1.9	10.6
かかりつけの医院や病院の勧めで受けている	(N=542)	11.1	7.2	0.7	18.6	0.0
受けていない	(N=538)	12.5	10.4	0.4	23.6	4.8
医院や病院に自分で申し込んでいる	(N=276)	10.1	12.3	0.0	25.4	0.4
健(検)診機関に自分で申し込んでいる	(N=201)	9.0	16.4	0.0	26.4	0.0
市役所から案内のある特定健診(メタボ健診)等を受けている	(N=177)	10.7	2.8	0.0	29.9	0.0
各区の保健福祉センターに自分で申し込んでいる	(N=34)	8.8	5.9	0.0	38.2	0.0

	合計	パート・アルバイト	無職	その他	無回答
全体	(N=2437)	13.9	24.4	3.7	1.0
通学先や職場で受けている	(N=858)	15.3	1.2	4.2	0.1
かかりつけの医院や病院の勧めで受けている	(N=542)	9.4	48.2	3.7	1.1
受けていない	(N=538)	18.0	25.8	3.3	1.1
医院や病院に自分で申し込んでいる	(N=276)	12.7	35.1	2.9	1.1
健(検)診機関に自分で申し込んでいる	(N=201)	18.4	23.4	6.0	0.5
市役所から案内のある特定健診(メタボ健診)等を受けている	(N=177)	10.2	44.6	0.6	1.1
各区の保健福祉センターに自分で申し込んでいる	(N=34)	14.7	32.4	0.0	0.0

【所得別にみる定期健診の受診状況】

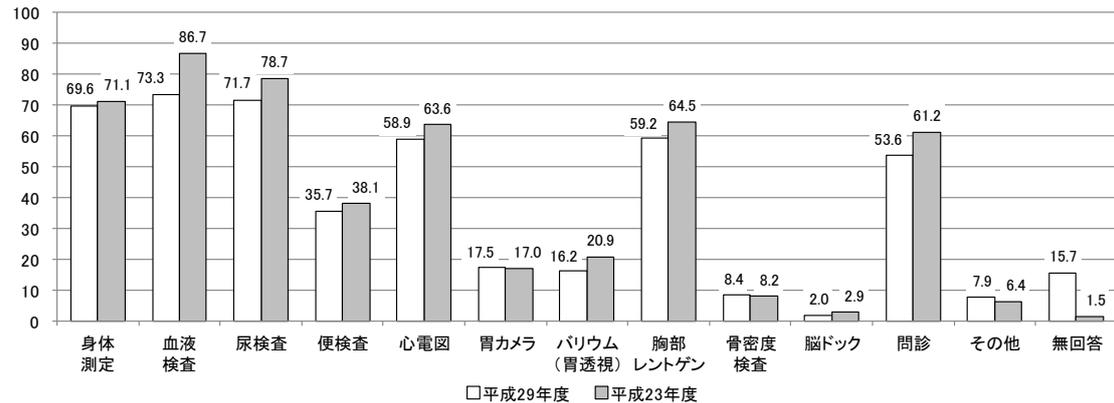
所得が多くなるほど、「受けていない」の割合が少なくなっている。

	合計	通学先や職場で受けている	かかりつけの医院や病院の勧めで受けている	受けていない	医院や病院に自分で申し込んでいる	健(検)診機関に自分で申し込んでいる	市役所から案内のある特定健診(メタボ健診)等を受けている	各区の保健福祉センターに自分で申し込んでいる	無回答
全体	(N=2437)	35.2	22.2	22.1	11.3	8.2	7.3	1.4	4.5
200万円未満	(N=585)	14.7	34.4	26.0	13.2	6.8	12.0	1.5	5.5
200万円以上～400万円未満	(N=751)	32.1	25.4	21.6	13.0	9.3	8.4	1.9	3.9
400万円以上～600万円未満	(N=375)	52.5	12.8	19.2	7.7	7.2	4.0	1.3	3.2
600万円以上～800万円未満	(N=225)	52.9	12.9	18.7	8.9	11.1	2.7	1.3	2.2
800万円以上	(N=233)	55.8	7.3	17.2	12.9	11.2	5.2	0.0	3.0
わからない	(N=196)	39.3	18.9	26.0	5.6	4.1	4.6	1.0	5.6

問 12-1 問12で「2 通学先や職場で受けている」～「7 各区の保健福祉センターに自分で申し込んでいる」に○をつけた方にお聞きます。各健診で受けている検査はどのようなものですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。「12 その他」の場合は、具体的な内容等をお書きください。

「血液検査」が73.3%と最も多く、ついで「尿検査」が71.7%、「身体測定」が69.6%となっている。

N=1792(平成29年度 市民意識調査)
N=1499(平成23年度 市民意識調査)
(%)



【年代別にみる各健(検)診での受診内容】

青年期と壮年期では「身体測定」が最も多く、9割以上となっている。中年期と高齢期では「血液検査」が最も多くなっている。

(単位: %)

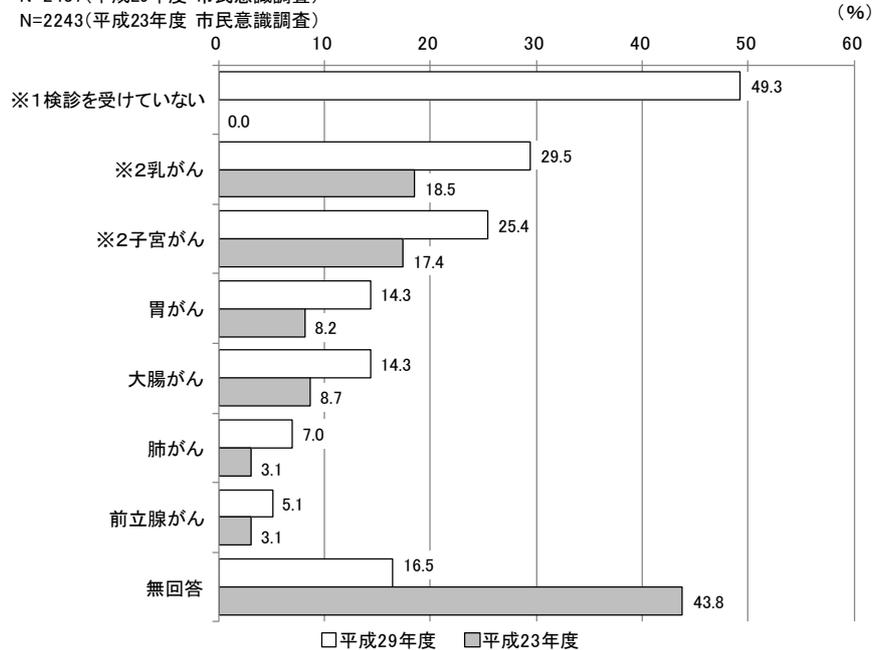
	合計	身体測定	血液検査	尿検査	便検査	心電図	胃カメラ	バリウム(胃透視)
全体	(N=1792)	69.6	73.3	71.7	35.7	58.9	17.5	16.2
青年期(15~24歳)	(N=141)	93.6	31.9	90.1	14.9	45.4	1.4	2.1
壮年期(25~44歳)	(N=414)	90.6	83.6	87.4	35.3	63.3	8.7	19.3
中年期(45~64歳)	(N=520)	81.5	87.3	81.9	58.3	72.7	23.7	31.5
高齢期(65歳以上)	(N=712)	43.8	65.3	51.4	23.7	48.7	21.2	6.0

	合計	胸部レントゲン	骨密度検査	脳ドック	問診	その他	無回答
全体	(N=1792)	59.2	8.4	2.0	53.6	7.9	15.7
青年期(15~24歳)	(N=141)	48.9	0.0	0.0	39.0	5.7	3.5
壮年期(25~44歳)	(N=414)	74.2	2.9	1.2	71.7	7.5	4.3
中年期(45~64歳)	(N=520)	73.1	6.5	2.3	68.5	9.8	9.6
高齢期(65歳以上)	(N=712)	42.3	14.5	2.4	35.1	7.0	29.4

問 13 あなたががん検診で、定期的に受けている検診すべてに○をつけてください。

いずれのがん検診でも前回(H23)調査を上回っており、特に「乳がん」では 10%以上多くなっている。一方、「検診を受けていない」が 49.3%と最も多くなっている。

N=2437(平成29年度 市民意識調査)
N=2243(平成23年度 市民意識調査)



□平成29年度 □平成23年度

※1 平成23年度調査では、選択肢に「検診を受けていない」が含まれていなかった。

※2 「乳がん」「子宮がん」は女性のみを対象としているため、平成29年度ではN=1365、平成23年度では、N=1268としている。

【性別・年代別にみる定期的に受けているがん検診の受診状況】

男性では年代が上がるごとに「検診を受けていない」の割合が少なくなる。女性では壮年期、中年期では、「乳がん」や「子宮がん」の受診率が多くなっている。

(単位:%)

	合計	検診を受けていない	※乳がん	※子宮がん	胃がん	大腸がん	肺がん	※前立腺がん	無回答
全体	(N=1016)	57.7	-	-	14.9	15.6	8.0	11.6	16.7
青年期(15~24歳)	(N=85)	84.7	-	-	1.2	1.2	2.4	1.2	12.9
壮年期(25~44歳)	(N=227)	80.2	-	-	4.4	5.7	2.6	0.9	12.3
中年期(45~64歳)	(N=302)	61.6	-	-	14.2	15.9	8.6	9.6	12.6
高齢期(65歳以上)	(N=398)	35.9	-	-	24.4	24.1	11.8	21.6	23.1
全体	(N=1365)	43.8	29.4	25.3	14.2	13.1	6.4	-	15.2
青年期(15~24歳)	(N=92)	79.3	2.2	6.5	1.1	2.2	0.0	-	12.0
壮年期(25~44歳)	(N=363)	46.8	34.4	35.0	3.6	3.3	1.9	-	8.5
中年期(45~64歳)	(N=376)	36.4	47.6	41.0	19.1	18.6	8.8	-	5.9
高齢期(65歳以上)	(N=530)	40.8	17.9	10.8	20.0	17.7	8.7	-	27.2

※ 子宮がん、乳がんは女性のみ、前立腺がんは男性固有のがんのため、数値は未記入となっている。

【職業別にみるがん検診の受診状況】

農業従事者を除いた各職業で「検診を受けていない」が最も多くなっている。特に学生では、その割合が 89.2%となっている。

(単位:%)

	合計	検診を受けていない	乳がん	子宮がん	胃がん	大腸がん	肺がん	前立腺がん	無回答
全体	(N=2435)	49.3	16.5	14.3	14.3	14.3	7.0	5.1	16.5
自営業・自由業	(N=193)	47.7	9.3	8.8	17.1	17.1	8.8	10.4	18.7
会社員・公務員	(N=687)	59.1	14.6	15.1	9.6	10.8	4.9	3.3	10.5
農林漁業従事者	(N=6)	16.7	0.0	0.0	50.0	0.0	16.7	50.0	16.7
主婦・主夫	(N=384)	34.9	33.6	24.7	18.8	16.9	8.3	0.0	17.7
学生	(N=120)	89.2	0.0	0.8	0.0	0.0	0.8	0.0	9.2
パート・アルバイト	(N=337)	46.0	29.7	25.2	13.6	13.1	7.7	2.7	11.6
無職	(N=595)	41.5	6.2	5.0	19.2	20.2	9.1	9.9	25.5
その他	(N=89)	55.1	18.0	14.6	14.6	13.5	6.7	10.1	11.2

【所得別にみるがん検診の受診状況】

400万円以上800万円未満では、「検診を受けていない」が5割を超えており、他よりも多くなっている。

(単位:%)

	合計	胃がん	大腸がん	肺がん	乳がん	子宮がん	前立腺がん	検診を受けていない	無回答
全体	(N=2435)	14.3	14.3	7.0	16.5	14.3	5.1	49.3	16.5
200万円未満	(N=585)	14.9	14.2	7.0	14.7	11.6	4.3	45.3	23.2
200万円以上 ～400万円未満	(N=751)	15.6	16.4	7.5	14.8	13.0	8.1	47.9	16.4
400万円以上 ～600万円未満	(N=373)	13.1	13.9	6.4	20.6	15.8	4.0	53.4	10.2
600万円以上 ～800万円未満	(N=225)	16.0	15.6	7.6	20.4	17.3	3.6	51.1	8.9
800万円以上	(N=233)	18.9	15.9	9.9	25.3	25.8	5.2	45.1	9.9
わからない	(N=196)	5.1	7.7	4.1	8.2	7.1	1.5	64.8	16.3

【がん検診の受診状況別にみる健康についての情報の獲得媒体】

テレビ・ラジオにより、情報を獲得している人が最も多い。

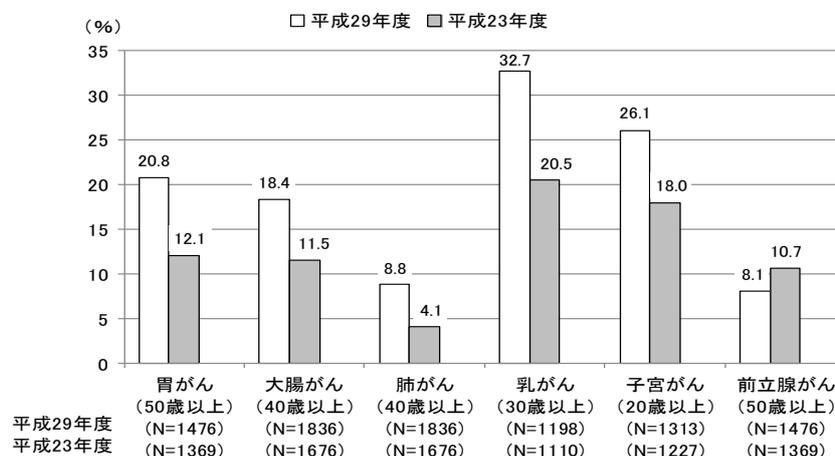
(単位:%)

	合計	家族	友人・知人・同僚など	会社・学校など	保健福祉センター	医療機関	新聞・雑誌・本
全体	(N=2437)	41.3	39.1	13.2	3.3	42.0	48.6
胃がん	(N=349)	41.0	47.9	8.0	4.0	61.3	60.7
大腸がん	(N=349)	40.7	41.8	7.7	4.0	58.2	56.7
肺がん	(N=171)	40.9	45.6	10.5	5.3	63.7	58.5
乳がん	(N=402)	36.3	52.0	14.2	2.5	44.3	62.9
子宮がん	(N=347)	36.9	53.6	15.0	3.2	45.5	55.6
前立腺がん	(N=124)	49.2	30.6	7.3	3.2	64.5	54.8
検診を受けていない	(N=1201)	44.0	36.9	16.3	3.2	36.6	44.1

	合計	テレビ・ラジオ	インターネット(携帯電話含む)	ソーシャル・ネットワーキングサービス	その他	無回答
全体	(N=2437)	63.1	41.6	5.7	1.7	1.1
胃がん	(N=349)	70.5	36.7	3.7	1.7	0.6
大腸がん	(N=349)	69.6	34.7	3.4	2.9	0.6
肺がん	(N=171)	69.6	39.2	4.7	1.8	0.6
乳がん	(N=402)	71.4	51.0	5.5	2.2	1.0
子宮がん	(N=347)	70.0	55.6	7.5	2.6	0.9
前立腺がん	(N=124)	62.9	33.1	3.2	0.0	0.0
検診を受けていない	(N=1201)	62.4	46.2	7.5	1.2	0.3

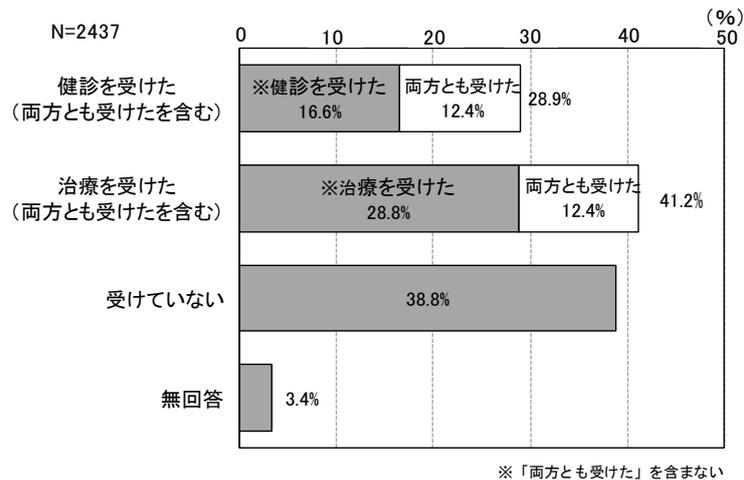
【京都市が実施するがん検診の対象年齢別にみるがん検診の受診状況】

前立腺がんを除き、いずれのがん検診でも前回(H23)調査を上回っており、特に「乳がん」では10%以上多くなっている。



問 14 あなたはこの一年間歯科健診や歯科治療を受けましたか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「治療を受けた(両方とも受けたを含む)」が 41.2%と最も多く、「受けていない」が 38.8%、「健診を受けた(両方とも受けたを含む)」が 28.9%となっている。



【年代別にみる過去1年間の歯科健診・歯科治療の受診状況】

青年期のうち、15～18歳では、「健診を受けた(両方とも受けたを含む)」が 62.8%となっているが、19～24歳では 19.2%に減少している。「受けていない」は、青年期(19～24歳)で 62.4%となっているが、年代が上がるとともに減少し、「治療を受けた(両方とも受けたを含む)」の割合が増加する。

	合計	健診を受けた(両方とも受けたを含む)	治療を受けた(両方とも受けたを含む)	受けていない	無回答	参考		
						※健診を受けた	※治療を受けた	両方とも受けた
全体	(N=2437)	28.9	41.2	38.8	3.4	16.6	28.8	12.4
青年期(15～18歳)	(N=70)	62.8	22.8	27.1	2.9	47.1	7.1	15.7
青年期(19～24歳)	(N=109)	19.2	23.8	62.4	0.9	12.8	17.4	6.4
壮年期(25～44歳)	(N=591)	28.6	37.5	44.2	1.0	17.3	26.2	11.3
中年期(45～64歳)	(N=683)	29.0	42.7	39.7	1.6	16.0	29.7	13.0
高齢期(65歳以上)	(N=971)	28.1	45.7	33.3	6.0	15.0	32.6	13.1

【性別にみる過去1年間の歯科健診・歯科治療の受診状況】

男性は「受けていない」が最も多く、44.8%となっている。女性は、「治療を受けた(両方とも受けたを含む)」が最も多く、43.4%となっている。

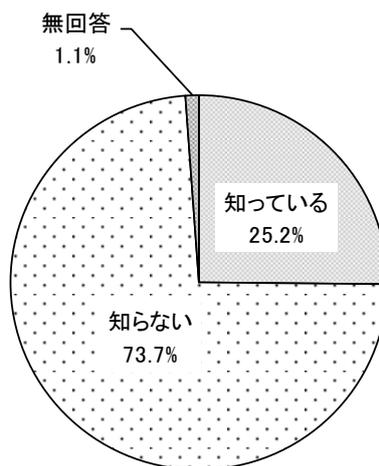
	合計	健診を受けた(両方とも受けたを含む)	治療を受けた(両方とも受けたを含む)	受けていない	無回答	参考		
						健診を受けた※	治療を受けた※	両方とも受けた
全体	(N=2437)	28.9	41.2	38.8	3.4	16.6	28.8	12.4
男性	(N=1016)	23.7	37.8	44.8	2.9	14.6	28.7	9.1
女性	(N=1365)	32.5	43.4	35.1	3.4	18.1	29.0	14.4

3 「健康長寿のまち・京都」の取組に関する項目

問 15 「健康長寿のまち・京都」という言葉を知っていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「知っている」が 25.2%となっている。

N=2437



【年代別にみる「健康長寿のまち・京都」という言葉の認知度】

各年代とも「知らない」が多くなっているが、年代が上がるにつれて、認知度が上昇しており、高齢期では 37.3%となっている。

(単位:%)

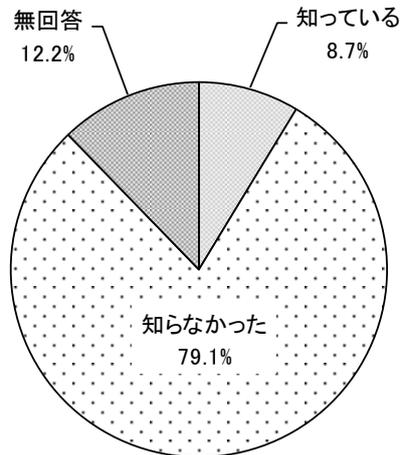
	合計	知っている	知らない	無回答
全体	(N=2437)	25.2	73.7	1.1
青年期(15~24歳):	(N=179)	10.6	89.4	0.0
壮年期(25~44歳):	(N=591)	15.2	84.8	0.0
中年期(45~64歳):	(N=683)	20.4	79.2	0.4
高齢期(65歳以上):	(N=971)	37.3	60.6	2.2

問 16 あなたは「健康長寿のまち・京都いきいきポイント」事業※を知っていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

※「健康長寿のまち・京都いきいきポイント」事業とは毎日の健康づくりの取組を「健康ポイント」として、各区役所・支所、保健福祉センター等で配布している専用のポイント手帳に記録していただき、健康づくりを楽しみながら続けていくことができる京都市の取組（平成28年8月から実施）。健康ポイントを貯めて応募することで、抽選でプレゼントも当たります。

「知らなかった」が 79.1%、「知っている」が 8.7%となっている。

N=2437



【年代別にみる「健康長寿のまち・京都いきいきポイント」事業の認知度】

青年期・壮年期では 90%以上、中年期では 80%以上が「知らなかった」としているが、年代が上がるにつれて、認知度は多くなる。

(単位: %)

	合計	知っている	知らなかった	無回答
全体	(N=2437)	8.7	79.1	12.2
青年期(15~24歳)	(N=179)	2.2	92.7	5.0
壮年期(25~44歳)	(N=591)	6.3	90.5	3.2
中年期(45~64歳)	(N=683)	6.7	85.7	7.6
高齢期(65歳以上)	(N=971)	12.8	65.4	21.8

【健康についての関心度別にみる「健康長寿のまち・京都いきいきポイント」事業の認知度】

健康への関心がある人では「知っている」が約1割であったのに対し、健康への関心がない人では知っている人はいなかった。

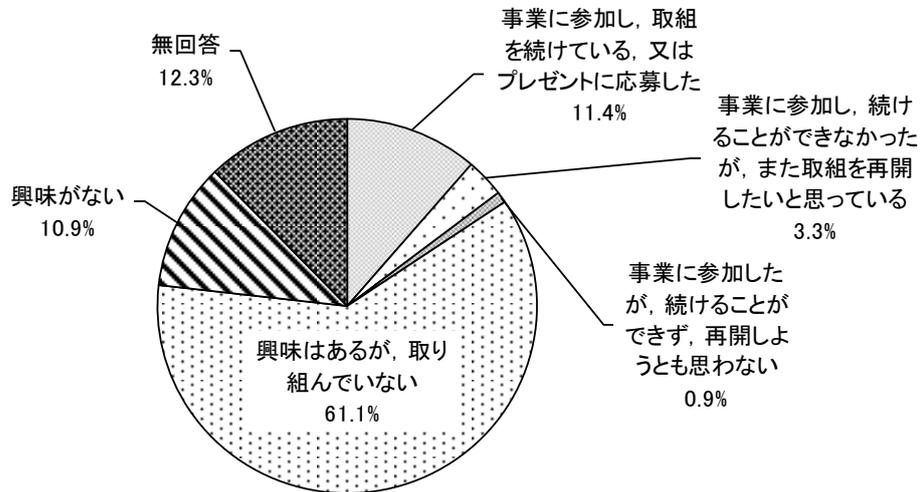
(単位: %)

	合計	知っている	知らなかった	無回答
全体	(N=2437)	8.7	79.1	12.2
健康への関心がある	(N=1985)	9.3	79.4	11.3
健康への関心がない	(N=81)	0.0	91.4	8.6
どちらとも言えない	(N=269)	6.3	88.1	5.6

問 16-1 問16で、「1知っている」に○をつけた方にお聞きます。「いきいきポイント」事業に取り組んでいますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「興味はあるが、取り組んでいない」が61.1%と最も多く、ついで「事業に参加し、取組を続けている、又はプレゼントに応募した」が11.4%、「興味がない」が10.9%となっている。

N=211



【年代別にみる「いきいきポイント」事業への取組状況】

各年代とも「興味はあるが、取り組んでいない」が最も多くなっている。壮年期と中年期では、積極的に事業に参加している人が比較的多くなっている。

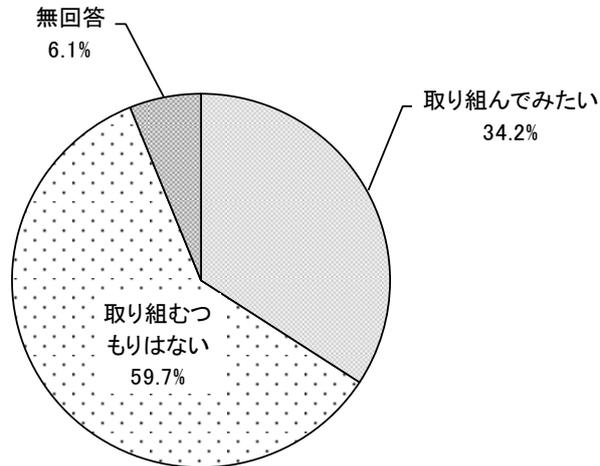
(単位: %)

	合計	事業に参加し、取組を続けている、又はプレゼントに応募した	事業に参加し、続けることができなかったが、また取組を再開したいと思っている	事業に参加したが、続けることができず、再開しようとも思わない	興味はあるが、取り組んでいない	興味がない	無回答
全体 (N=211)		11.4	3.3	0.9	61.1	10.9	12.3
青年期 (15~24歳) (N=4)		0.0	0.0	0.0	50.0	25.0	25.0
壮年期 (25~44歳) (N=37)		27.0	2.7	0.0	43.2	18.9	8.1
中年期 (45~64歳) (N=46)		13.0	0.0	2.2	69.6	10.9	4.3
高齢期 (65歳以上) (N=124)		6.5	4.8	0.8	63.7	8.1	16.1

問 16-2 問16で、「2 知らなかった」に○をつけた方にお聞きします。今回のアンケートで知った「いきいきポイント」事業に、今後取り組みたいと思いますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「取り組んでみたい」が 34.2%となっている。

N=1928



【年代別にみる「いきいきポイント」事業への取り組み意向】

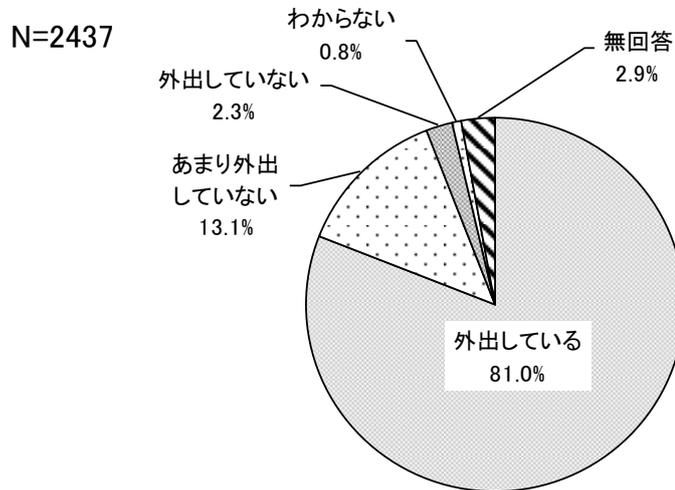
「いきいきポイント」事業に「取り組んでみたい」が全体では 34.2%となっているが、青年期では 21.1%と少なくなっている。

(単位:%)

	合計	取り組んで みたい	取り組む つもりはない	無回答
全体	(N=1928)	34.2	59.7	6.1
青年期(15~24歳)	(N=166)	21.1	76.5	2.4
壮年期(25~44歳)	(N=535)	33.5	63.0	3.6
中年期(45~64歳)	(N=585)	39.0	55.2	5.8
高齢期(65歳以上)	(N=635)	33.7	56.7	9.6

問 17 あなたは、日常的に、外出していますか。もっとも当てはまる番号1つに○をつけてください。

「外出している」が 81.0%と最も多く、ついで「あまり外出していない」が 13.1%、「外出していない」が 2.3%となっている。



【年代別にみる日常的な外出の有無】

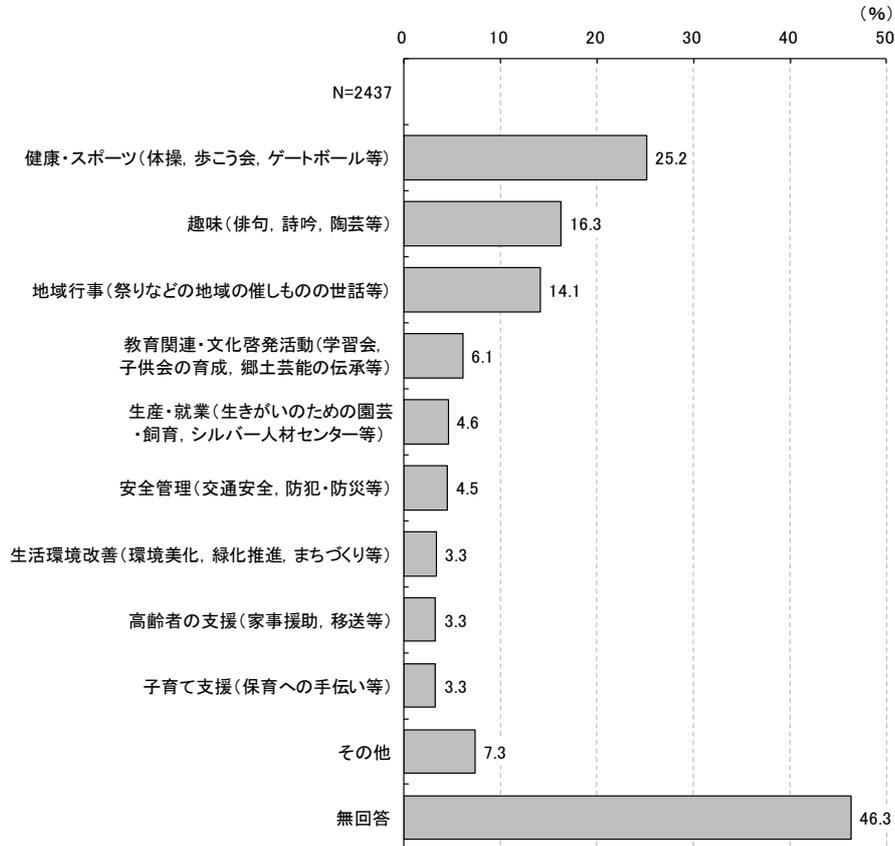
青年期では、「外出している」が最も多く、87.2%となっている。高齢期でも「外出している」が最も多いが、76.8%となっている。また、高齢期では「あまり外出していない」、「外出していない」が他の年代に比べ、やや多くなっている。

(単位: %)

	合計	外出している	あまり外出していない	外出していない	わからない	無回答
全体	(N=2437)	81.0	13.1	2.3	0.8	2.9
青年期(15~24歳)	(N=179)	87.2	9.5	2.2	0.6	0.6
壮年期(25~44歳)	(N=591)	83.2	13.4	1.0	1.0	1.4
中年期(45~64歳)	(N=683)	83.7	11.9	1.0	1.2	2.2
高齢期(65歳以上)	(N=971)	76.8	14.5	3.9	0.4	4.3

問 18 あなたはこの1年間に、個人または友人と、あるいはグループや団体等で自主的に行われている次のような活動を行い参加しましたか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

「健康・スポーツ(体操, 歩こう会, ゲートボール等)」が25.2%と最も多く、ついで「趣味(俳句, 詩吟, 陶芸等)」が16.3%, 「地域行事(祭りなどの地域の催しもの世話等)」が14.1%となっている。



【年代別にみる過去1年間の自主的活動状況】

各年代とも全体の傾向と同様に「健康・スポーツ」や「趣味」が多くなっているが、壮年期と中年期では「地域行事」への参加も多くなっている。

(単位: %)

	合計	趣味 (俳句, 詩吟, 陶芸等)	健康・スポーツ (体操, 歩こう会, ゲートボール等)	生産・就業 (生きがいのための園芸・飼育, シルバー人材センター等)	教育関連・文化啓発活動 (学習会, 子供会の育成, 郷土芸能の伝承等)	生活環境改善 (環境美化, 緑化推進, まちづくり等)	安全管理(交通安全, 防犯・防災等)
全体 (N=2437)		16.3	25.2	4.6	6.1	3.3	4.5
青年期(15~24歳) (N=179)		20.1	27.4	0.6	8.9	3.9	1.1
壮年期(25~44歳) (N=591)		15.4	23.5	2.2	7.6	2.2	4.4
中年期(45~64歳) (N=683)		15.4	25.9	2.6	5.9	4.7	5.6
高齢期(65歳以上) (N=971)		16.8	25.3	8.1	4.7	3.0	4.5

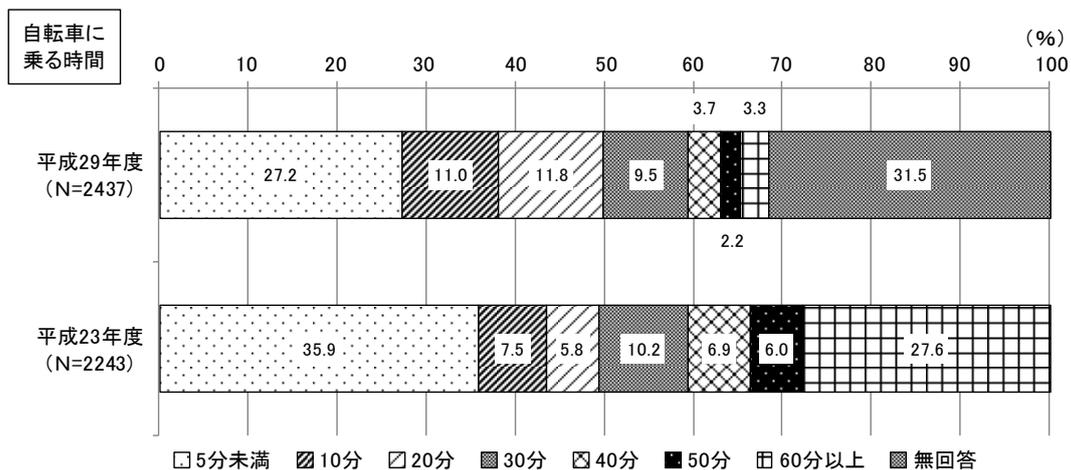
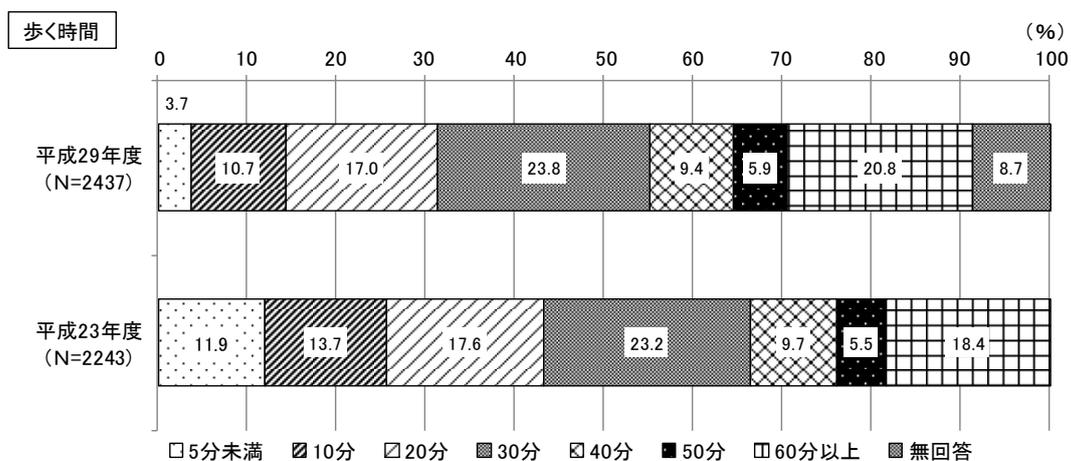
	合計	高齢者の支援 (家事援助, 移送等)	子育て支援 (保育への手伝い等)	地域行事(祭りなどの地域の催しもの世話等)	その他	無回答
全体 (N=2437)		3.3	3.3	14.1	7.3	46.3
青年期(15~24歳) (N=179)		1.1	1.1	8.4	3.4	46.4
壮年期(25~44歳) (N=591)		1.7	7.8	16.1	3.6	50.4
中年期(45~64歳) (N=683)		5.9	2.2	19.3	4.7	46.4
高齢期(65歳以上) (N=971)		2.9	1.8	10.5	12.3	43.4

4 身体活動・運動に関する項目

問 19 あなたの普段の生活で歩く時間、自転車に乗る時間(健康づくりや趣味で行うウォーキングやサイクリングを除く)は、この1年間で1日あたりどのくらいですか。それぞれ、もっとも当てはまる番号1つに○をつけてください。

歩く時間では、「30分」が23.8%と最も多く、ついで「60分以上」が20.8%、「20分」が17.0%となっている。前回(H23)調査と比べ、5分未満が少なくなっている。

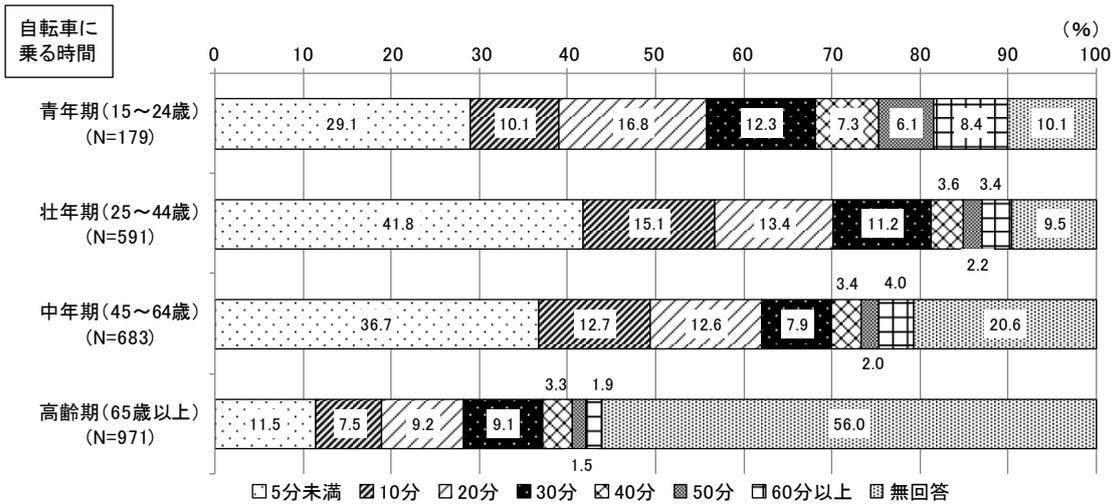
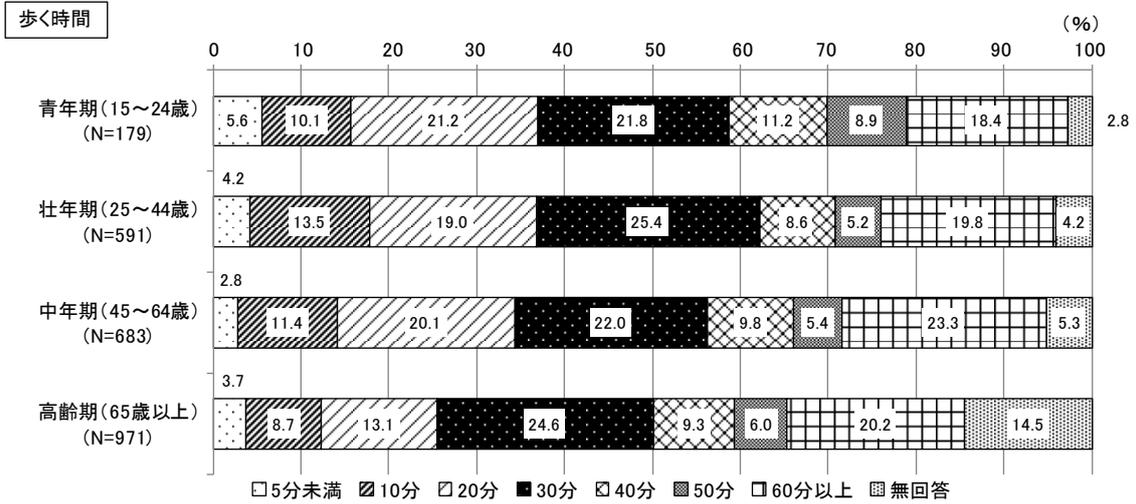
自転車に乗る時間では、「5分未満」が27.2%で最も多く、ついで「20分」が11.8%、「10分」が11.0%となっている。前回(H23)調査と比べ、60分以上が20%以上少なくなっている。



【年代別にみる過去1年間の徒歩・自転車に乗る時間】

歩く時間では「20分」が高齢期で他の年代よりやや少なくなっているが、その他は年代による大きな差はみられない。

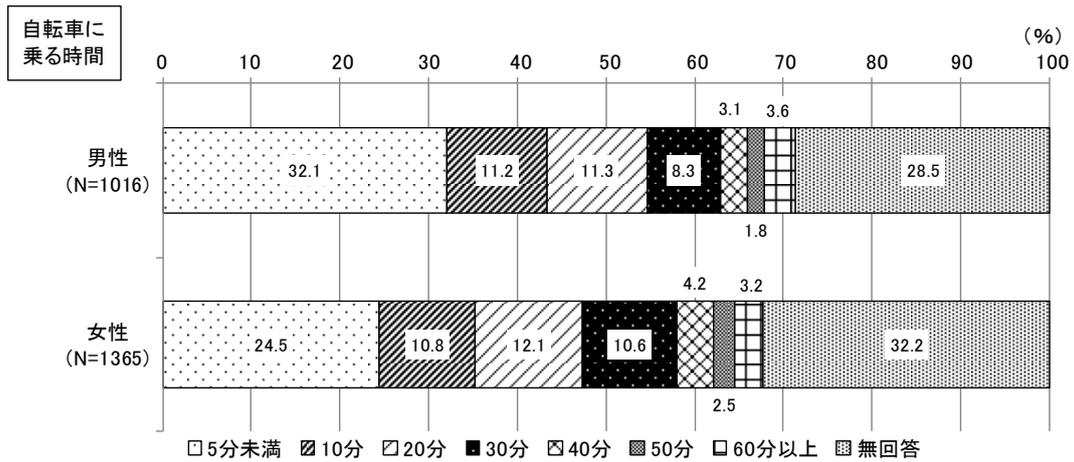
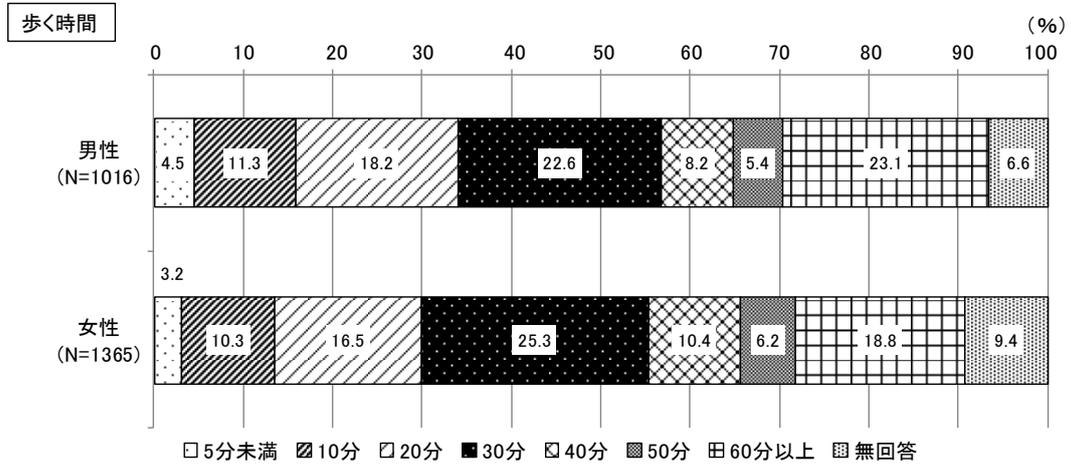
自転車に乗る時間では、青年期で「20分」以上自転車に乗る割合が、他の年代よりやや多くなっている。



【性別にみる過去1年間の徒歩・自転車に乗る時間】

「歩く時間」では、男性が女性よりも「60分以上」の割合がやや多くなっている。

「自転車に乗る時間」をみると、「5分未満」で男性が女性よりも1割弱多くなっている。その他の項目については大きな違いはみられない。

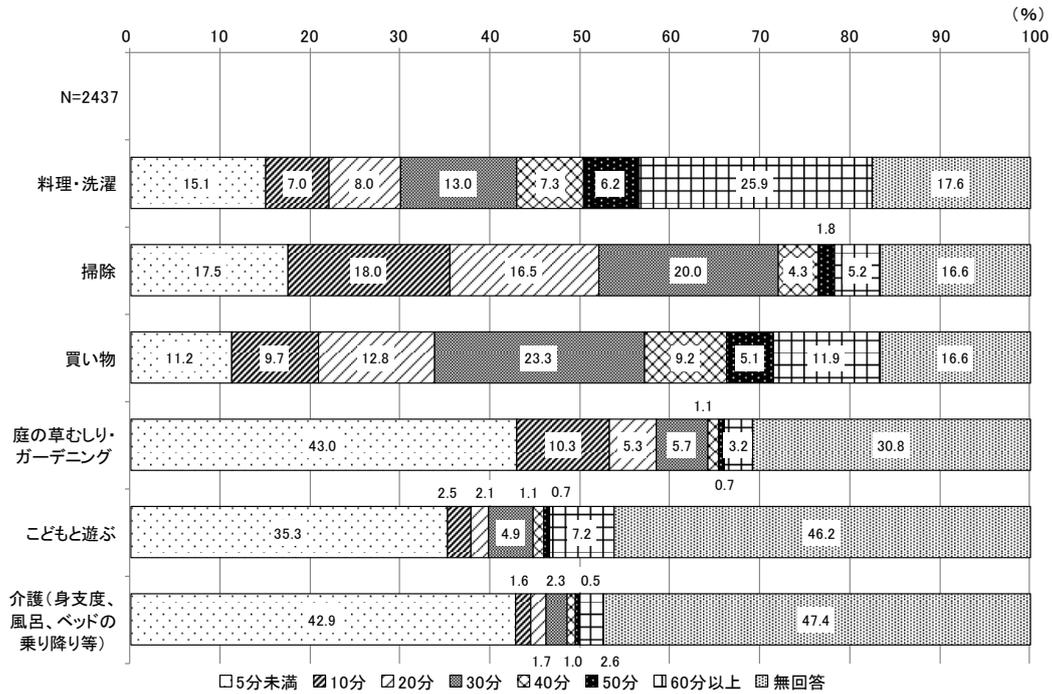


問 20 あなたは家事・育児・仕事等で次の1～7にかかる時間はこの1年間で1日あたりどのくらいですか。それぞれ、もっとも当てはまる番号に1つに○をつけてください。

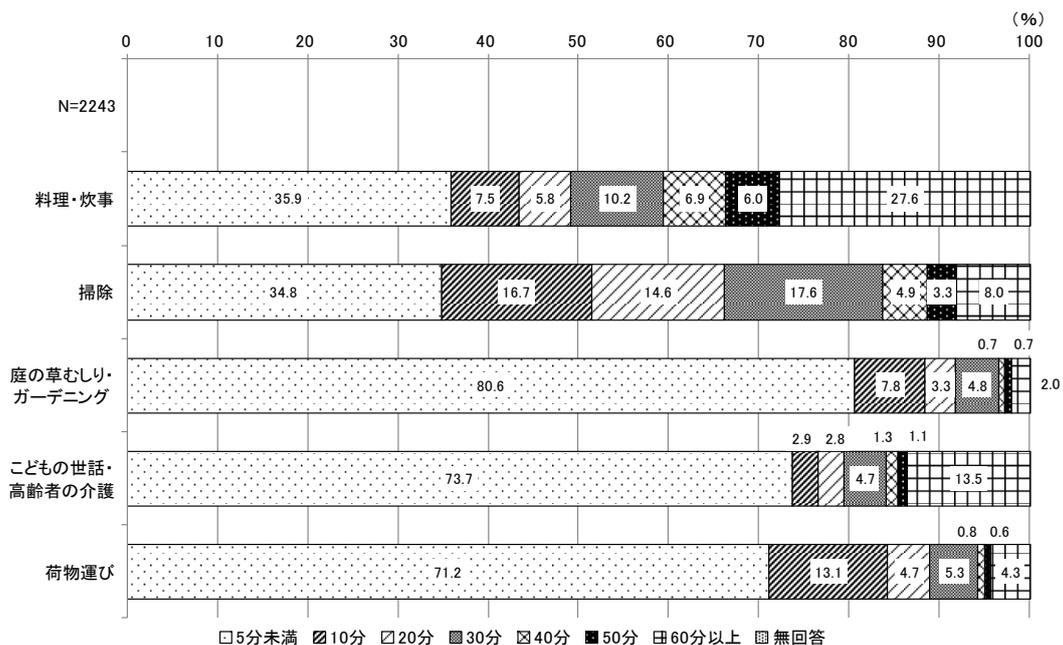
「料理・洗濯」では、「60分以上」が25.9%と最も多くなっている。「掃除」や「買い物」では、「30分」が最も多くなっている。「庭の草むしり・ガーデニング」、「こどもと遊ぶ」、「介護(身支度、風呂、ベッドの乗り降り等)」では「5分未満」が最も多くなっている。

前回(H23)調査と比べ、「掃除」にかかる時間が「5分未満」が約半分に減少している。

【平成 29 年度 市民意識調査】

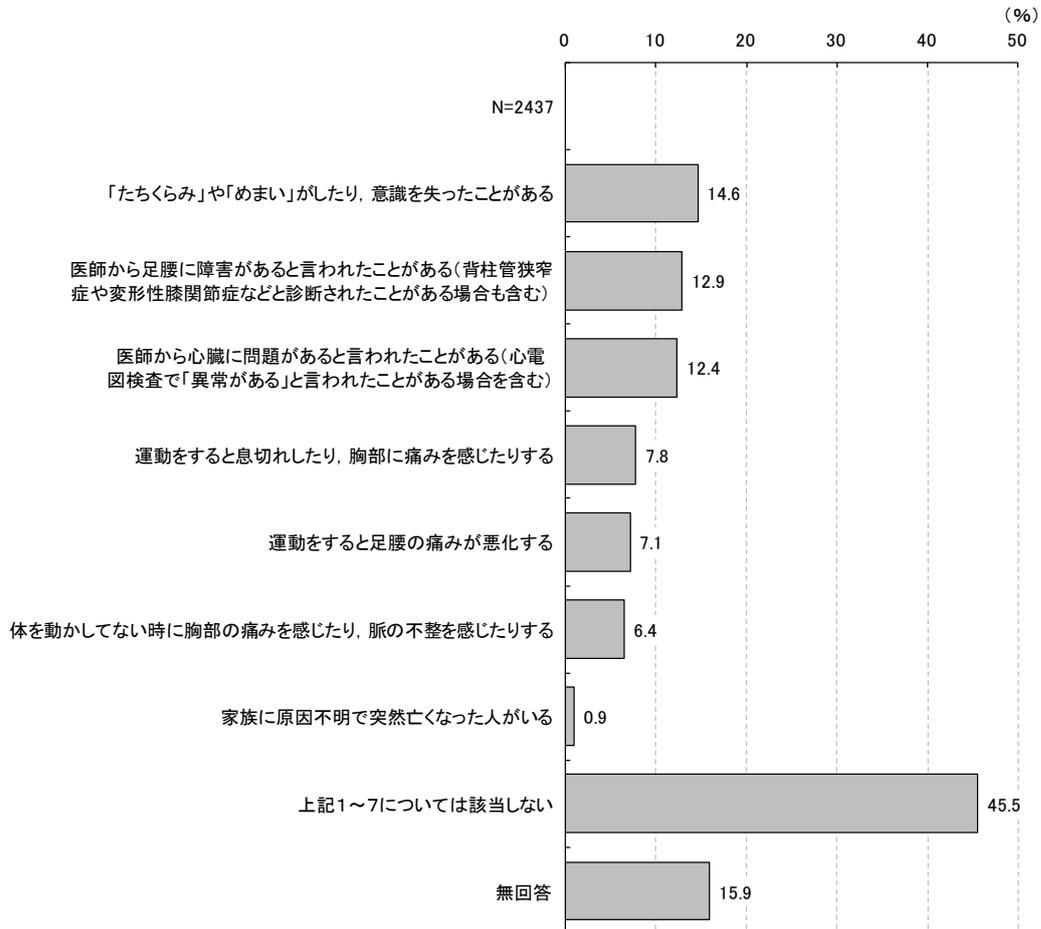


【平成 23 年度 市民意識調査】



問 21 次の1～8の中で、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

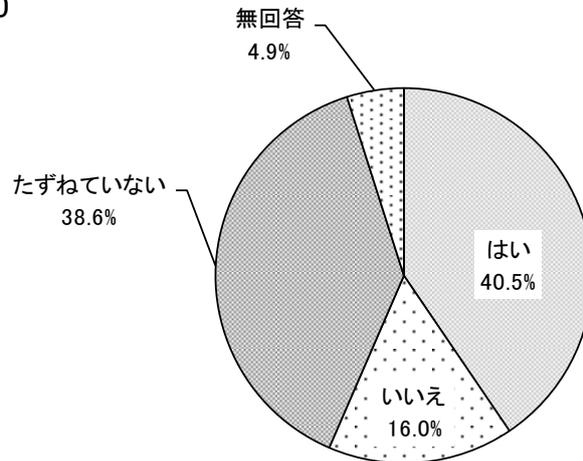
「上記1～7については該当しない」が45.5%と最も多く、ついで「「たちくらみ」や「めまい」がしたり、意識を失ったことがある」が14.6%、「医師から足腰に障害があると言われたことがある(背柱管狭窄症や変形性膝関節症などと診断されたことがある場合も含む)」が12.9%となっている。



問 21-1 問21で、「1」～「7」に○をつけた方にお聞きます。医師から、身体活動を制限なく行って良いといわれましたか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「はい」が40.5%と最も多く、ついで「たずねていない」が38.6%、「いいえ」が16.0%となっている。

N=940



【年代別にみる身体活動の制限の有無】

青年期、中年期、高齢期では「はい」が最も多くなっている。また、年代が上がるにつれて、「いいえ」が多くなっている。

(単位:%)

	合計	はい	いいえ	たずねて いない	無回答
全体	(N=940)	40.5	16.0	38.6	4.9
青年期(15～24歳)	(N=47)	53.2	0.0	42.6	4.3
壮年期(25～44歳)	(N=193)	42.5	5.7	49.2	2.6
中年期(45～64歳)	(N=247)	45.7	16.2	35.2	2.8
高齢期(65歳以上)	(N=450)	35.6	22.0	35.6	6.9

【性別にみる身体活動の制限の有無】

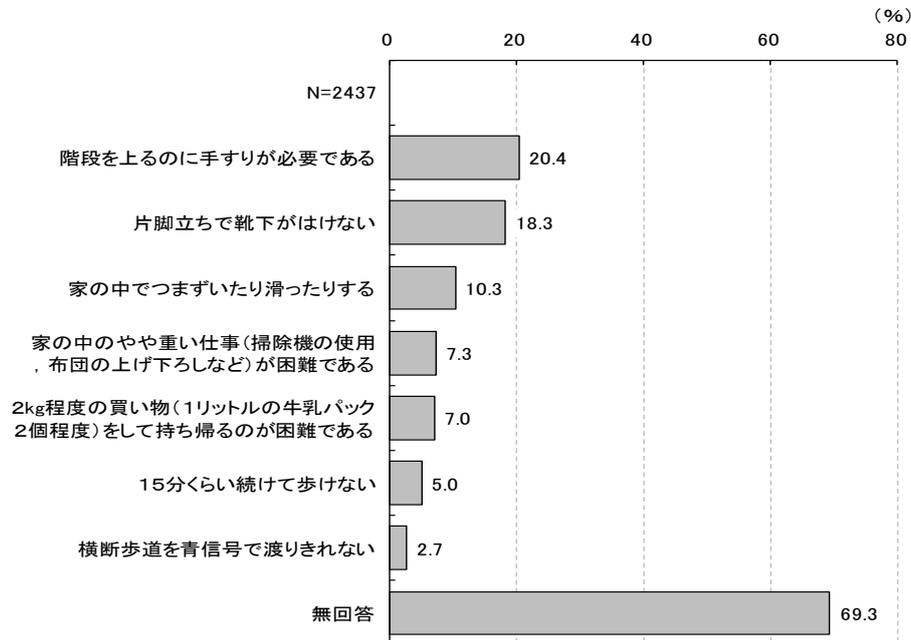
男性・女性ともに「はい」が最も多くなっているが、性別による違いはみられない。

(単位:%)

	合計	はい	いいえ	たずねて いない	無回答
全体	(N=940)	40.5	16.0	38.6	4.9
男性	(N=374)	42.2	14.2	39.6	4.0
女性	(N=548)	38.9	17.0	38.9	5.3

問 22 次の1～7の中で、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

「階段を上るのに手すりが必要である」が 20.4%と最も多く、ついで「片脚立ちで靴下がはけない」が 18.3%、「家の中でつまずいたり滑ったりする」が 10.3%となっている。



【年代別にみる日常生活における身体活動の状況】

年代が上がるにつれて、日常生活における円滑な身体活動に支障が出ており、高齢期では、「片脚立ちで靴下がはけない」が 35.5%、「階段を上るのに手すりが必要である」が 42.6%となっている。

(単位:%)

	合計	階段を上るのに手すりが必要である	片脚立ちで靴下がはけない	家の中でつまずいたり滑ったりする	家の中のやや重い仕事 (掃除機の使用, 布団の上げ下ろしなど) が困難である	2kg程度の買い物 (1リットルの牛乳パック2個程度) をして持ち帰るのが困難である	15分くらい続けて歩けない	横断歩道を青信号で渡りきれない	無回答
全体 (N=2437)		20.4	18.3	10.3	7.3	7.0	5.0	2.7	69.3
青年期 (15～24歳) (N=179)		0.6	2.8	5.0	1.1	0.6	1.1	0.6	92.2
壮年期 (25～44歳) (N=591)		2.7	4.4	3.9	1.2	1.2	0.3	0.5	90.7
中年期 (45～64歳) (N=683)		9.2	10.0	7.0	2.0	1.8	1.0	0.4	81.3
高齢期 (65歳以上) (N=971)		42.6	35.5	17.7	15.8	15.4	11.3	6.1	43.7

【年代別・該当項目の有無別にみる日常生活における身体活動の状況】

年代が上がるにつれ、1項目以上に該当する人が多くなり、高齢期では 56.3%となっている。

	合計	該当項目あり	該当項目なし
青年期 (15～24歳) (N=179)		7.8	92.2
壮年期 (25～44歳) (N=591)		9.3	90.7
中年期 (45～64歳) (N=683)		18.7	81.3
高齢期 (65歳以上) (N=971)		56.3	43.7

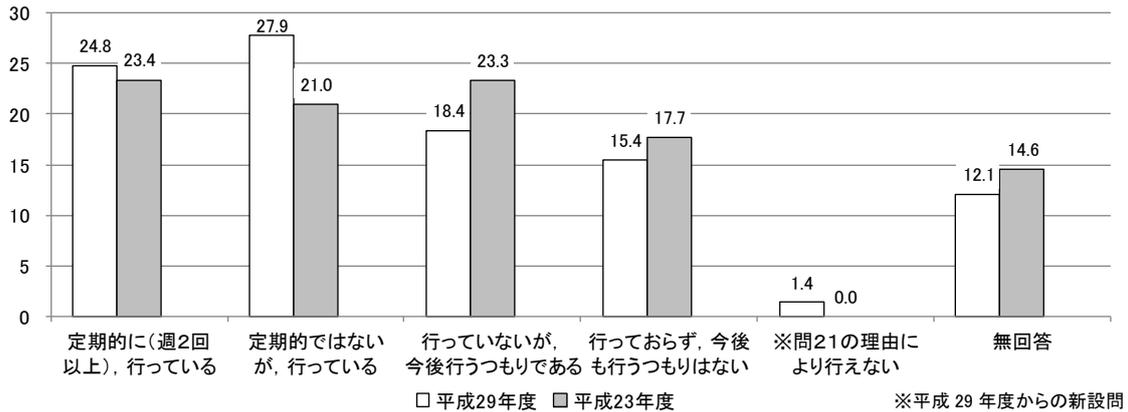
(該当項目数)

	1項目	2項目	3項目	4項目	5項目	6項目	7項目
青年期 (15～24歳)	6.7	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
壮年期 (25～44歳)	6.6	1.2	1.4	0.0	0.0	0.0	0.2
中年期 (45～64歳)	12.0	3.4	2.0	0.6	0.3	0.3	0.1
高齢期 (65歳以上)	21.5	13.9	7.0	5.3	2.8	1.9	4.0

問 23 この1年間のあなたの運動に対する取組状況について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

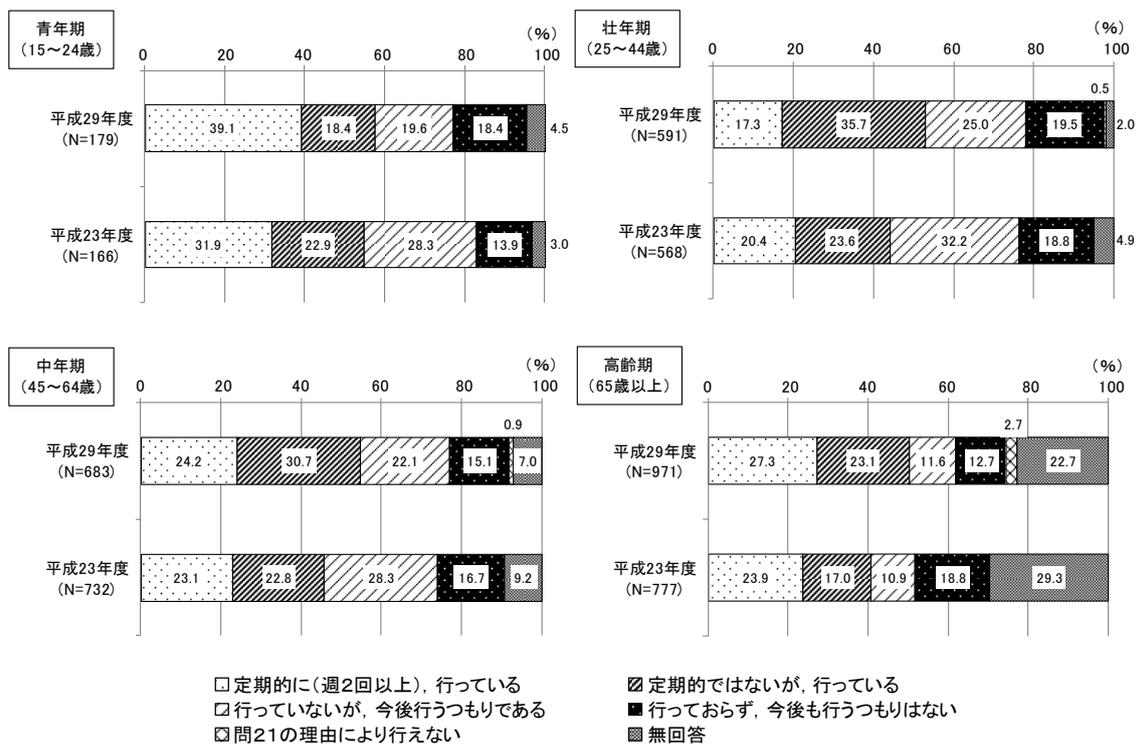
運動を行っている(「定期的に(週2回以上), 行っている」+「定期的ではないが, 行っている」)割合が52.7%, 「行っていないが, 今後行うつもりである」が18.4%となっている。前回(H23)調査と比べ, 運動を行っている割合が多くなっている。

N=2437(平成29年度 市民意識調査)
N=2243(平成23年度 市民意識調査)
(%)



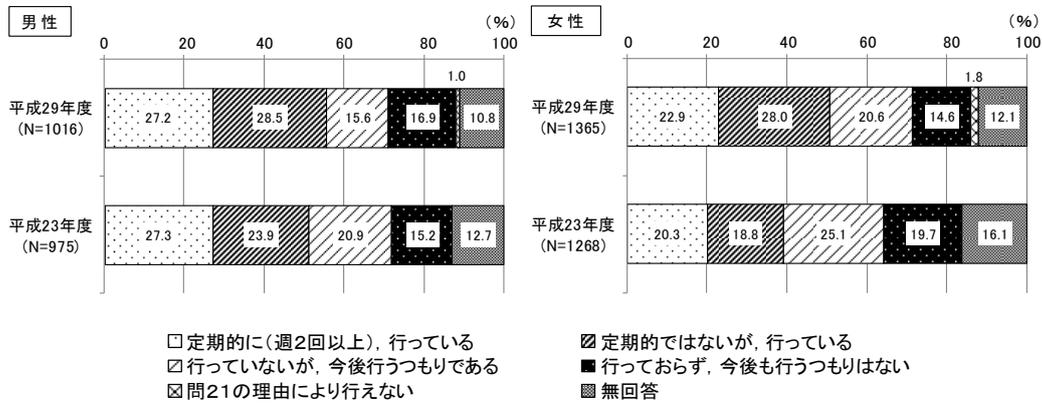
【年代別にみる過去1年間の運動に対する取組状況】

青年期と高齢期では, 「定期的に行っている」が最も多くなっている。壮年期と中年期では, 「定期的ではないが, 行っている」が最も多い。各年代とも過去1年間に運動を行っている(「定期的に行っている」と「定期的ではないが, 行っている」)が半数以上と前回(H23)調査に比べ多くなっている。



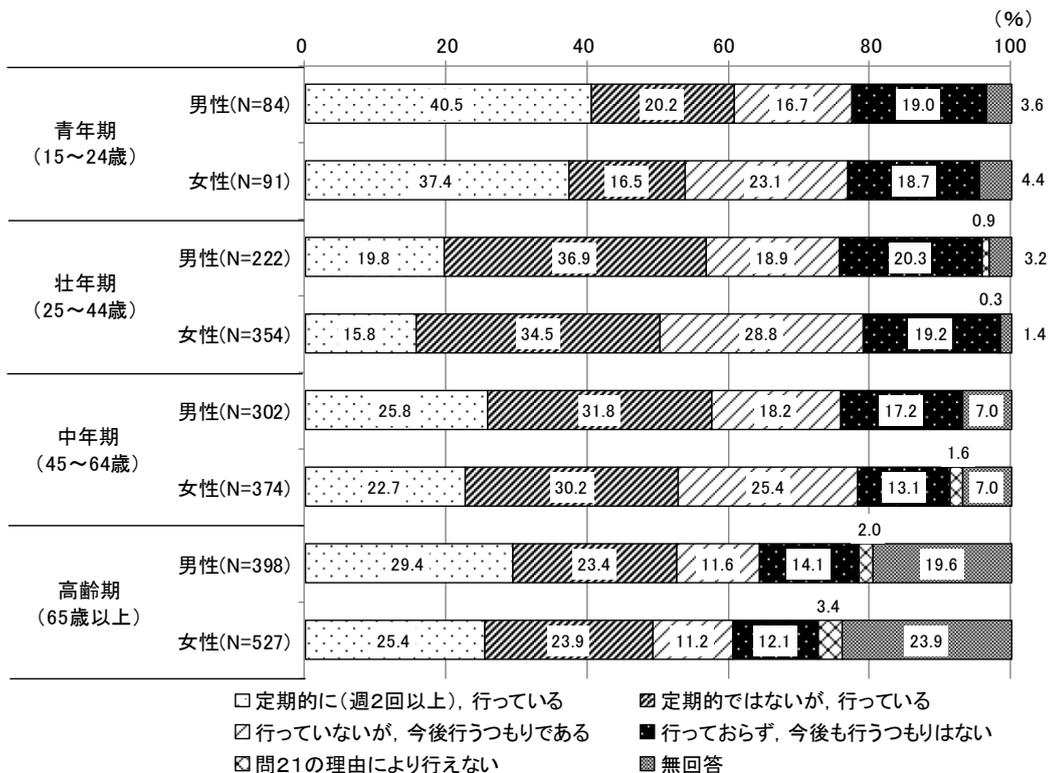
【性別にみる過去1年間の運動に対する取組状況】

男性・女性ともに、前回(H23)調査に比べ、運動を行っている(「定期的に(週2回以上), 行っている」+「定期的ではないが, 行っている」)の割合が増加している。



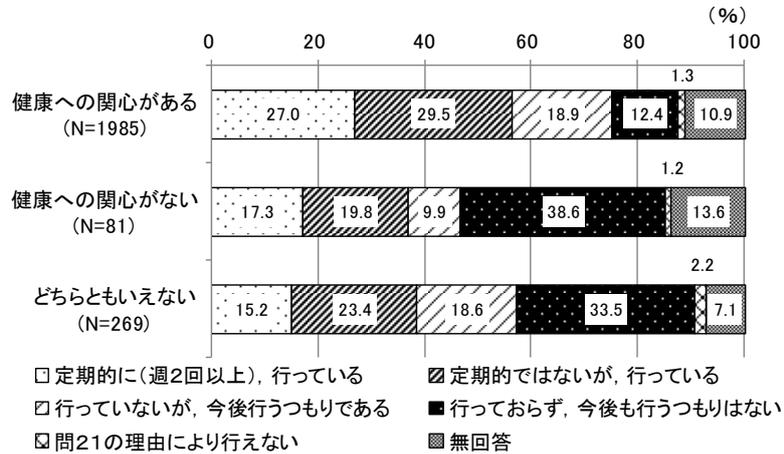
【年代別・性別にみる過去1年間の運動に対する取り組み状況】

年代別・性別に関わらず、およそ半数の人は運動を行っている(「定期的に(週2回以上), 行っている」+「定期的ではないが, 行っている」)。ただし、青年期と壮年期では男性・女性ともに「行っておらず, 今後行うつもりはない」も約 20%と他よりもやや多くなっている。



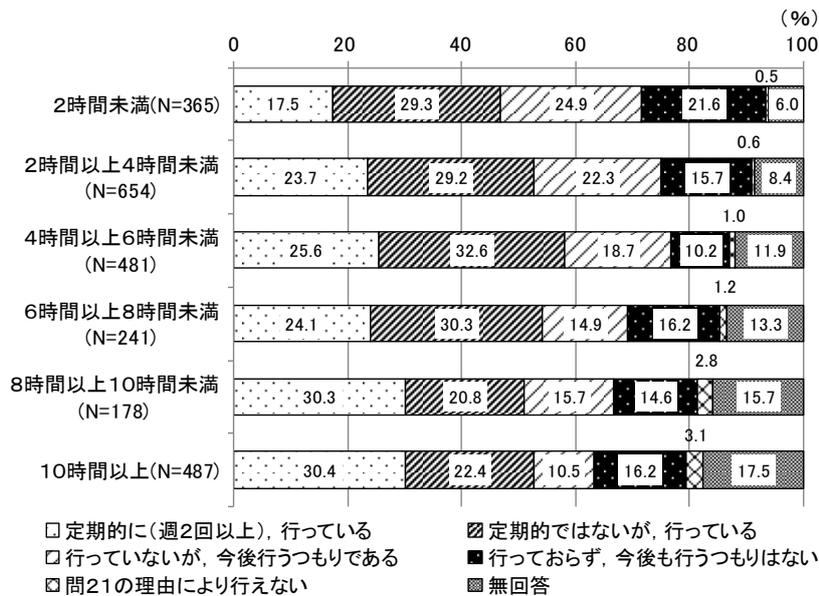
【健康への関心度別にみる運動に対する取組状況】

健康への関心がある人では、運動を行っている(「定期的に(週2回以上), 行っている」+「定期的ではないが, 行っている」)の割合が多くなっており, いずれも健康への関心がない人よりも10%程度多くなっている。また, 健康への関心がない人では, 「行っておらず, 今後行うつもりはない」が最も多くなっており, 健康に関心のある人の約3倍の割合となっている。



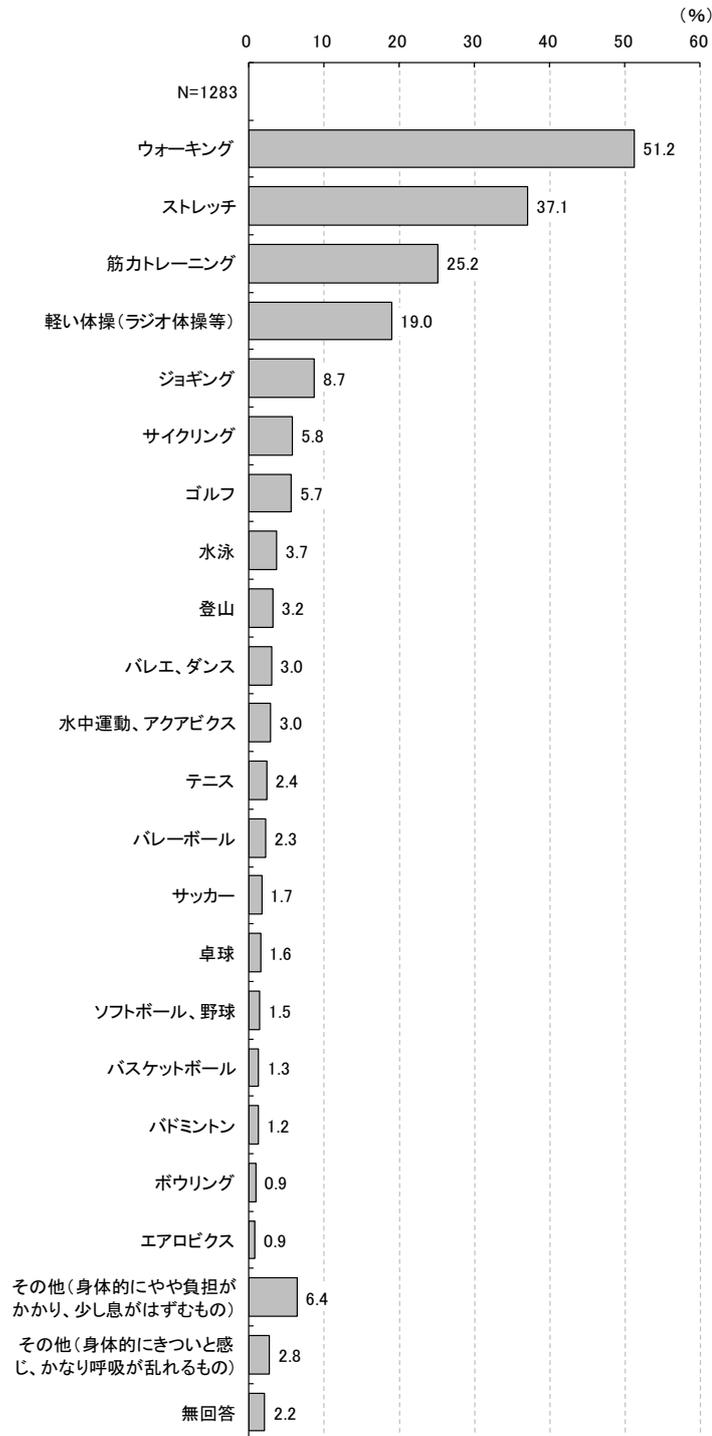
【自由になる時間別にみる運動に対する取組状況】

自由になる時間別に運動に対する取組状況をみると, 8時間未満では「定期的ではないが, 行っている」が30%前後で最も多くなっている。8時間以上では「定期的に(週2回以上), 行っている」が30%以上と最も多くなっている。一方で, 2時間未満では「行っておらず, 今後行うつもりはない」も21.6%と, 他よりも多くなっている。



問 23-1 問 23 で「1」又は「2」に○をつけた方にお聞きします。現在行っている種目すべてに○をつけてください。また、それぞれを行う1回あたりの時間(分)と1週間あたりの回数も御記入ください。

「ウォーキング」が51.2%と最も多く、ついで「ストレッチ」が37.1%、「筋力トレーニング」が25.2%となっている。



【年代別にみる現在実施している運動種目】

青年期では「筋力トレーニング」が最も多く、34.0%となっている。壮年期では「ウォーキング」「ストレッチ」が39.3%と最も多くなっている。また、中年期と高齢期では、「ウォーキング」が50%以上と最も多くなっている。

	青年期 (15～24歳)		壮年期 (25～44歳)		中年期 (45～64歳)		高齢期 (65歳以上)	
1	筋力トレーニング	34.0	ウォーキング	39.3	ウォーキング	50.4	ウォーキング	61.3
2	ウォーキング	21.4	ストレッチ	39.3	ストレッチ	41.6	ストレッチ	31.3
3	ストレッチ	21.4	筋力トレーニング	28.8	筋力トレーニング	21.9	軽い体操	28.8
4	ジョギング	16.5	ジョギング	12.5	軽い体操	13.3	筋力トレーニング	21.5
5	軽い体操	9.7	軽い体操	9.6	ジョギング	8.8	ゴルフ	5.1
	バスケットボール	9.7						

【性別にみる現在実施している運動種目】

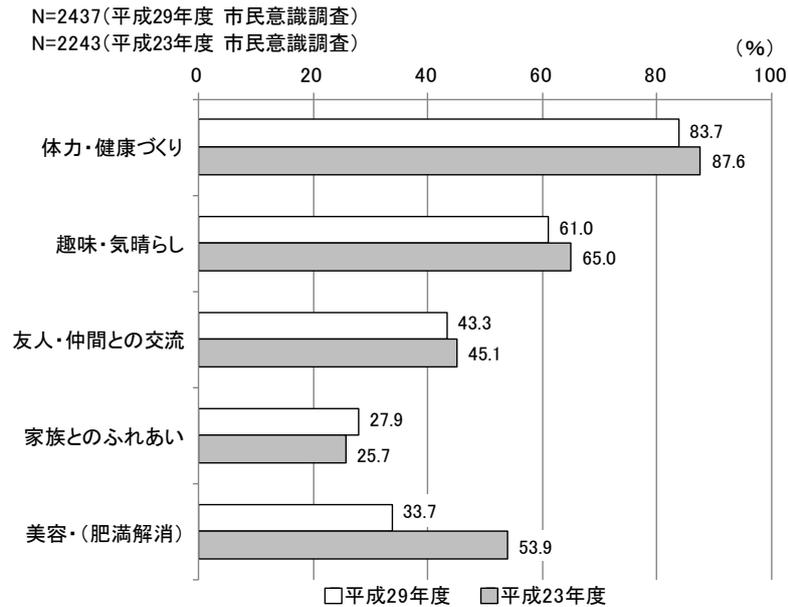
男性・女性ともに「ウォーキング」や「ストレッチ」を行う割合が多くなっているが、「ストレッチ」では女性が男性よりも割合が多くなっている。

	男性		女性	
1	ウォーキング	50.7	ウォーキング	51.4
2	ストレッチ	28.3	ストレッチ	44.9
3	筋力トレーニング	26.7	筋力トレーニング	23.9
4	ジョギング	14.5	軽い体操	23.3
5	軽い体操	13.6	その他(身体的にやや負担がかかり、息がはずむもの)	7.3

問 24 運動をする目的は何だと思えますか。次の1～5についてそれぞれもつとも当てはまる番号1つに○をつけてください。1～5以外に思うものがあれば、「6 その他」に具体的な内容等をお書きください。

運動をする目的では、「体力・健康づくり」(「そう思う」と「どちらかと言うとそう思う」の合計)が83.7%と最も多く、ついで「趣味・気晴らし」が61.0%、「友人・仲間との交流」が43.3%となっている。

【運動する目的(「そう思う」と「どちらかと言うとそう思う」)の合計】

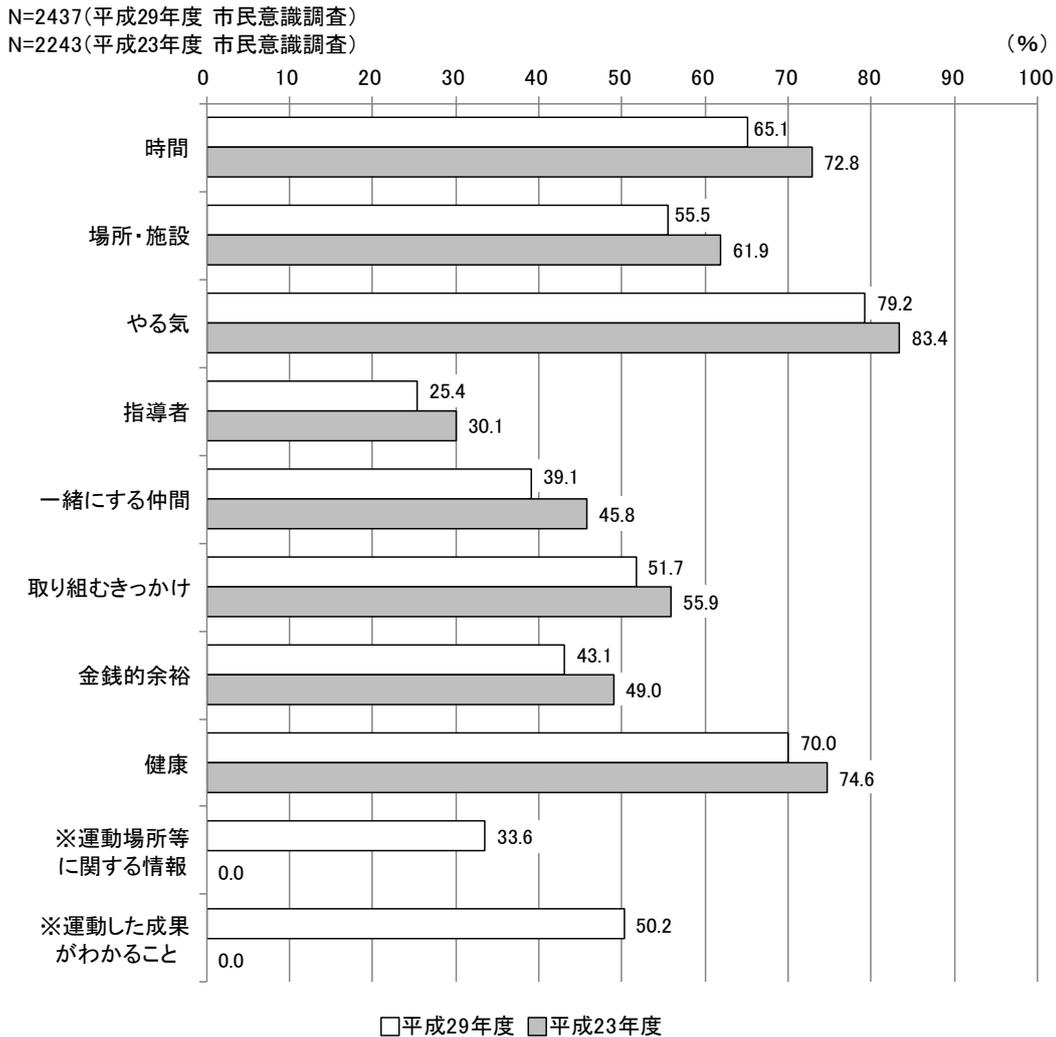


※前回 (H23) 調査では「肥満解消」が選択肢に含まれていたが、今回の調査では選択肢になっていない

問 25 運動を継続するために必要なものはなんだと思いますか。次の1～10についてそれぞれもっとも当てはまる番号1つに○をつけてください。1～10以外に思うものがあれば「11 その他」に具体的な内容等お書きください。

運動を継続するために必要なこととして「やる気」(「そう思う」と「どちらかと言うとそう思う」の合計)が79.2%と最も多く、ついで「健康」が70.0%、「時間」が65.1%となっている。前回(H23)調査でも「やる気」「健康」「時間」が運動をするうえで必要とする割合が高かった。

【運動継続のために必要な事 「そう思う」「どちらかと言うとそう思う」の合計】



※平成 29 年度からの新設問

○ 一週間当たりの身体活動量

今回の調査では、「健康づくりのための身体活動基準2013」に基づき、アンケート調査対象者の1週間当たりの身体活動量をメッツを用いて計算し、評価を行った。

メッツとは、運動強度の単位で、安静時を1とした時と比較して何倍のエネルギーを消費するかで活動の強度を示したものである。

メッツで表された活動強度に活動実施時間(時)を乗じたものをメッツ・時といい、運動・活動量(身体活動量)の単位として用いられている。

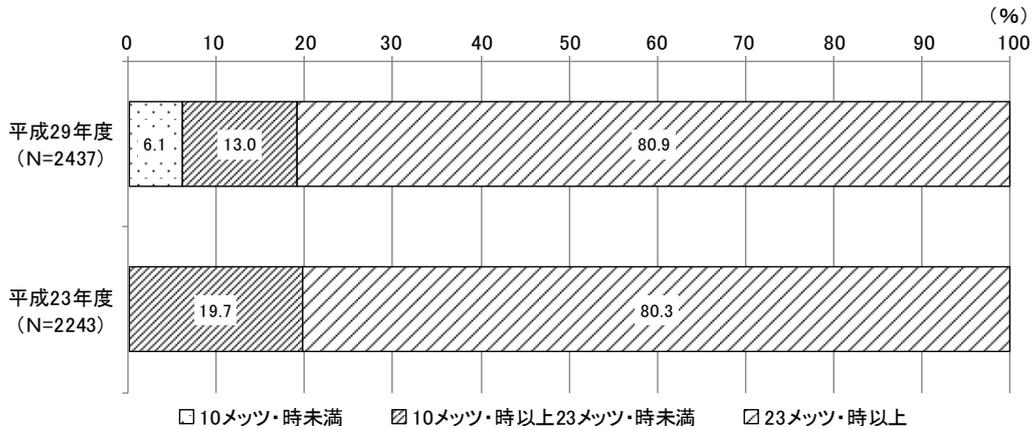
「健康づくりのための身体活動基準2013」参照

メッツ (強度)	生活活動	運動
2.0	料理・洗濯	
2.3		ストレッチ
3.0	歩く・買い物	ボウリング、バレーボール
3.3	掃除	身体的にやや負担がかかり、少し息がはずむもの
3.5	庭の草むしり、ガーデニング、子どもと遊ぶ	筋力トレーニング、ゴルフ
4.0	自転車に乗る、介護	軽い体操、卓球
4.3		ウォーキング
5.0		バレエ、ダンス、ソフトボール、野球 身体的にきついと感じ、かなり呼吸が乱れるもの
5.3		水中運動、エアロビクス
5.5		バトミントン
6.0		バスケットボール
6.5		登山
7.0		ジョギング、サッカー
7.3		エアロビクス、テニス
8.0		サイクリング
8.3		水泳

健康づくりのための身体活動基準2013において、健診結果が基準範囲内の65歳以上は強度を問わず、身体活動を毎日40分(=10メッツ・時/週)、18~64歳は歩行と同等以上の運動を毎日60分(=23メッツ・時/週)、3メッツ以上の運動を毎週60分(=4メッツ・時/週)行うことを推奨している。

①一週間当たりの生活活動量の経年比較

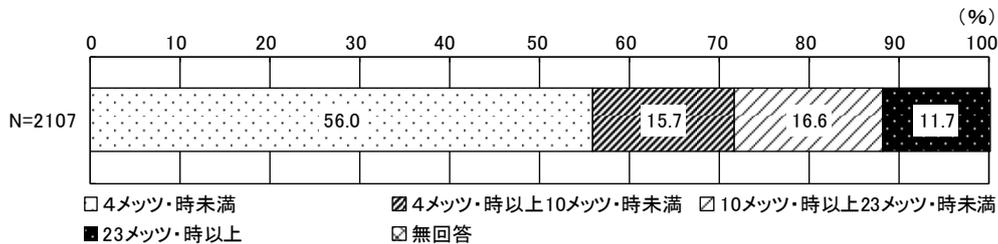
「23 メッツ・時以上」が 80.9%で最も多くなっている。前回(H23)調査と比べ、大きな違いはみられない。



※ 各生活活動にかかるメッツ(運動強度)と1週間当たりの時間の積を合計して算出している。例えば、「歩く」「買い物」に1週間当たり1時間を費やし、30分「自転車に乗る」機会のある人の場合、「3.0メッツ(歩く)×1時間+3.0メッツ(買い物)×1時間+4.0メッツ(自転車に乗る)×0.5時間=8.0メッツ・時」となる。

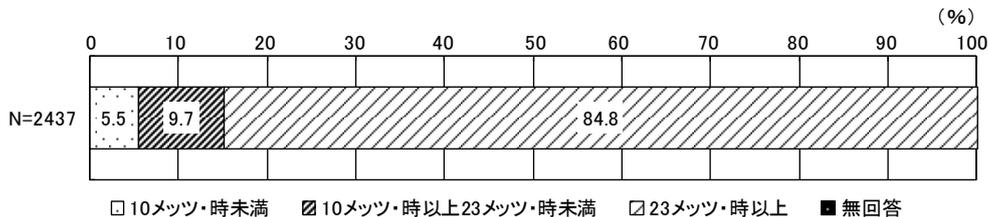
②一週間当たりの運動量について (問 23 で選択肢5を選んだ人を除いて計算)

一週間当たりの運動量では「10 メッツ・時未満」が 71.7%と多くなっている。



③一週間当たりの身体活動量(生活活動+運動)について

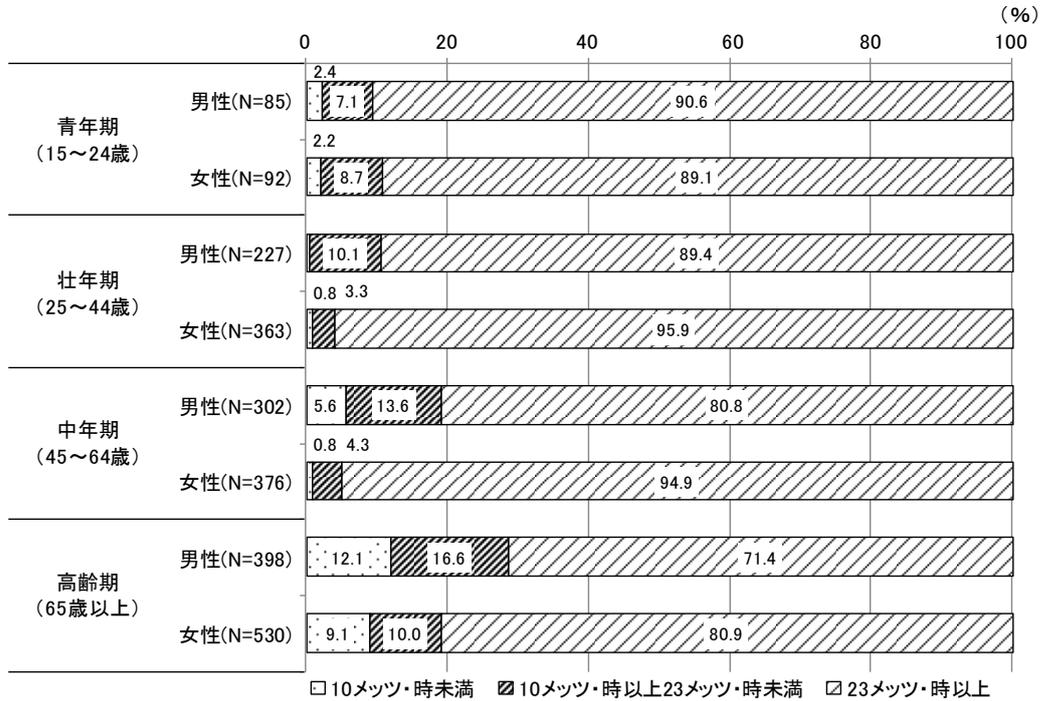
一週間当たりの身体活動量では「23 メッツ・時以上」が最も多く、84.8%となっている。



※ 運動及び身体活動については、前回(H23)調査においては特に長期間、実施している運動種目を3つまで選択し、それらの1週間あたりの運動強度と生活活動の運動強度の和を運動または身体活動メッツとして算出していた。しかし、今回調査においては、期間の長短に関わらず、普段実施している運動種目をすべて計算に含めており、算出方法が異なるため、本設問では前回(H23)調査との比較を行っていない。

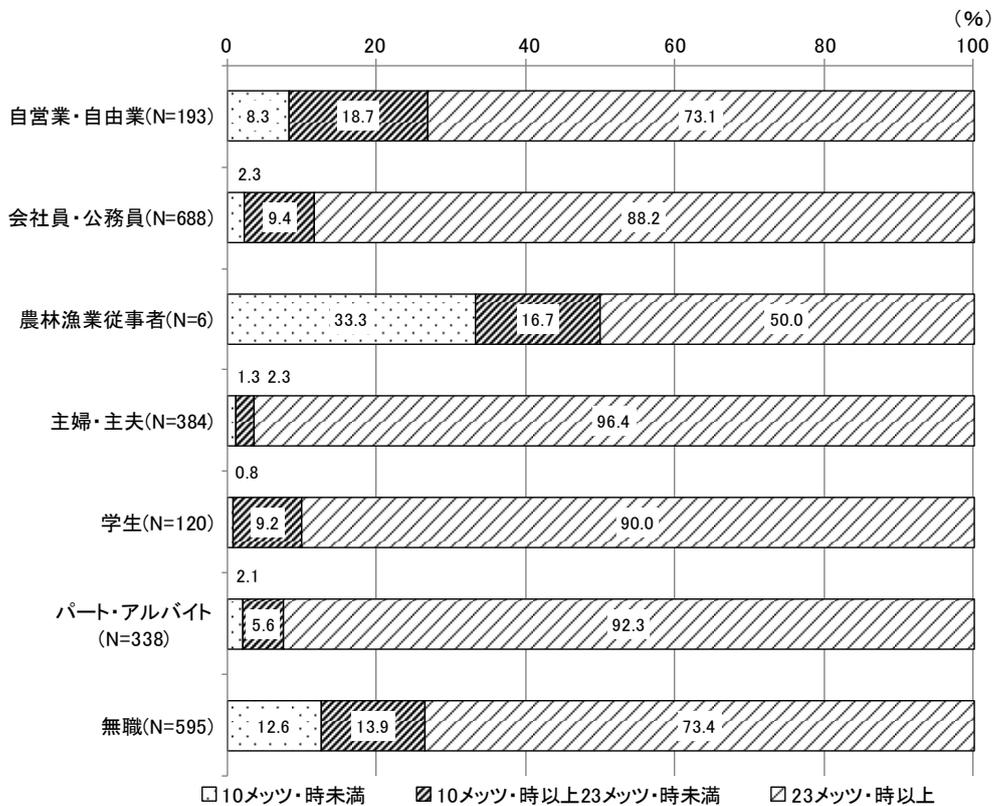
【性別・年代別にみる一週間あたりの身体活動量】

性別・年代別に関わらず、「23 メッツ・時以上」の割合が最も多くなっている。



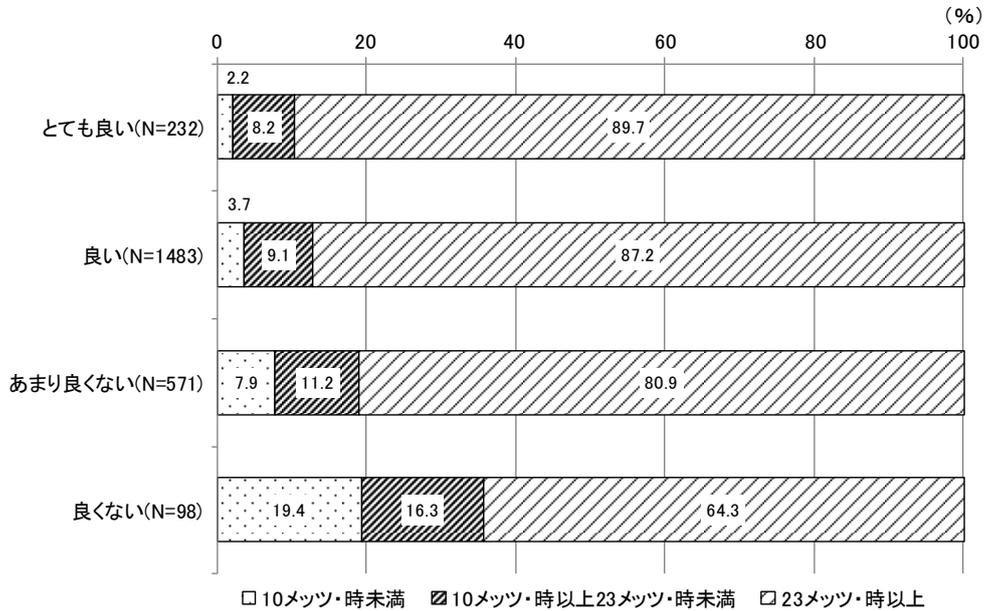
【職業別にみる身体活動量】

いずれの職業でも「23 メッツ・時以上」が多くなっており、「主婦・主夫」では 96.4%となっている。



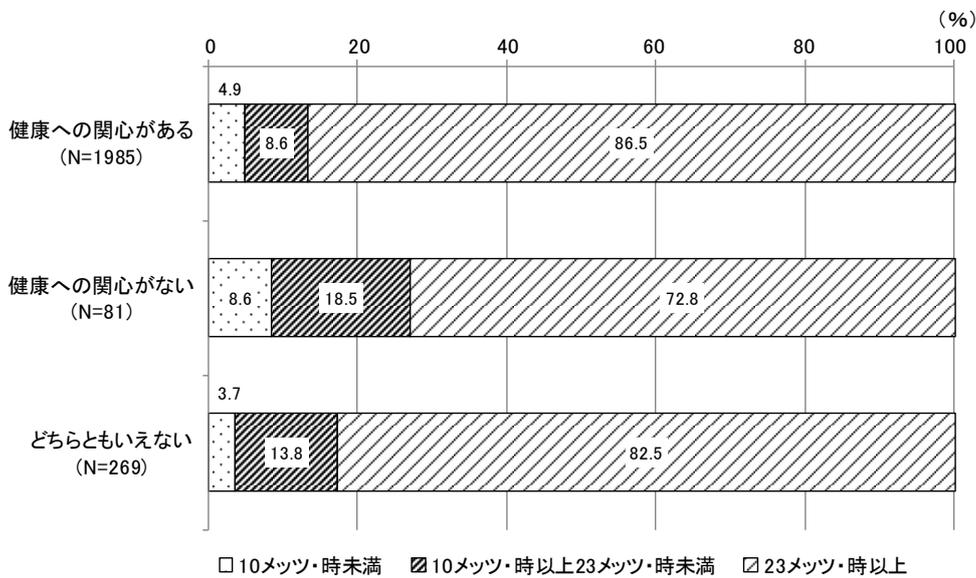
【健康状態別にみる身体活動量】

「23 メッツ・時以上」がどの項目でも多いが、「良くない」では、「10 メッツ・時未満」が 19.4%と他より多くなっている。



【健康への関心度別にみる身体活動量】

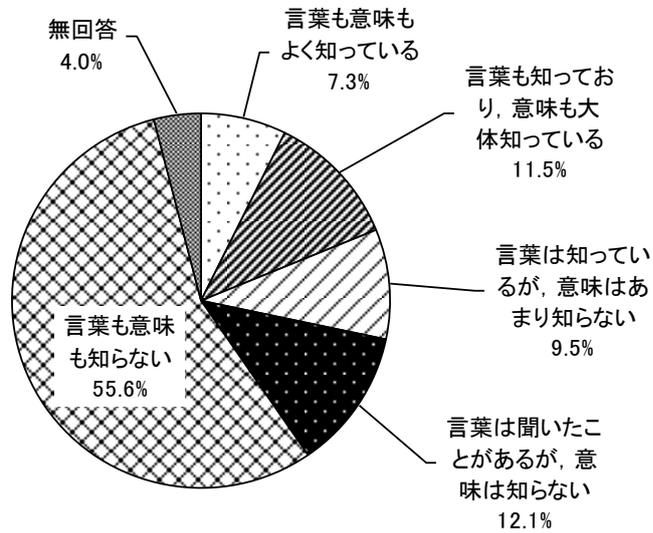
「23 メッツ・時以上」がどの項目でも多いが、健康に関心がない人では「23 メッツ・時未満」が 27.1%と多くなっている。



問 26 ロコモティブシンドロームについて、知っていますか。もっとも当てはまる番号1つに○をつけてください。

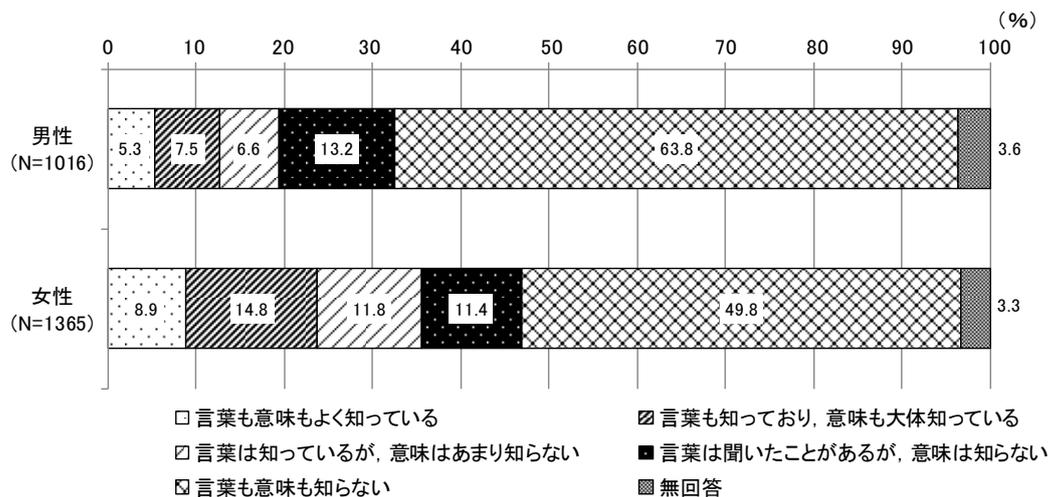
「言葉も意味も知らない」が55.6%と最も多く、ついで「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない」が12.1%、「言葉も知っており、意味も大体知っている」が11.5%となっている。

N=2437



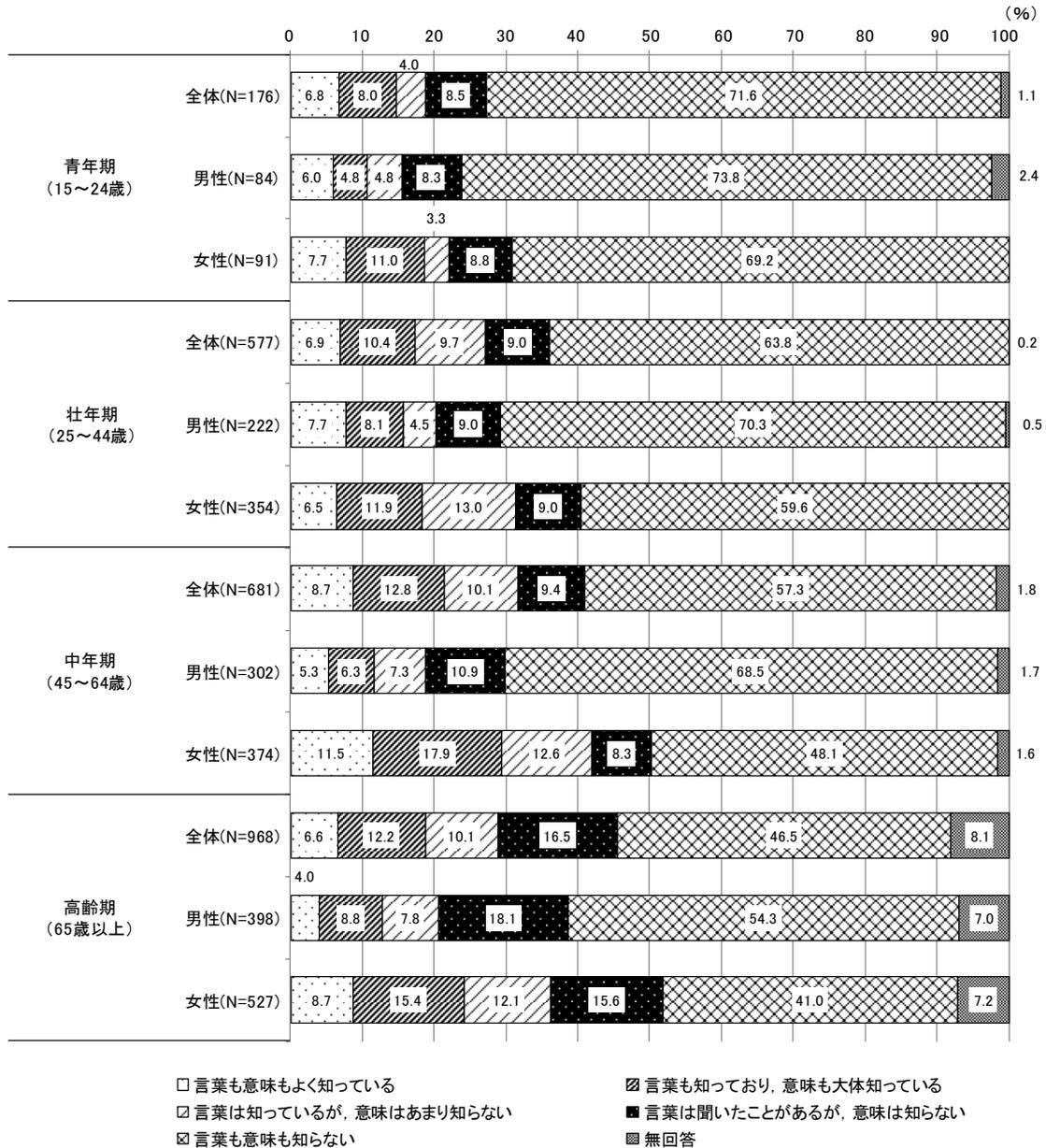
【性別にみるロコモティブシンドロームの認知度】

男性・女性ともに「言葉も意味も知らない」が最も多くなっているが、女性の方が認知度は多くなっている。



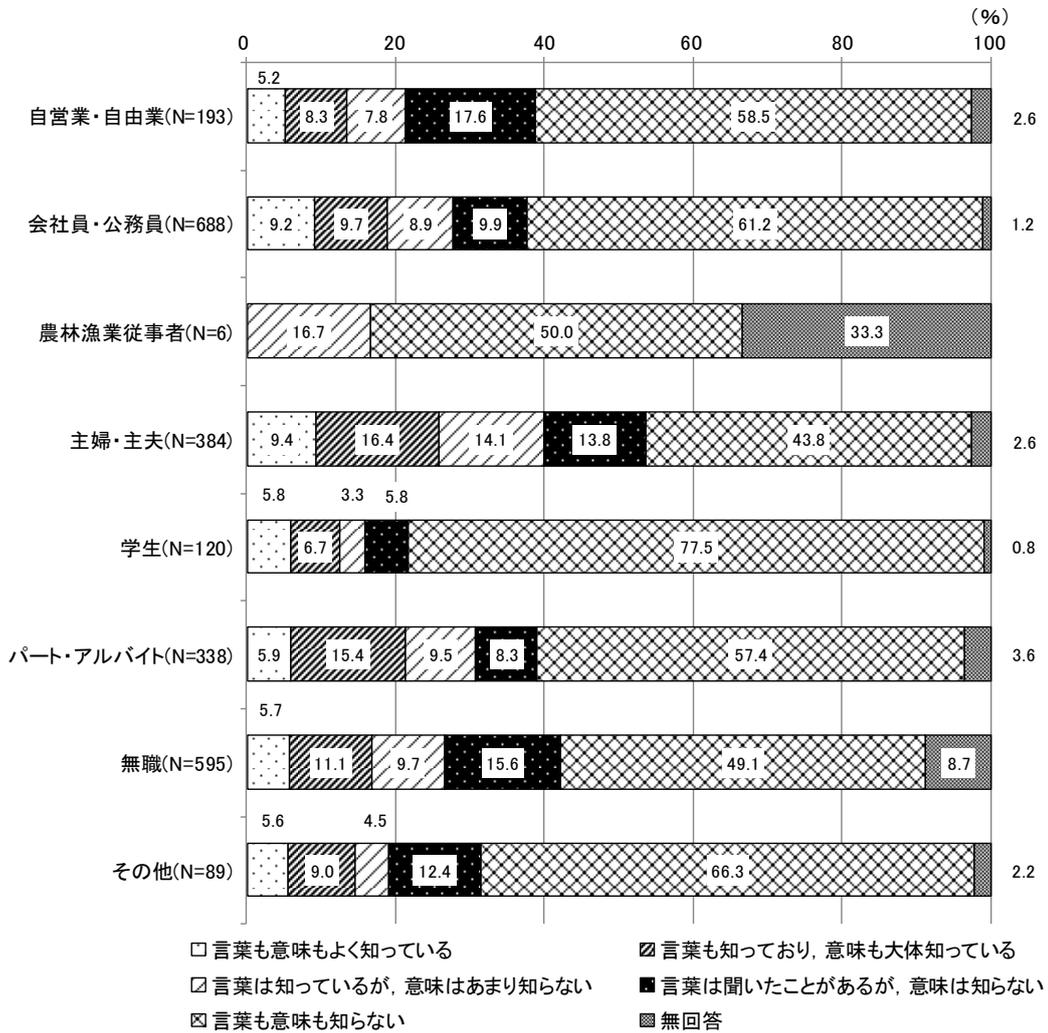
【年代別にみるロコモティブシンドロームの認知度】

各年代とも「言葉も意味も知らない」が最も多くなっている点では同様の傾向を示しているが、年代が上がるにつれて認知度が多くなっている。各年代とも男性よりも女性で認知度が多くなっている。



【職業別にみるロコモティブシンドロームの認知度】

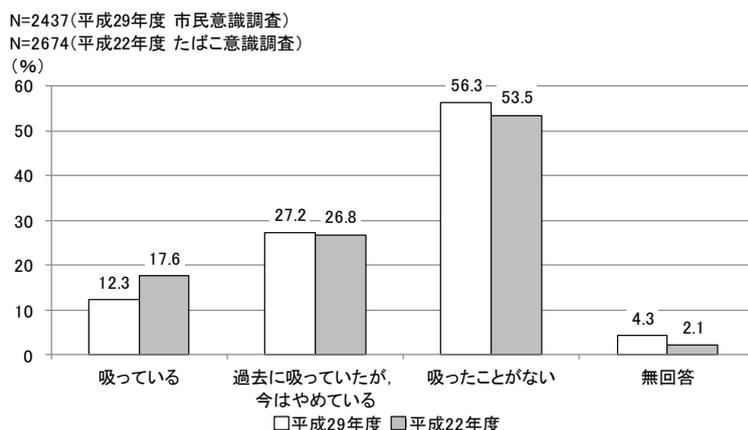
「学生」では、「言葉も意味も知らない」が77.5%と多くなっている。



5 喫煙に関する項目

問 27 あなたは、たばこを吸いますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

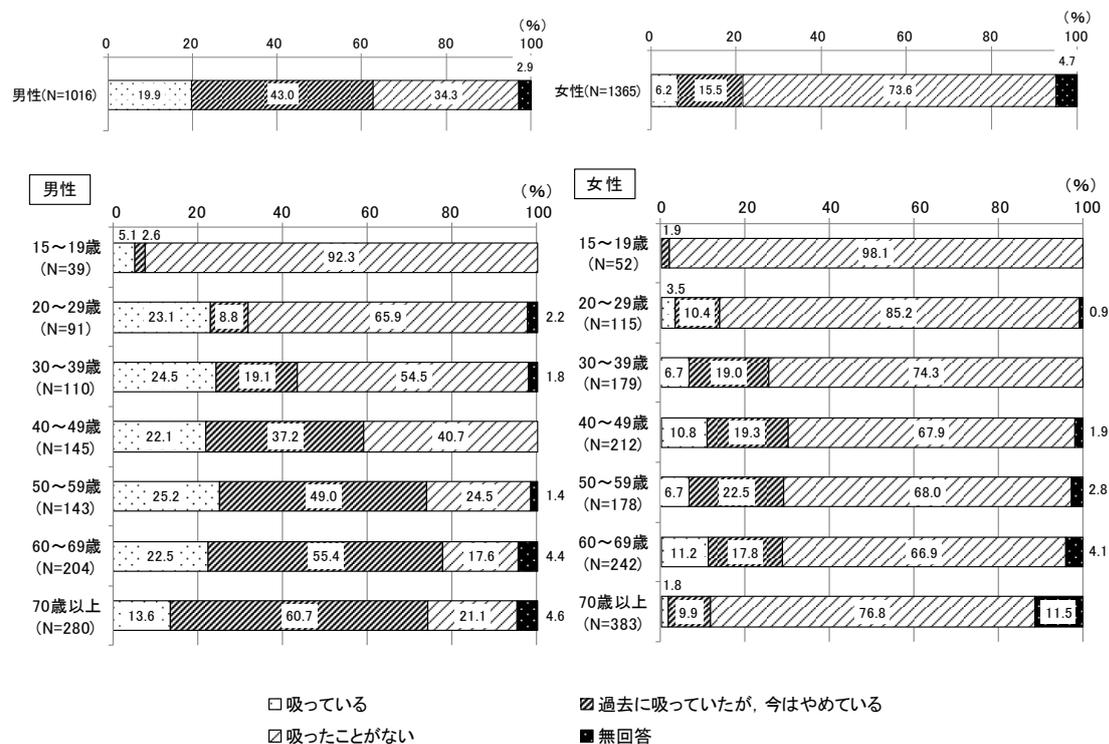
「吸ったことがない」が56.3%と最も多く、ついで「過去に吸っていたが、今はやめている」が27.2%、「吸っている」が12.3%となっている。「吸っている」の割合は、前回(H22)調査と比べ、減少している。



【性別・年代別にみる喫煙状況】

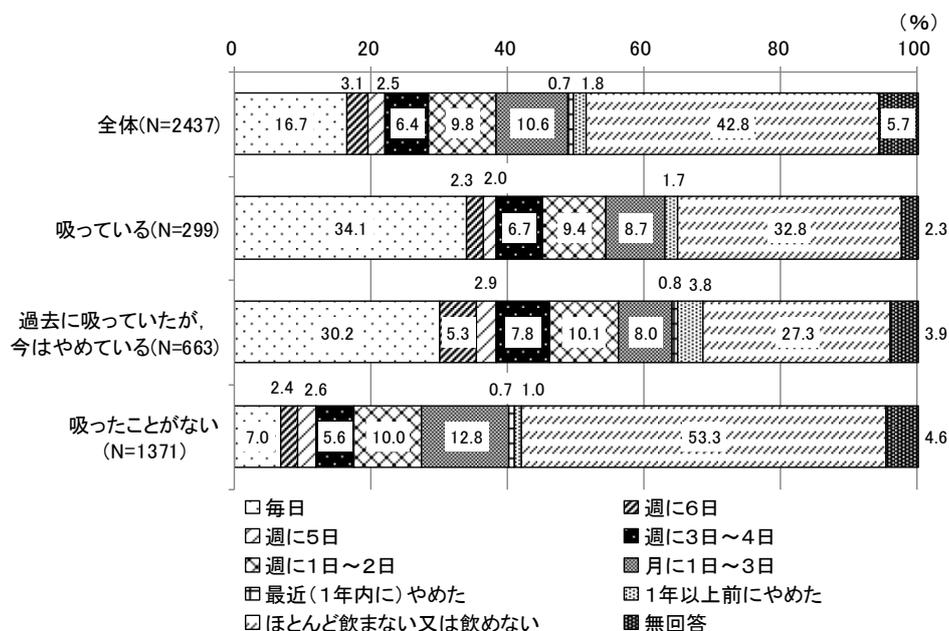
男性では、「吸ったことがない」が34.3%であるのに対し、女性では73.6%となっており、女性のほうが喫煙経験のない人が多くなっている。

男性では20歳～69歳、女性では30歳～69歳で、「吸っている」の割合が多くなっている。未成年男性でも約5%が喫煙している。40歳未満の男性では、喫煙の経験がない人が半数以上となっている。一方で女性では全ての年代で喫煙の経験のない人が60%以上となっている。



【喫煙状況別にみる飲酒頻度】

「吸っている」「過去に吸っていたが、今はやめている」では、「吸ったことがない」と比べ、「毎日」飲酒する割合が多くなっている。「吸ったことがない」では、「ほとんど飲まない又は飲めない」が53.3%となっている。



【喫煙状況別にみる生活習慣病の罹患状況】

「吸ったことがない」では、「糖尿病」、「COPD(慢性閉塞性肺疾患)」の割合が「吸っている」「過去に吸っていたが、今はやめている」よりもやや少なくなっている。

(単位: %)

	合計	脳血管疾患 (脳卒中)	悪性新生物 (がん)	心疾患	糖尿病	COPD (慢性閉塞性肺疾患)	その他	無回答
全体	(N=2437)	3.2	3.4	5.4	7.7	0.7	18.1	66.9
吸っている	(N=299)	2.3	0.7	3.7	11.0	2.7	19.7	64.2
過去に吸っていたが、今はやめている	(N=663)	4.5	6.2	8.9	12.1	0.8	19.0	57.5
吸ったことがない	(N=1371)	2.4	2.6	4.0	4.9	0.2	16.8	72.9

【所得別にみる喫煙状況】

「800万円以上」では、他よりもやや喫煙率が少なく、9.0%となっている。

(単位:%)

	合計	吸っている	過去に吸っていたが、今はやめている	吸ったことがない	無回答
全体	(N=2435)	12.3	27.2	56.3	4.2
200万円未満	(N=585)	12.5	24.6	55.6	7.4
200万円以上 ～400万円未満	(N=751)	12.6	33.0	51.4	2.9
400万円以上 ～600万円未満	(N=373)	14.2	26.5	56.3	2.9
600万円以上 ～800万円未満	(N=225)	13.3	28.4	56.4	1.8
800万円以上	(N=233)	9.0	27.9	61.4	1.7
わからない	(N=196)	9.2	11.7	74.5	4.6

【職業別にみる喫煙状況】

職業別に喫煙状況を見ると「主婦・主夫」「学生」で喫煙率が5.0%未満と少なくなっている一方で、「自営業・自由業」「会社員・公務員」では、それぞれ18.7%、17.3%と多くなっている。

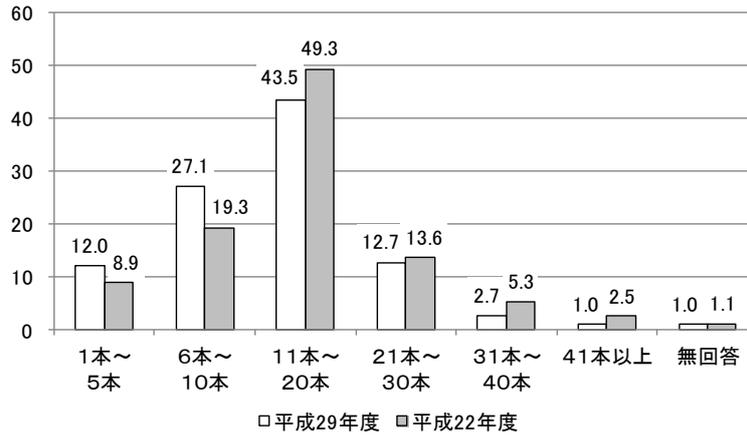
(単位:%)

	合計	吸っている	過去に吸っていたが、今はやめている	吸ったことがない	無回答
全体	(N=2435)	12.3	27.2	56.3	4.2
自営業・自由業	(N=193)	18.7	34.7	40.9	5.7
会社員・公務員	(N=687)	17.3	29.5	51.4	1.7
農林漁業従事者	(N=6)	0.0	83.3	0.0	16.7
主婦・主夫	(N=384)	4.4	15.4	75.5	4.7
学生	(N=120)	2.5	3.3	94.2	0.0
パート・アルバイト	(N=337)	11.3	24.0	62.0	2.7
無職	(N=595)	12.1	35.0	45.5	7.4
その他	(N=89)	11.2	36.0	51.7	1.1

問 27-1 問27で「1 吸っている」に○をつけた方にお聞きます。あなたは、1日あたり何本たばこを吸いますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「11本～20本」が43.5%と最も多く、ついで「6本～10本」が27.1%、「21本～30本」が12.7%となっている。

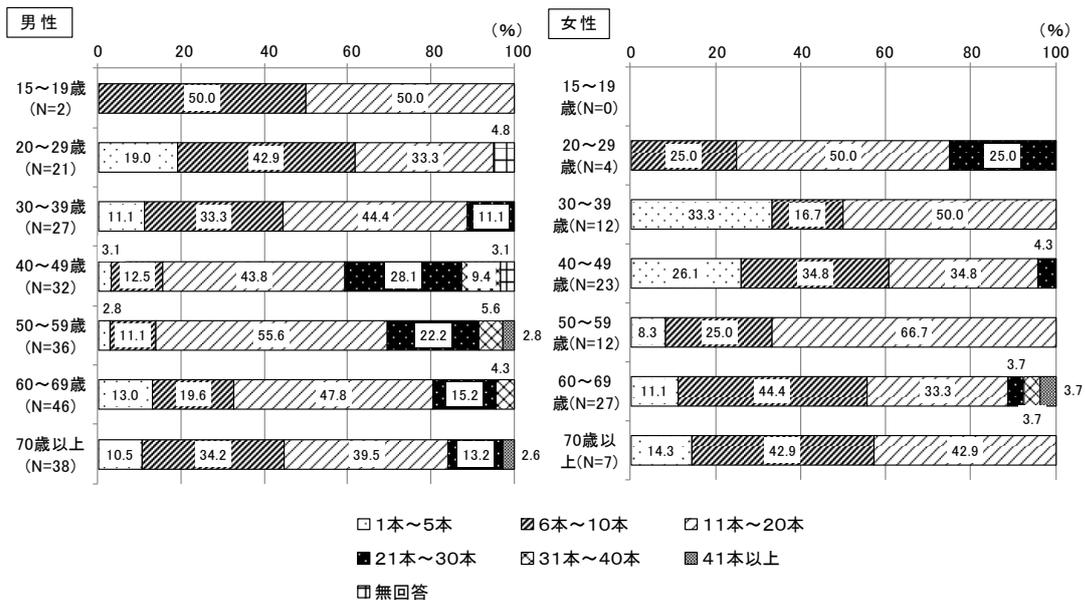
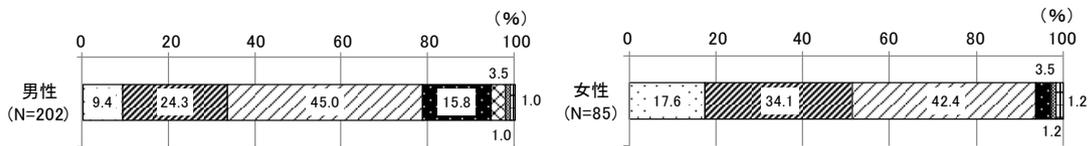
N=299 (平成29年度 市民意識調査)
N=471 (平成22年度 たばこ意識調査)
(%)



【性別・年代別にみる1日当たりの喫煙本数】

男性・女性ともに「11～20本」が最も多くなっている。また、女性では10本以下の人が51.7%であるのに対し、男性では33.7%となっている。

男性の20代、30代、70代以上では「6本～10本」が最も多く、40代～60代では「11本～20本」が最も多くなっている。



【所得別にみる喫煙本数】

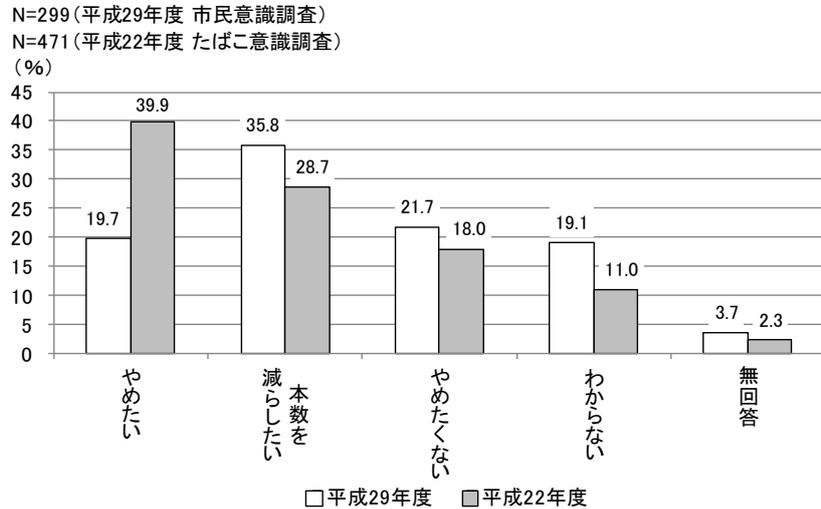
「800万円以上」では、「1本～5本」が他よりもやや多くなっている。

(単位:%)

	合計	1本～5本	6本～10本	11本～20本	21本～30本	31本～40本	41本以上	無回答
全体	(N=299)	12.0	27.1	43.5	12.7	2.7	1.0	1.0
200万円未満	(N=73)	12.3	27.4	47.9	9.6	1.4	1.4	0.0
200万円以上 ～400万円未満	(N=95)	15.8	27.4	38.9	13.7	2.1	1.1	1.1
400万円以上 ～600万円未満	(N=53)	7.5	18.9	49.1	18.9	3.8	0.0	1.9
600万円以上 ～800万円未満	(N=30)	3.3	43.3	30.0	20.0	3.3	0.0	0.0
800万円以上	(N=21)	23.8	9.5	61.9	0.0	4.8	0.0	0.0
わからない	(N=18)	11.1	33.3	38.9	5.6	0.0	5.6	5.6

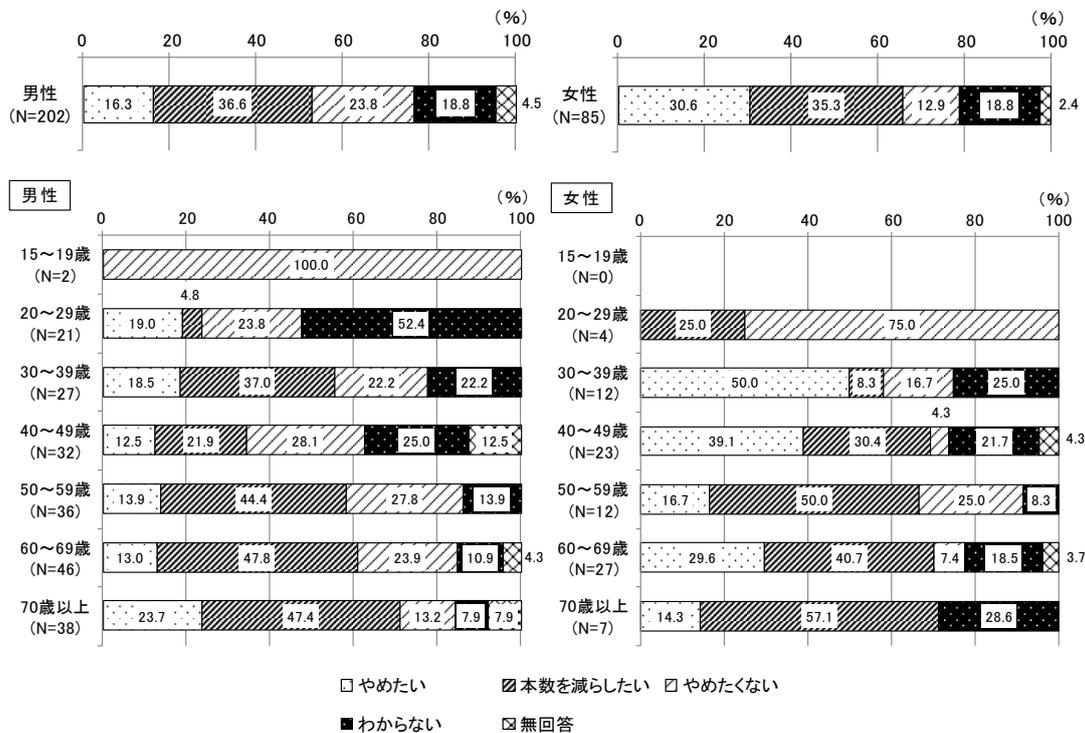
問 27-2 今後、たばこをやめたいと思いますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「本数を減らしたい」が 35.8%と最も多く、ついで「やめたくない」が 21.7%、「やめたい」が 19.7% となっている。



【性別・年齢区分別にみる禁煙意向】

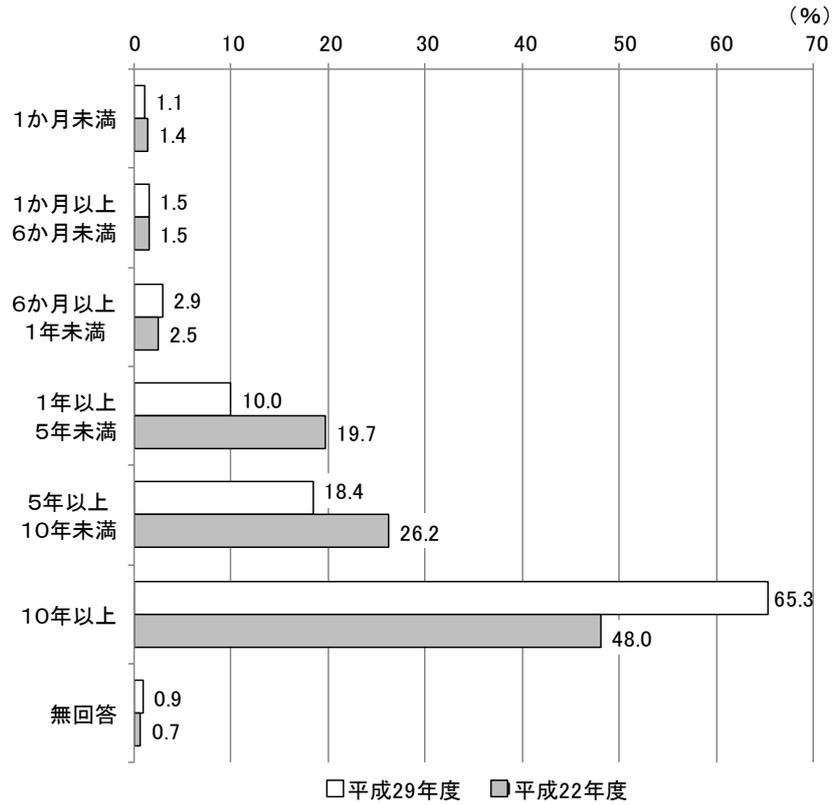
男性・女性ともに「本数を減らしたい」が 30%以上と最も多いことは同様だが、女性は「やめたい」も 30.6%と多くなっている。一方で、男性は「やめたくない」が「やめたい」よりも多くなっている。男性の 20 代～60 代では、「やめたい」の割合が少なく、40 代では「やめたくない」が 28.1%と一番多くなっている。女性の 40 代以上で「本数を減らしたい」が最も多くなっている。



問 27-3 問27で「2 過去に吸っていたが、今はやめている」に○をつけた方にお聞きます。
 あなたは、たばこをやめてからどのくらいの期間が経ちますか。当てはまる番号1つに○
 をつけてください。

「10年以上」が65.3%と最も多く、ついで「5年以上10年未満」が18.4%、「1年以上5年未
 満」が10.0%となっている。

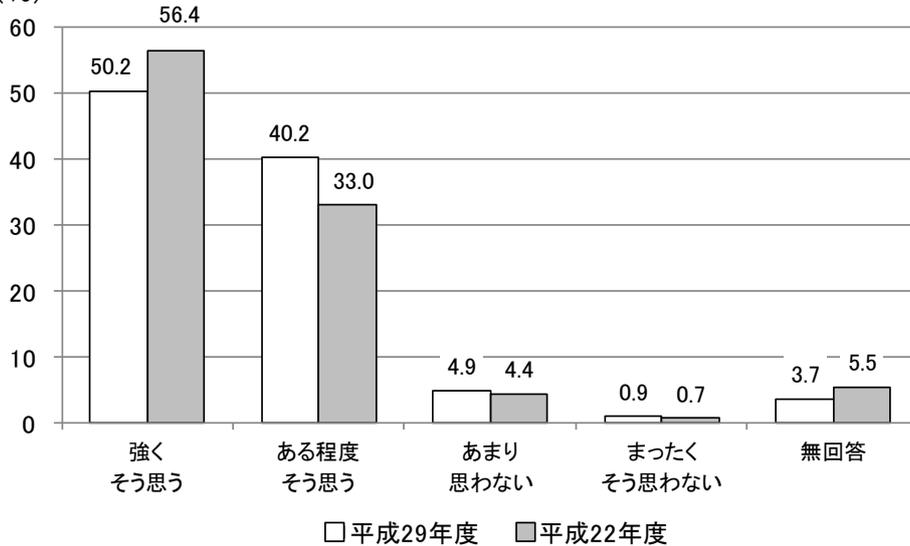
N=663(平成29年度 市民意識調査)
 N=717(平成22年度 たばこ意識調査)



問 28 あなたは、「受動喫煙」が健康に悪影響を及ぼすと思いますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

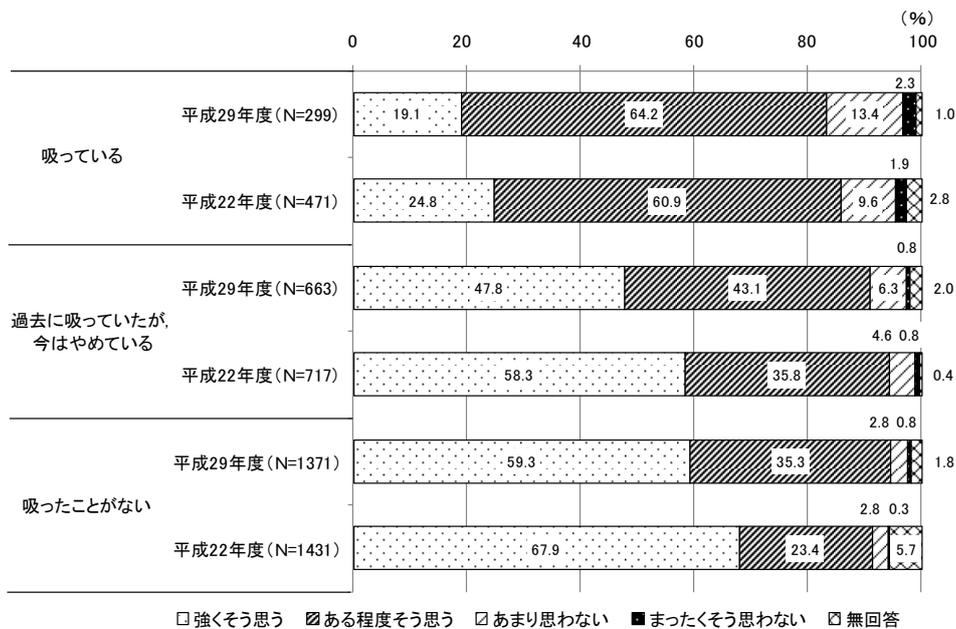
「強くそう思う」と「ある程度そう思う」の合計が90.4%となっている。

N=2437(平成29年度 市民意識調査)
N=2674(平成22年度 たばこ意識調査)
(%)



【喫煙状況別にみる受動喫煙による健康への悪影響に対する考え】

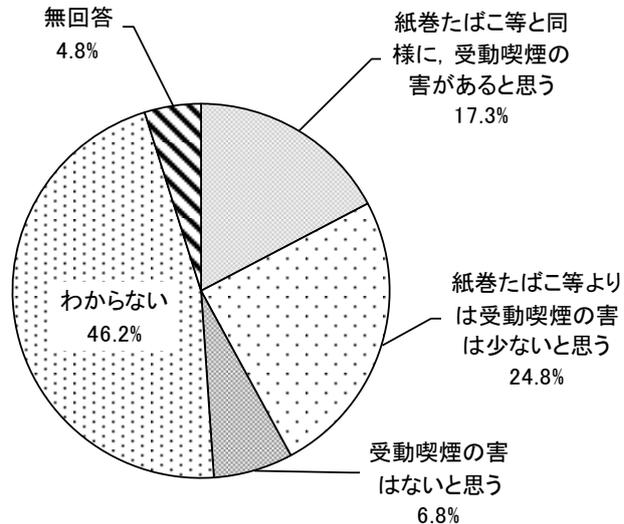
受動喫煙による健康への悪影響について「吸っている」では、「あまり思わない」「まったくそう思わない」の割合が、「過去に吸っていたが、今はやめている」「吸ったことがない」に比べて多かった。



問 29 最近では、従来の紙巻たばこ等とは別に、新型たばこ(電子式, 加熱式等)が販売されていますが、新型たばこについてどのように思いますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「わからない」が46.2%と最も多く、ついで「紙巻たばこ等よりは受動喫煙の害は少ないと思う」が24.8%、「紙巻たばこ等と同様に、受動喫煙の害があると思う」が17.3%となっている。

N=2437



※国民生活センターによると、ニコチンが含まれないと表示のある電子たばこからニコチンが検出された例が複数あり、電子たばこの安全性は根拠が不十分であるとしている。そのため、安易な使用を避けるように呼び掛けている。また、電子たばこの使用による、禁煙あるいは減煙についてもその効果が明確ではないとしている。さらに、電子たばこの使用が従来の紙巻きたばこの使用を招くゲートウェー効果も懸念されている。

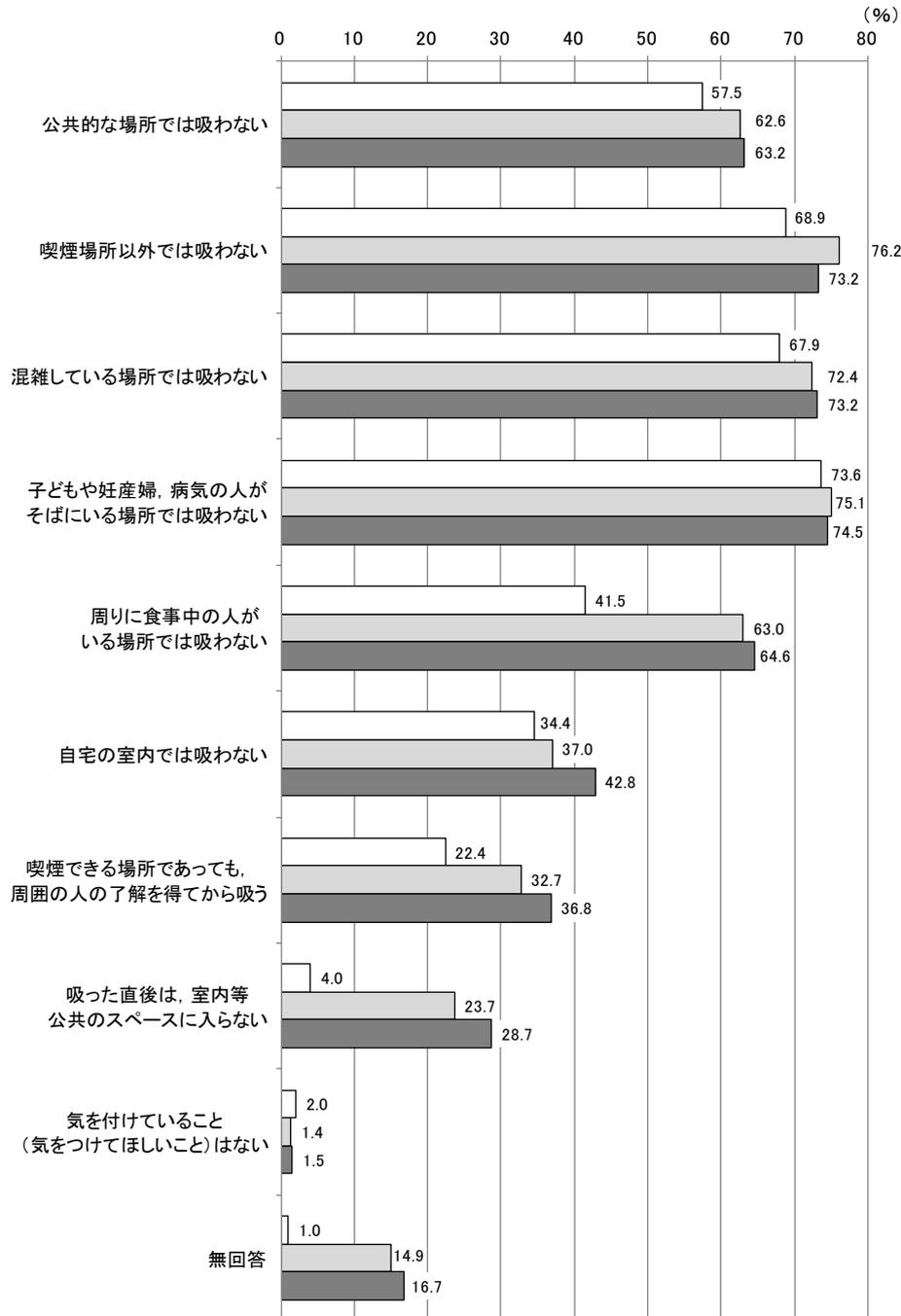
出典: 国民生活センター、厚生労働省 HP

問 30 あなたがたばこを吸うときに気をつけていること、または、たばこを吸う人に気をつけて欲しいことはありますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

【喫煙状況別にみるたばこを吸うときに気をつけていること】

「子どもや妊産婦，病気の人がそばにいる場所では吸わない」がどの項目でも 70%以上と最も多く、ついで「喫煙場所以外では吸わない」が多くなっている。

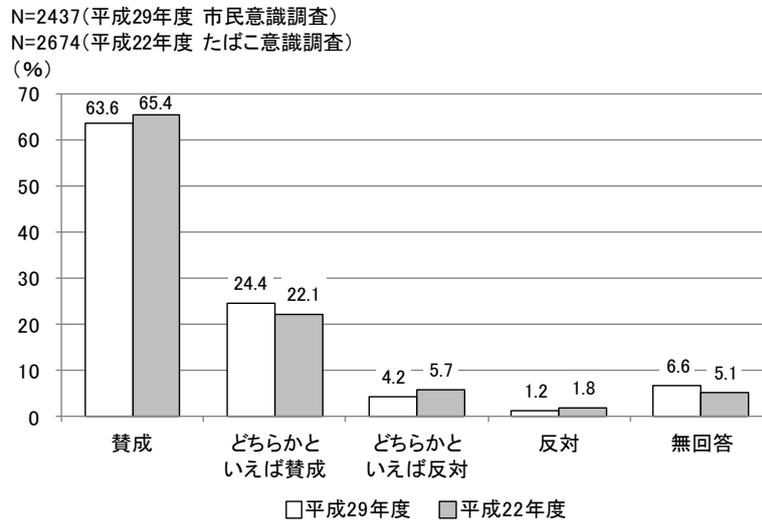
「周りに食事中の人がいる場所では吸わない」では喫煙者が，現在喫煙していない人（「過去に吸っていたが，今はやめている」「吸ったことがない」の合計）よりも，20%以上少なくなっている。



□吸っている (N=299) □過去に吸っていたが、今はやめている (N=663) ■吸ったことがない (N=1371)

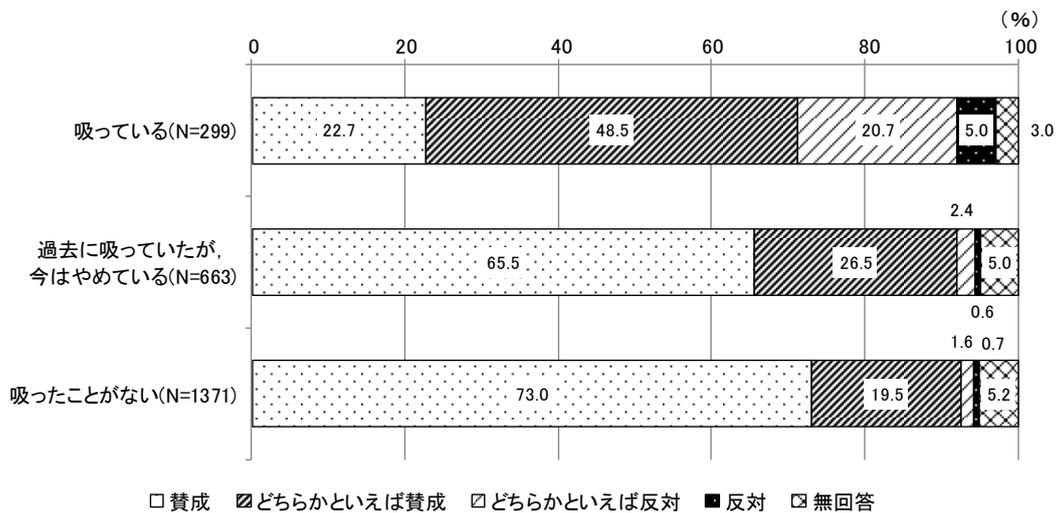
問 31 あなたは、多数の人が利用する公共的な空間の受動喫煙防止対策が進められていることについて、どのように思いますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計が 88.0%、「反対」と「どちらかといえば反対」の合計が 5.4%となっている。



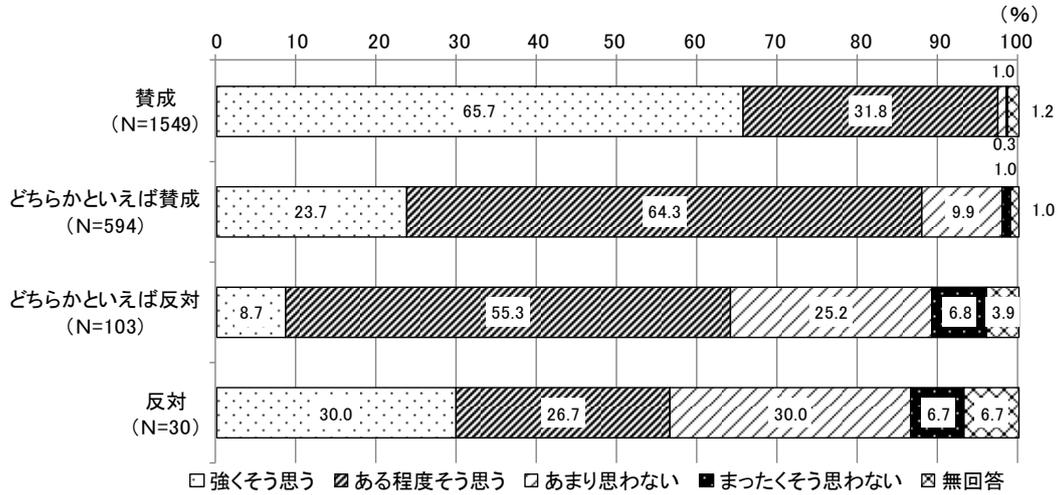
【喫煙状況別にみる受動喫煙防止対策に関する意見】

受動喫煙防止対策に賛成の割合(「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計)は、非喫煙者は90%以上であり、喫煙者も71.2%が賛成している。



【受動喫煙防止対策に関する意見にみる「受動喫煙」が健康に与える影響についての考え】

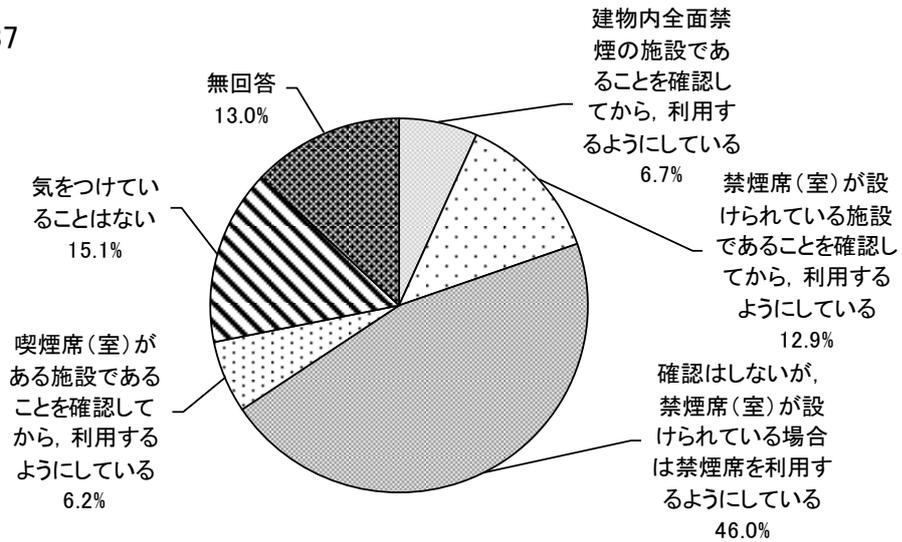
受動喫煙防止対策に賛成の人(「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計)では、「受動喫煙」が健康に悪影響を及ぼすと考えている割合(「強くそう思う」「ある程度そう思う」の合計)が 90%程度と多くなっているのに対し、受動喫煙防止対策に反対の人(「反対」「どちらかといえば反対」の合計)では、「受動喫煙」が健康に悪影響を及ぼしていると考えている人は 60%程度にとどまる。



問 32 あなたは、施設(飲食店等)を利用するときに気をつけていることはありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「確認はしないが、禁煙席(室)が設けられている場合は禁煙席を利用するようにしている」が46.0%と最も多く、ついで「気をつけていることはない」が15.1%、「禁煙席(室)が設けられている施設であることを確認してから、利用するようにしている」が12.9%となっている。

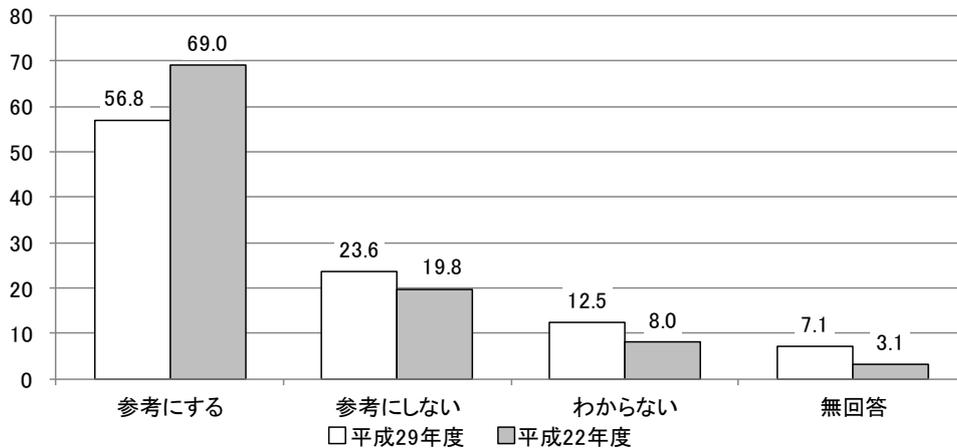
N=2437



問 33 あなたは、飲食店等の入口に禁煙や分煙の表示があれば、利用する際、入るかどうかの参考にしますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

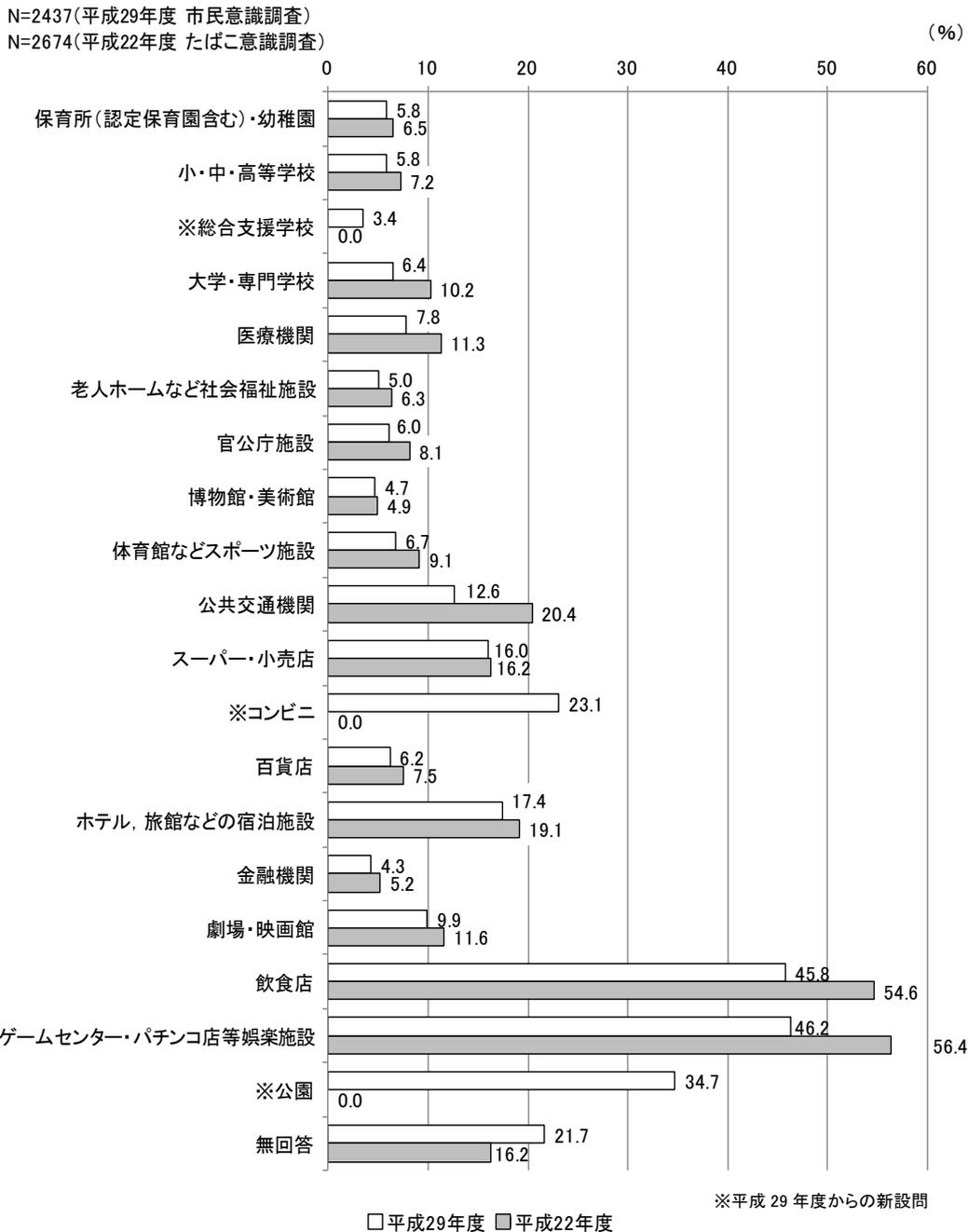
「参考にする」が56.8%と最も多く、ついで「参考にしない」が23.6%、「わからない」が12.5%となっている。

N=2437(平成29年度 市民意識調査)
N=2674(平成22年度 たばこ意識調査)
(%)



問 34 多数の人が利用する施設で、あなたが受動喫煙防止対策が十分でないと思う施設はどこですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

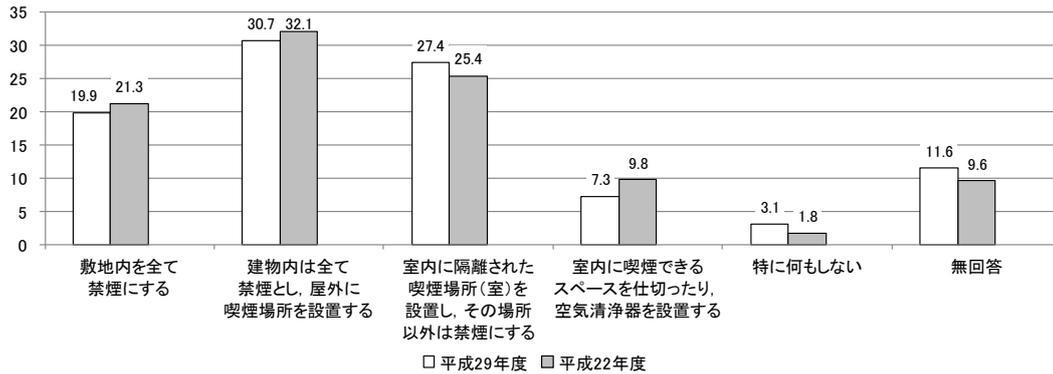
「ゲームセンター・パチンコ店等娯楽施設」が46.2%と最も多く、ついで「飲食店」が45.8%、「公園」が34.7%となっている。前回(H22)調査と比べ、全項目で割合が少なくなっている。今回調査で追加した、「コンビニ」は23.1%、「公園」は34.7%となっている。



問 35 あなたは、多数の人が利用する施設で、どのような受動喫煙防止対策を望みますか。
当てはまる番号1つに○をつけてください。

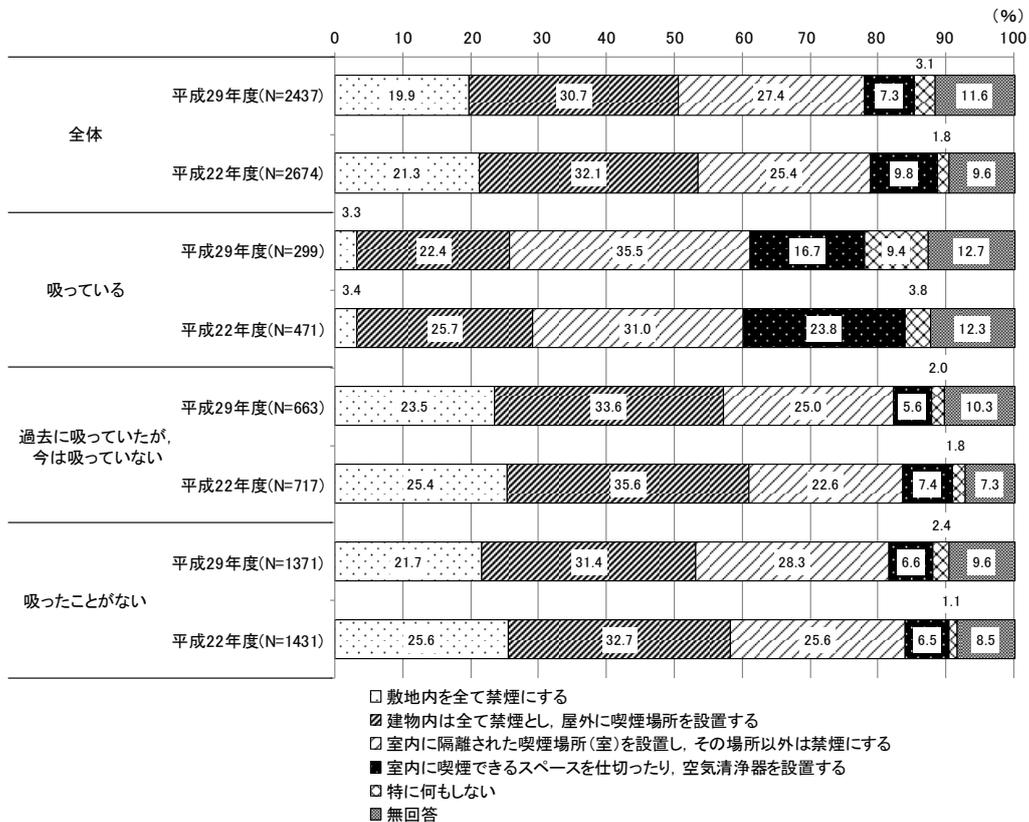
「建物内は全て禁煙とし、屋外に喫煙場所を設置する」が30.7%と最も多く、ついで「室内に隔離された喫煙場所(室)を設置し、その場所以外は禁煙にする」が27.4%、「敷地内を全て禁煙にする」が19.9%となっている。

N=2437(平成29年度 市民意識調査)
N=2674(平成22年度 たばこ意識調査)
(%)



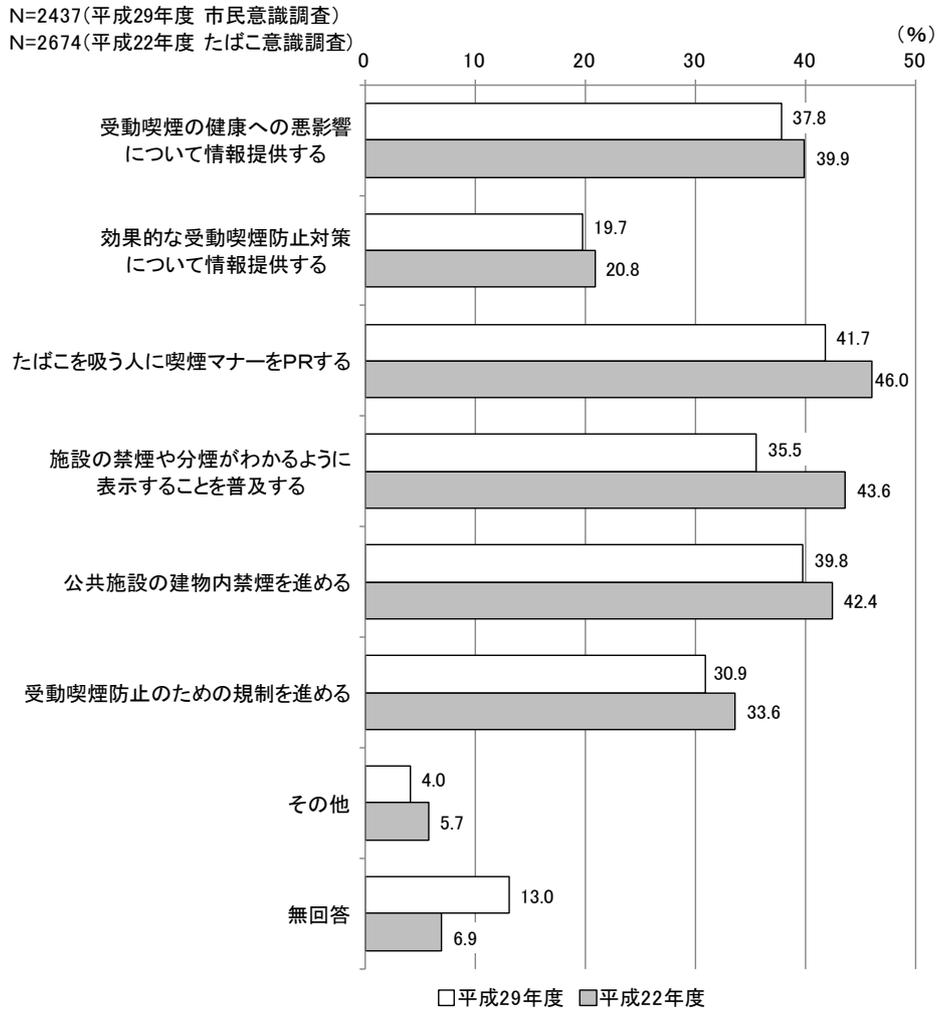
【喫煙状況別にみる受動喫煙防止対策】

喫煙者では、前回(H22)調査よりも「室内に喫煙できるスペースを仕切ったり、空気清浄機を設置する」がやや少なくなった一方で「特に何もしない」が増加している。非喫煙者では、概ね前回(H22)調査と同じ傾向を示している。



問 36 受動喫煙防止のために、行政に望むことを次の中から3つまで選び○をつけてください。

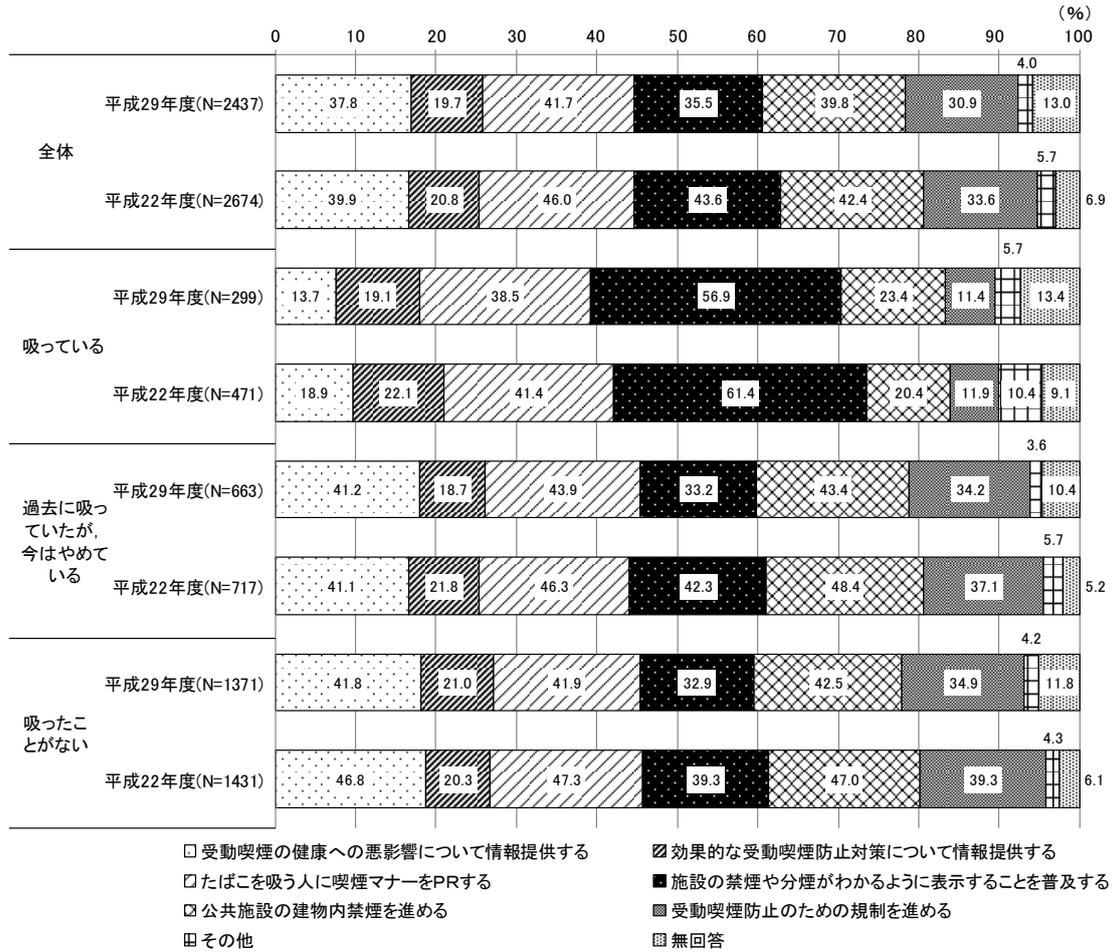
「たばこを吸う人に喫煙マナーをPRする」が41.7%と最も多く、ついで「公共施設の建物内禁煙を進める」が39.8%、「受動喫煙の健康への悪影響について情報提供する」が37.8%となっている。前回(H22)調査と比べると、全項目で割合が減少している。



【喫煙状況別にみる受動喫煙防止のために行政に望むこと】

喫煙者では、「施設の禁煙や分煙がわかるように表示することを普及する」が最も多く、56.9%となっている。一方で非喫煙者では、「公共施設の建物内禁煙を進める」「受動喫煙の健康への悪影響について情報提供する」が40%以上と喫煙者よりも20%~30%程多くなっている。また、「受動喫煙防止のための規制を進める」でも喫煙者は11.4%、非喫煙は20%以上の差がある。

前回(H22)調査と比べると、概ね同様の傾向を示しているが、全体で「施設の禁煙や分煙がわかるように表示することを普及する」が少なくなっている。



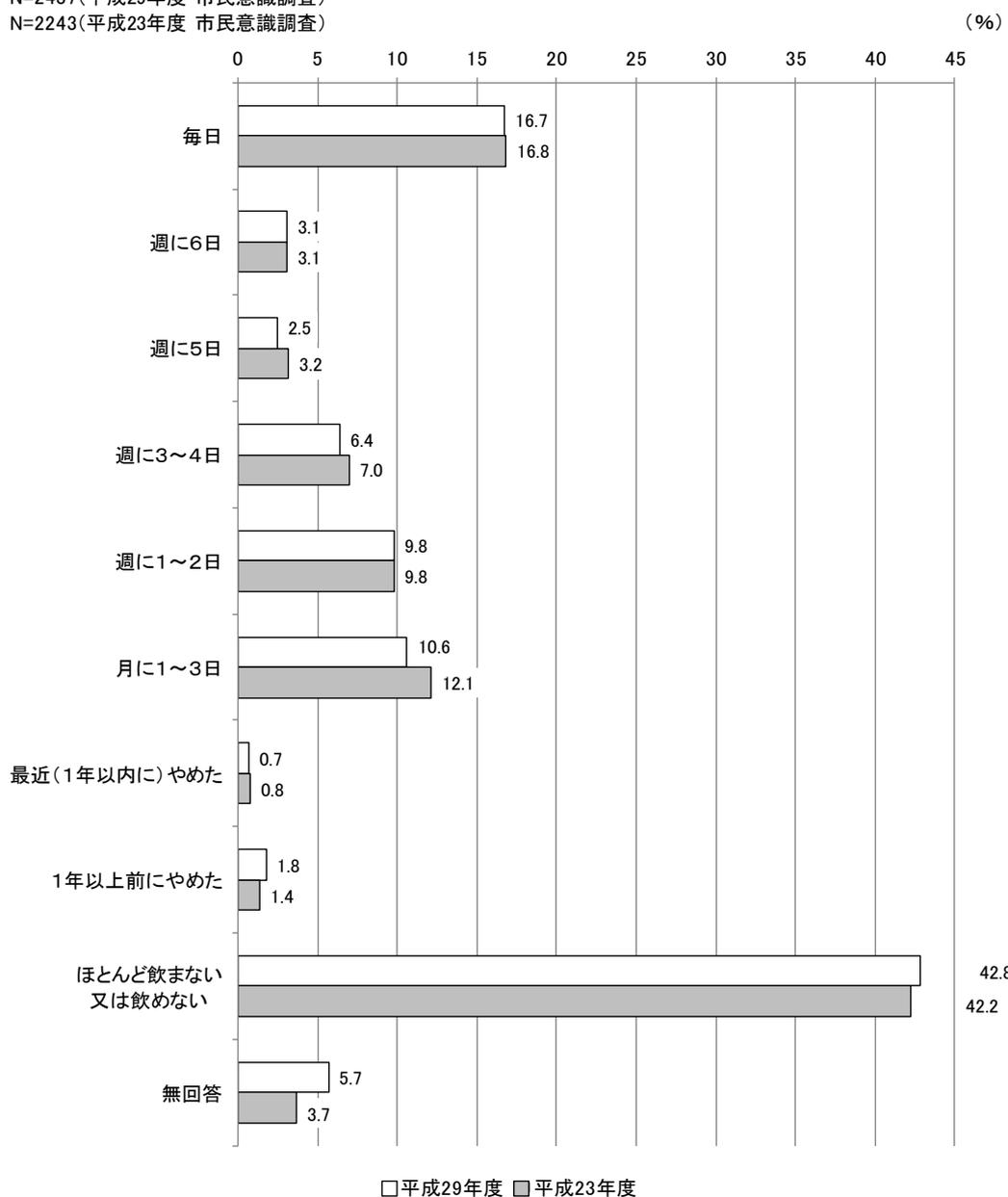
6 飲酒に関する項目

問 37 週に何日くらいお酒(アルコール)を飲みますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「ほとんど飲まない又は飲めない」が42.8%と最も多く、ついで「毎日」が16.7%、「月に1日～3日」が10.6%となっている。

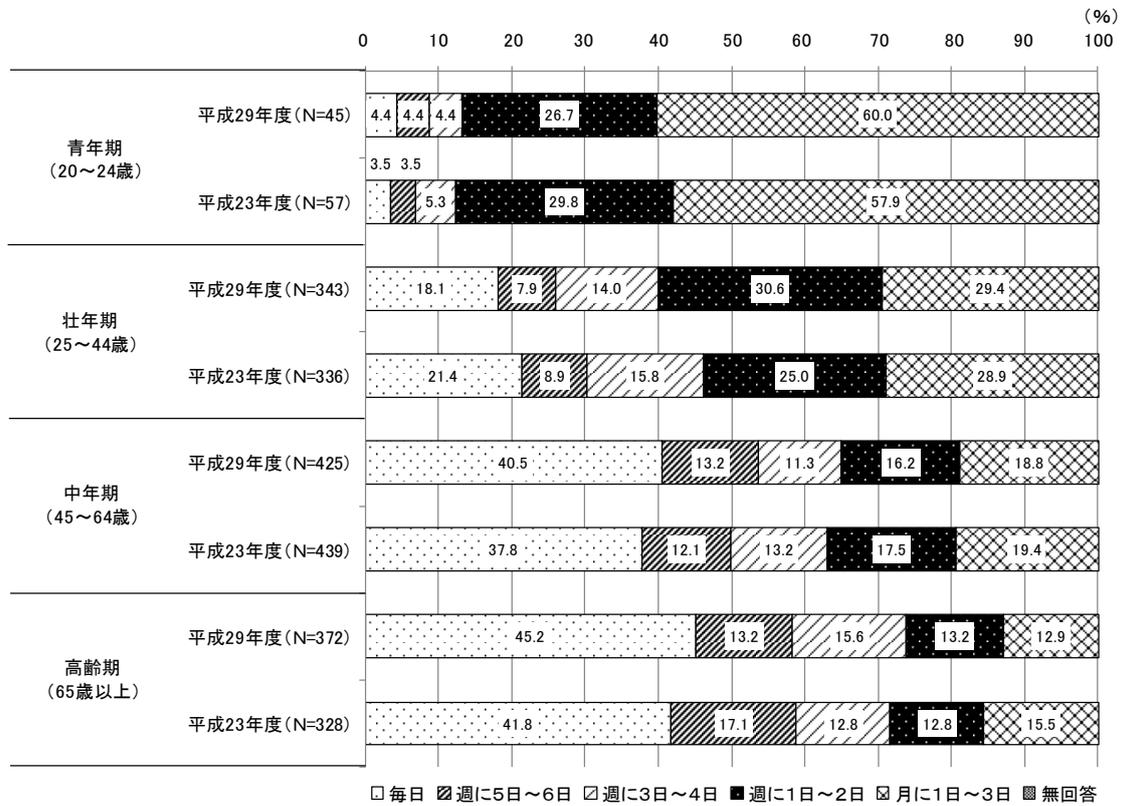
N=2437(平成29年度 市民意識調査)

N=2243(平成23年度 市民意識調査)



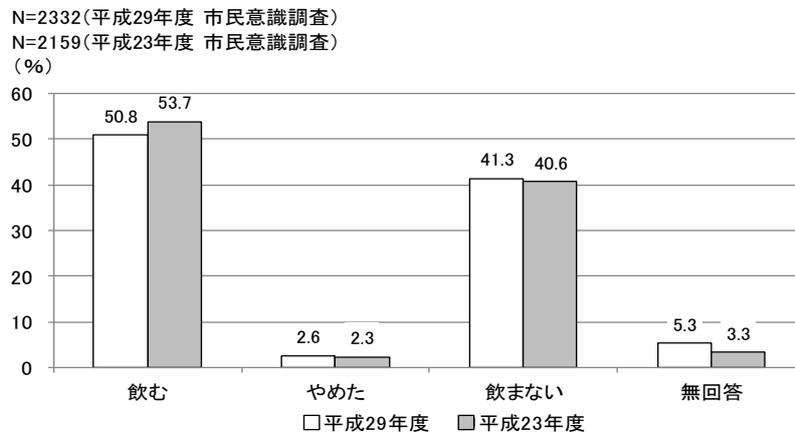
【年代別にみる飲酒頻度】

前回(H23)調査と比較した場合、各年代とも概ね同様の傾向を示している。中年期と高齢期では前回(H23)調査よりも「毎日」飲酒する人の割合が増加しているが、壮年期ではやや減少している。



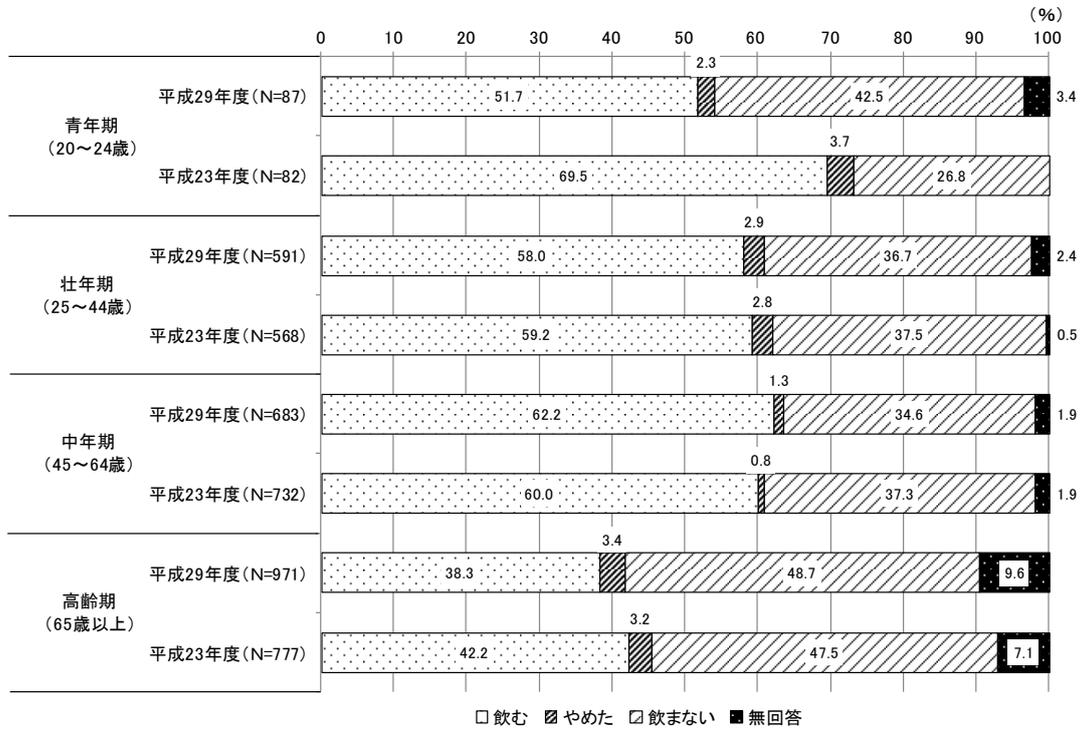
【成人の飲酒状況】

成人のうち飲酒する人(「毎日」~「月に1日~3日」と回答した方)の割合は、50.8%となっており、前回(H23)調査と概ね同じとなっている。「やめた」「飲まない」人も同程度となっている。



【年代別にみる飲酒状況】

青年期では飲酒する人の割合は前回(H23)調査よりも 20%近く減少しているが、その他の年代では、ほぼ横ばいとなっている。



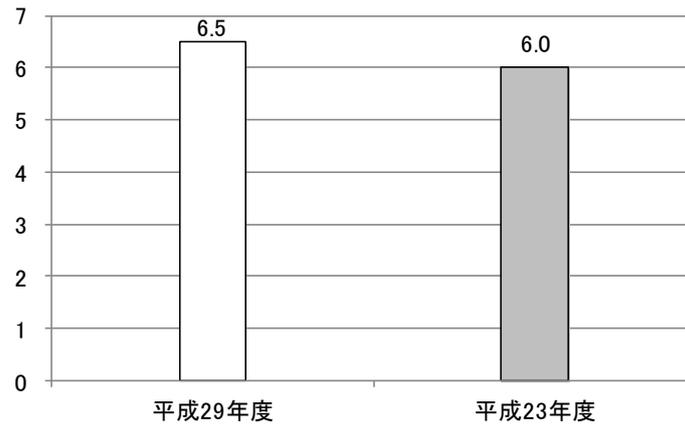
【未成年の飲酒】

未成年者の飲酒率が 6.5%となっており、前回(H23)調査とほぼ同じ結果となっている。

N=92 (平成29年度 市民意識調査)

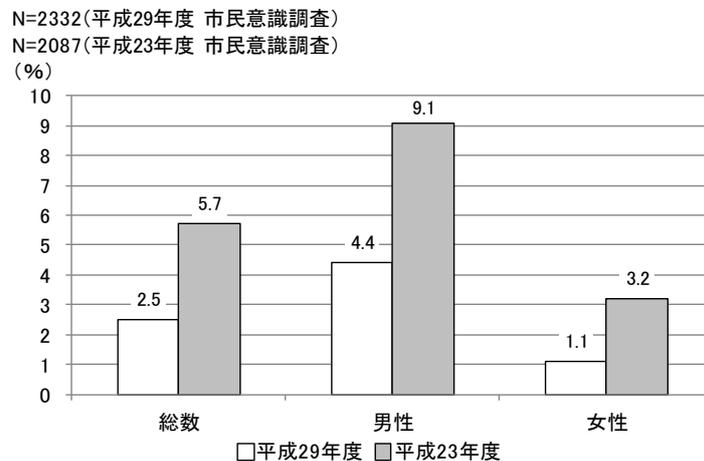
N=84 (平成23年度 市民意識調査)

(%)



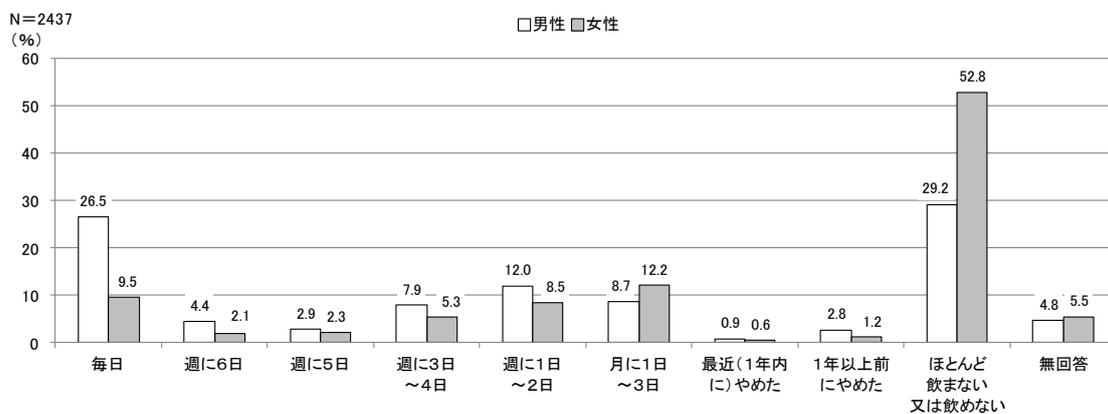
【性別にみる多量飲酒者(1日当たり純アルコール60g(日本酒では約3合)以上飲酒する人)の割合】

多量飲酒者の割合は男性が4.4%、女性が1.1%となっており、前回(H23)調査から半分以下になっている。



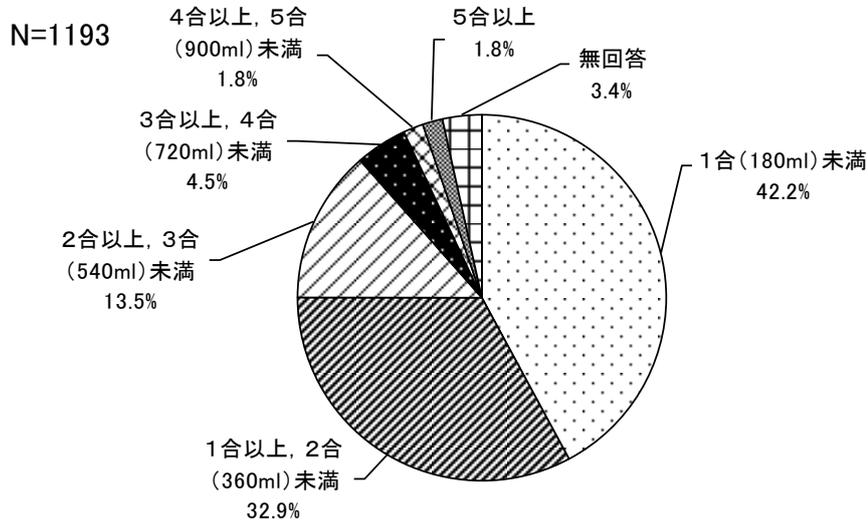
【性別にみる飲酒頻度】

男性・女性ともに「ほとんど飲まない又は飲めない」が最も多くなっているが、男性29.2%に対し、女性は52.8%と2割程度少なくなっている。また、男性では「毎日」が26.5%と多いのに対して、女性では9.5%と男性の半分以下となっている。



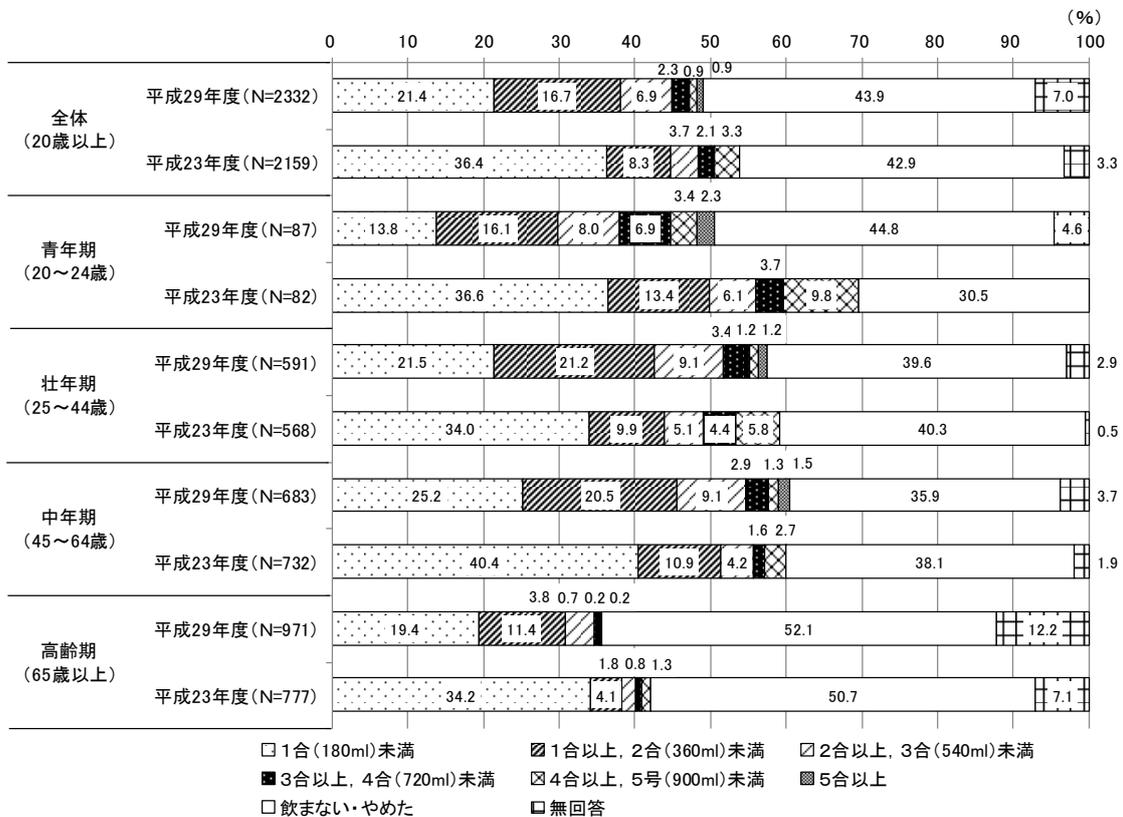
問 37-1 問37で「1 毎日」～「6 月に1日～3日」に○をつけた方にお聞きます。あなたがお酒を飲む量は、1日あたりどのくらいの量ですか。清酒に換算し、当てはまる番号1つに○をつけてください。

「1合(180ml)未満」が42.2%と最も多く、ついで「1合以上、2合(360ml)未満」が32.9%、「2合以上、3合(540ml)未満」が13.5%となっている。



【年代別にみる1日あたりの飲酒量】

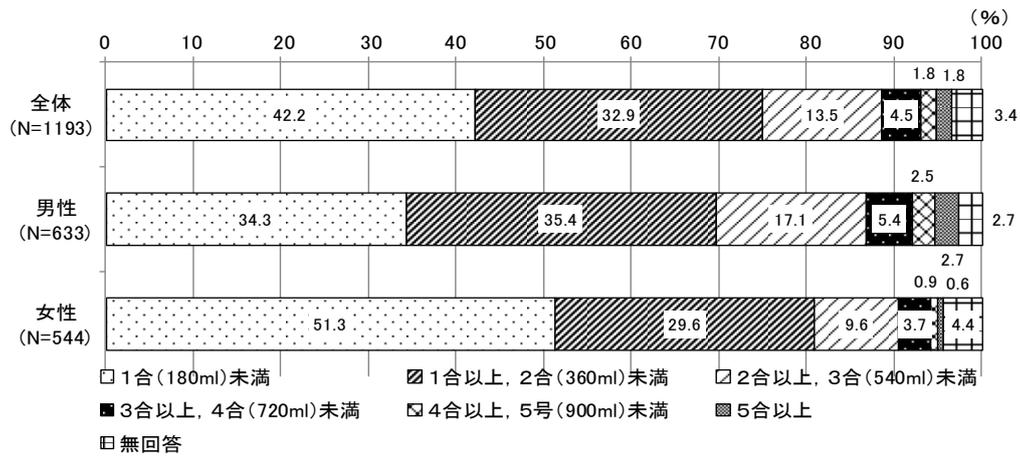
前回(H23)調査と比較した場合、青年期では「飲まない・やめた」の割合が約15%増加している。また、各世代とも2合未満の飲酒の割合が減少している。



※前回(H23)調査においては、「4合以上、5合未満」及び「5合以上」を区分せずに合算した割合を「4合以上」として示している。そのため、下記グラフにおいても、平成23年度の結果については「4合以上、5合未満」に「5合以上」の飲酒者も含まれている。

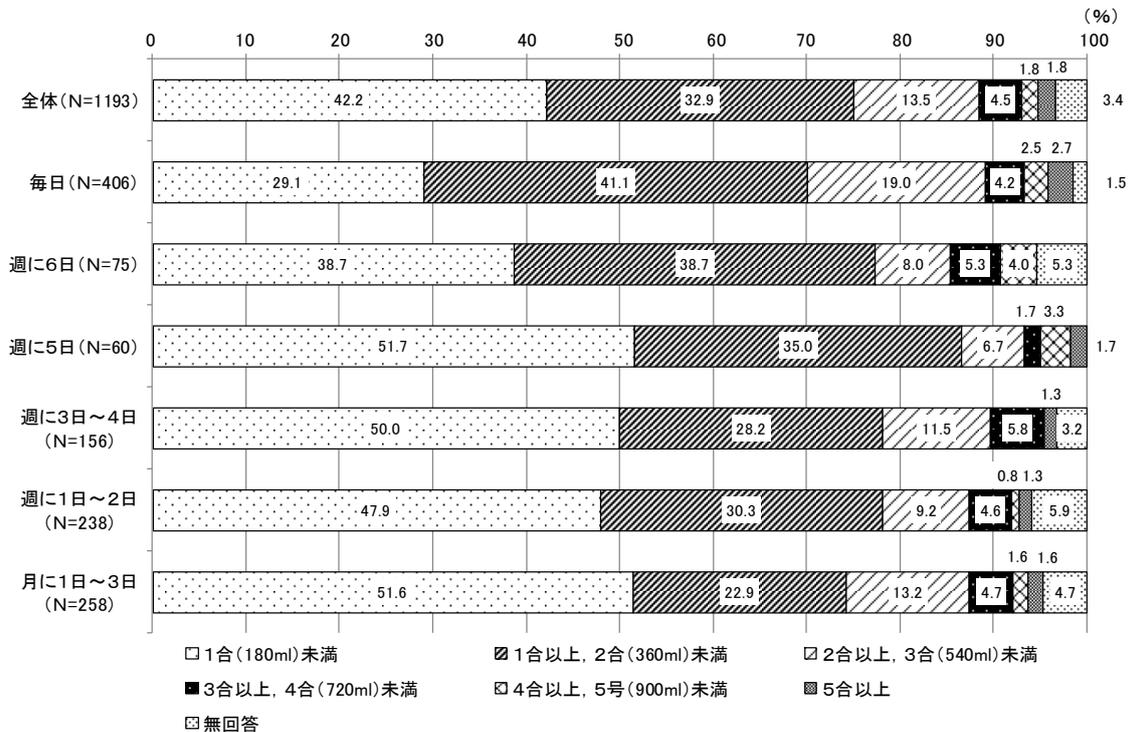
【性別でみる1日あたりの飲酒量】

男性では「1合以上、2合未満」が最も多く、ついで「1合未満」が多くなっている。女性では、「1合未満」が最も多く、「1合以上、2合未満」が続く。飲酒量が適量(1日当たり純アルコール20g(日本酒では約1合)未満)なのは、男性で34.3%、女性で51.3%となっている。また、生活習慣病のリスクを高める飲酒量(男性では1日当たり純アルコール40g(日本酒では約2合)以上飲酒する人、女性では1日当たり純アルコール20g(日本酒では約1合)以上飲酒する人)の割合は、男性で27.7%、女性では、44.4%となっている。



【飲酒頻度別にみる飲酒量】

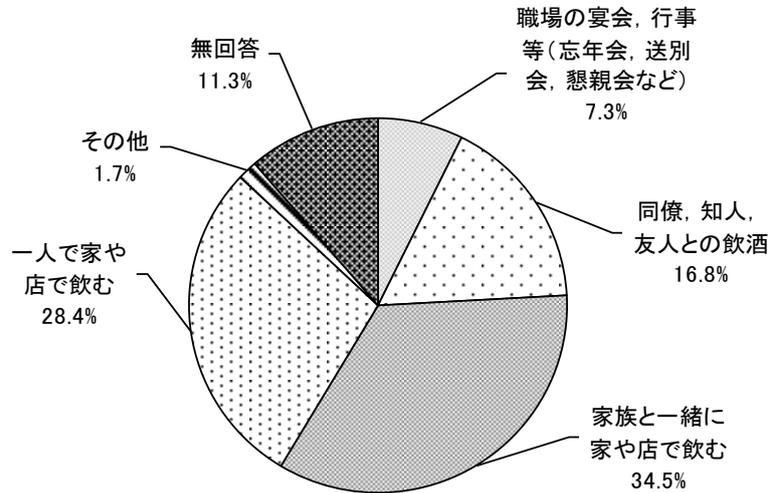
毎日飲酒をする人では、「1合以上、2合未満」「2合以上、3合未満」が他よりもやや多い傾向にある。



問 37-2 問37で「1 毎日」～「6 月に1日～3日」に○をつけた方にお聞きます。あなたがお酒を飲む機会中最も多いのはいつですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

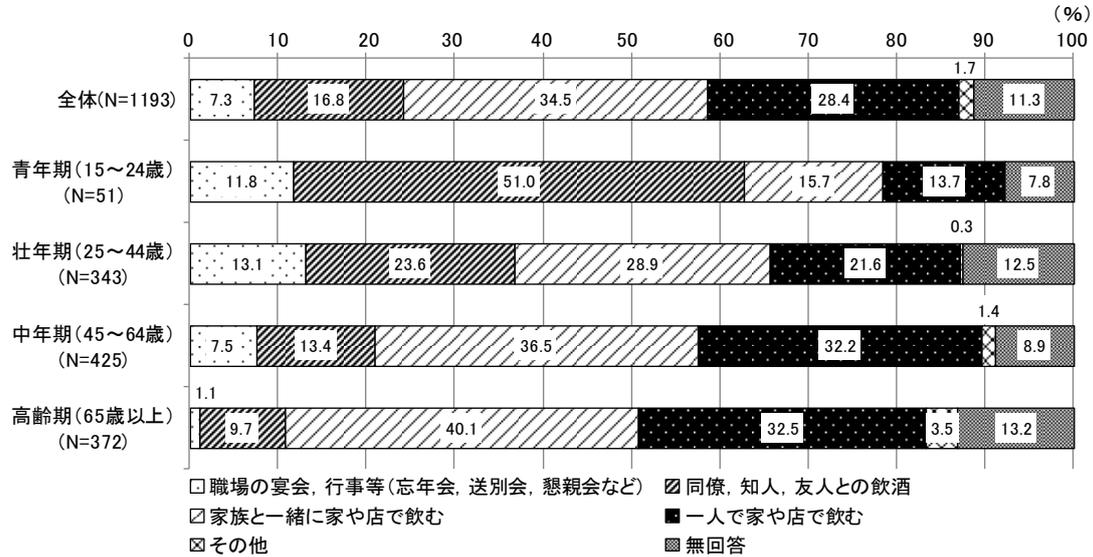
「家族と一緒に家や店で飲む」が 34.5%と最も多く、ついで「一人で家や店で飲む」が 28.4%、「同僚、知人、友人との飲酒」が 16.8%となっている。

N=1193



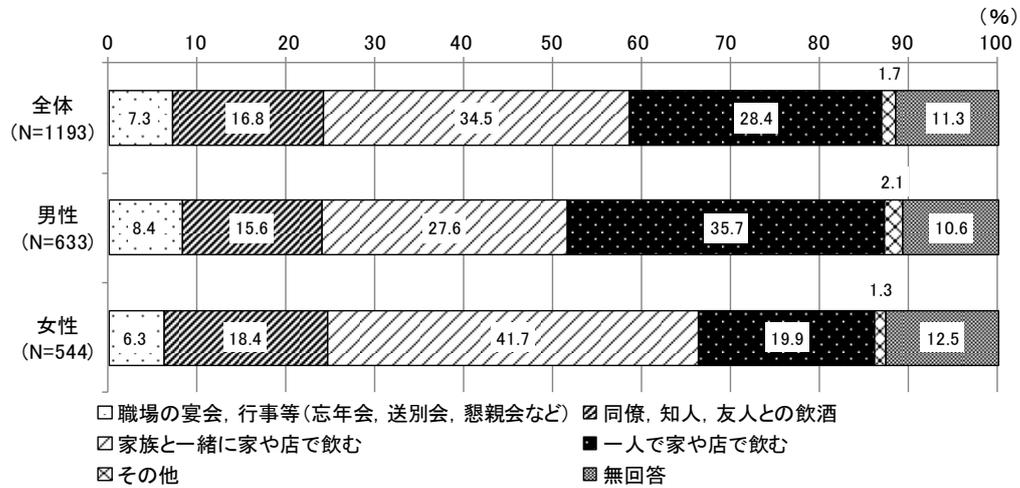
【年代別にみる飲酒時の状況】

青年期では「同僚、知人、友人との飲酒」が最も多く、51.0%となっている。壮年期から高齢期では「家族と一緒に家や店で飲む」が最も多くなっている。



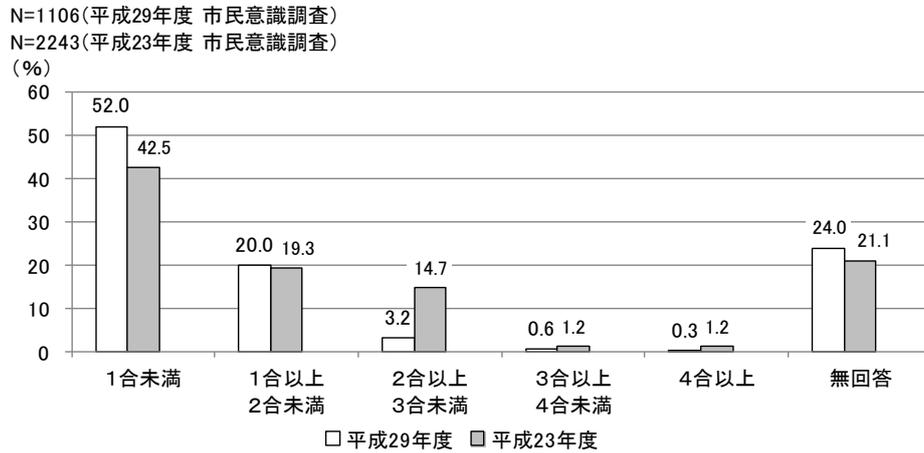
【性別でみる飲酒時の状況】

男性は「一人で家や店で飲む」が最も多く、35.7%となっている。一方で女性は「家族と一緒に家や店で飲む」が41.7%で最も多くなっている。



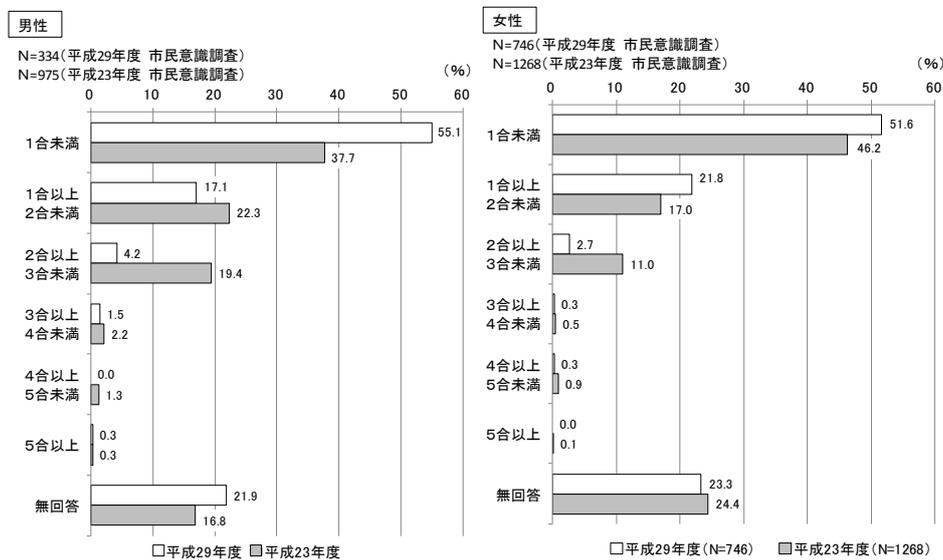
問 37-3 問37で「7 最近(1年以内に)やめた」～「9 ほとんど飲まない又は飲めない」に○をつけた方にお聞きします。あなたが適切と思う飲酒量は、問37-1にある基準(清酒1合に換算)で、1日あたり合計どのぐらいですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「1合未満」が52.0%と最も多く、ついで「1合以上2合未満」が20.0%、「2合以上3合未満」が3.2%となっている。2合未満が適切と思う割合が前回(H23)調査よりも10%多くなっている。



【性別でみる適切と思う飲酒量】

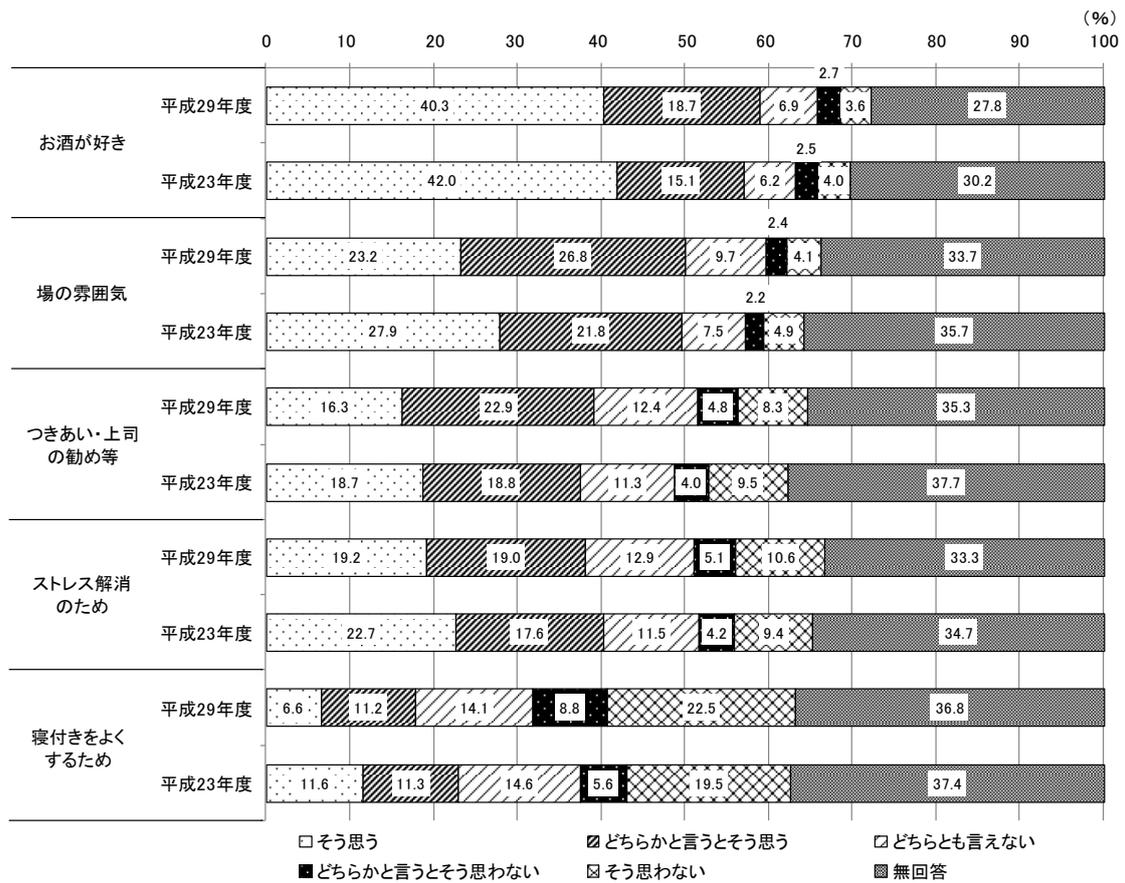
男性、女性ともに「1合未満」が最も多くなっている。適切な飲酒量(1日当たり純アルコール20g(日本酒では約1合)未満)を適切であると思っているのは男性では55.1%、女性では51.6%となっている。



※本設問では、前回(H23)調査においては、全員を対象としているのに対し、今回調査では問37で「7 最近(1年以内に)やめた」～「9 ほとんど飲まない又は飲めない」を選択した人を対象としている。

問 38 お酒を飲む理由としてあなたが思うことは何ですか。次の1～5についてそれぞれ当てはまる番号1つに○をつけてください。1～5以外に思うものがあれば、「6 その他」に具体的な内容等お書きください。

飲酒する理由(「そう思う」と「どちらかと言うとそう思う」の合計)として「お酒が好き」が59.0%と最も多く、ついで「場の雰囲気」が50.0%, 「つきあい・上司の勧め等」が39.2%となっている。



第4章 調査票

平成29年度 健康づくりに関する意識調査について

御協力をお願いします

日頃から京都市政に御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございます。
京都市では、市民主体の健康づくり活動を推進し、年齢を重ねても一人ひとりのいのちが輝き、地域の支え手として活躍できる、活力ある地域社会「健康長寿のまち・京都」を実現するための取組を進めています。

この調査は、市民の皆様のたばこ、飲酒、身体活動・運動等に関する意識を調べ、皆様の健康の増進や生活習慣病の予防に向けた取組等の状況を把握するものです。調査結果は、健康づくりに係る諸施策の一層の推進を図るための基礎資料とさせていただきます。

調査に御協力いただく方は、市内にお住まいの15歳以上の方（平成29年5月1日現在）の中から無作為で選ばせていただいた5,000人の方です。

お答えいただいた内容は、統計資料を得る目的にのみ使用し、皆様には不利益とならないように、秘密の保持には万全を期しておりますので、御協力をお願いいたします。

平成29年6月
京都市

＜記入上のお願＞

- (1) 調査票は、封筒の宛名の方、御本人が記入してください。
ただし、何らかの事情で御本人が記入できない場合には、その方の状況が分かる方が代わりに記入してください。
- (2) 各質問項目については、あてはまる回答項目の番号に○をつけるか、又はあてはまる数字等を記入してください。
- (3) 「その他」の回答項目を選択された場合は、「カッコ（）」内に具体的な内容等を御記入ください。
- (4) 質問項目に補足の質問がある場合は「矢印（→）」にそって回答を進めてください。

御記入いただいた調査票は、お手数ですが、同封の返信用封筒に入れ、無記名のまま、切手を貼らずに、平成29年6月23日（金）までに御返送くださいますようお願いいたします。



この調査に関するお問い合わせ及び送付先
京都市保健福祉局健康長寿のまち・京都推進室
健康長寿企画課 担当係部、半邊
電話：075-222-3411 F.A.X：075-222-3416

問1 あなたの性別はどちらですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

1 男 2 女

問2 あなたの平成29年5月1日現在の年齢はいくつですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

1 15歳	2 16歳	3 17歳	4 18歳
5 19歳	6 20～24歳	7 25～29歳	8 30～34歳
9 35～39歳	10 40～44歳	11 45～49歳	12 50～54歳
13 55～59歳	14 60～64歳	15 65～69歳	16 70～74歳
17 75～79歳	18 80歳以上		

問3 あなたのお住まいの行政区はどちらですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

1 北区	2 上京区	3 左京区	4 中京区
5 東山区	6 山科区	7 下京区	8 南区
9 右京区（京北除く）	10 右京区京北	11 西京区	12 伏見区

問4 あなたの身長及び体重をお答え下さい（小数点第1位まで記入してください）。

身長 cm 体重 kg

問5 あなたの現在の職業は次のうちどれですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

1 自営業・自由業	2 会社員・公務員	3 農林漁業従事者
4 主婦・主夫	5 学生	6 ハート・アルバイト
7 無職	8 その他（ ）	

問6 あなたの世帯の過去1年間の所得はどれくらいですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

1 200万円未満	2 200万円以上～400万円未満
3 400万円以上～600万円未満	4 600万円以上～800万円未満
5 800万円以上	6 わからない

問7 1日のうちあなたの自由になる時間はどのくらいですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

1 2時間未満	2 2時間以上4時間未満	3 4時間以上6時間未満
4 6時間以上8時間未満	5 8時間以上10時間未満	6 10時間以上

問 8 あなたは健康に関する知識や情報をどこから得ていますか、当てはまる番号すべてに○をつけてください。「10 その他」の場合は、具体的な内容等をお書きください。

- 1 受けていない
- 2 通学先や職場で受けている
- 3 かかりつけの医院や病院の勧めで受けている
- 4 医院や病院に自分で申し込んでいる
- 5 健（検）診機関に自分で申し込んでいる
- 6 市役所から案内のある特定健診（メタボ健診）等を受けている
- 7 各区の保健福祉センターに自分で申し込んでいる

問 12-1 問 12で「2. 通学先や職場で受けている」～「7. 各区の保健福祉センターに自分で申し込んでいる」に○をつけた方にお聞きします。各健診で受けている検査はどのようなものですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。「12 その他」の場合は、具体的な内容等をお書きください。

- 1 身体測定
- 2 血液検査
- 3 尿検査
- 4 便検査
- 5 心電図
- 6 胃カメラ
- 7 バリウム（胃透視）
- 8 胸部レントゲン
- 9 骨密度検査
- 10 脳ドック
- 11 問診
- 12 その他（ ）

問 13 あなたががん検診で、定期的に受けている検診すべてに○をつけてください。

- 1 胃がん
- 2 大腸がん
- 3 肺がん
- 4 乳がん
- 5 子宮がん
- 6 前立腺がん
- 7 検診を受けていない

問 14 あなたはこの一年間歯科検診や歯科治療を受けましたか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 健診を受けた
 - 2 治療を受けた
 - 3 両方とも受けた
 - 4 受けていない
- 問 15 「健康基準のまち・京都市」という言葉を知っていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。
- 1 知っている
 - 2 知らばい

問 8 あなたは健康に関する知識や情報をどこから得ていますか、当てはまる番号すべてに○をつけてください。「10 その他」の場合は、具体的な内容等をお書きください。

- 1 家族
- 2 友人・知人・同僚など
- 3 会社・学校など
- 4 保健福祉センター
- 5 医療機関
- 6 新聞・雑誌・本
- 7 テレビ・ラジオ
- 8 インターネット（携帯電話含む）
- 9 ソーシャルネットワークサービス（※）
- 10 その他（ ）

※インターネットを通じて人と人とのつながりを促進し、コミュニティの形成を支援する会員制サービス。代表的なサービス、「マインター」[フェイスブック] など。

問 9 平均寿命の延びに合わせ、病気を占める生活習慣病の割合が増加しています。あなたは何かの生活習慣病を抱えておられますか、当てはまる番号すべてに○をつけてください。「6 その他」の場合は、具体的な内容等をお書きください。

- 1 脳血管疾患（脳卒中）
- 2 悪性新生物（がん）
- 3 心疾患
- 4 糖尿病
- 5 COPD（慢性閉塞性肺疾患）（※）
- 6 その他（ ）

※COPDはたばこなどを含む有害な物質を長年吸い込むことで、気管支に慢性的な炎症が生じたり、肺機能（はいほう）と呼ばれる組織が少しずつ破壊されていく病気です。その結果、肺の機能が元つながらなくなり、最終的に呼吸困難になる病気です。

問 10 全体的に見て、過去1か月のあなたの健康状態はいかがでしたか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 とても良い
- 2 良い
- 3 あまり良くない
- 4 よくない

問 11 あなたは健康について関心がありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 ある
- 2 ない
- 3 どちらともいえない

問 11-1 問 11で、「1 ある」に○をつけた方にお聞きします。健康のために普段の生活で心がけていることはありますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。「11 その他」の場合は、具体的な内容等をお書きください。

- 1 食べ過ぎない又はカロリー制限する
- 2 ハラシよく食べる
- 3 飲酒を控える
- 4 たばこを吸わない
- 5 なるべく体を動かす
- 6 十分な睡眠をとる
- 7 気分転換をする（ストレスを解消する）
- 8 丁寧に歯を磨く
- 9 歯間ブラシや糸ようじを使用する
- 10 定期的に健（検）診を受ける
- 11 その他（ ）

問 11-2 問 11で、「2 ない」又は「3 どちらともいえない」に○をつけた方にお聞きします。健康に関心が無い理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。「3 その他」の場合は、具体的な内容等をお書きください。

- 1 自分の年齢では健康に気をつけなくて良いと思っている
- 2 大きな病気になったことがない
- 3 その他（ ）

問19 あなたの普段の生活で歩く時間、自転車に乗る時間（健康づくりや趣味で行うウォーキングやサイクリングを除く）は、この1年間で1日あたりどのくらいですか。それぞれ、もともとも当てはまる番号1つに○をつけてください。

	5分	10分	20分	30分	40分	50分	60分
記入例 ※1	未満		②	3	4	5	6
1 歩く時間	1	2	3	4	5	6	7
2 自転車に乗る時間	1	2	3	4	5	6	7

問20 あなたは家事・買物・仕立等で次の1～7にかかる時間はこの1年間で1日あたりどのくらいですか。それぞれ、もともとも当てはまる番号1つに○をつけてください。

	5分	10分	20分	30分	40分	50分	60分
記入例 ※1	未満	1	2	3	④	5	6
1 料理・洗濯	1	2	3	4	5	6	7
2 掃除	1	2	3	4	5	6	7
3 買い物	1	2	3	4	5	6	7
4 庭の草むしり・ガーベリング	1	2	3	4	5	6	7
5 ことごと遊ぶ	1	2	3	4	5	6	7
6 介護（身支度、風呂、ヘッドの乗り降り等）	1	2	3	4	5	6	7
7 その他（ ）							

問21 次の1～8の中で、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

- 1 医師から心臓に問題があると言われたことがある（心電図検査で「異常がある」と言われたことがある場合を含む）
- 2 運動をすると息切れしたり、胸部に痛みを感じたりする
- 3 体を動かしてない時に胸部の痛みを感じたり、脈の不整を感じたりする
- 4 「たちくらみ」や「めまい」がしたり、意識を失ったことがある
- 5 家族に原因不明で突然亡くなった人がいる
- 6 医師から足腰に障害があると言われたことがある（肩こりや腰痛や変形性関節症などと診断されたことがある場合を含む）
- 7 運動をすると足腰の痛みが酷化する
- 8 上記1～7については該当しない

問22 にお進みください

問21で、「1」～「7」に○をつけた方にお聞きします。医師から、身体活動を制限なく行ってよといわれましたか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 はい
- 2 いいえ
- 3 だすねていない

問16 あなたは「健康増進のまち・京都市いきいきポイント」事業を知っていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

※ 「健康増進のまち・京都市いきいきポイント」事業とは毎日の健康づくりの取組を「健康ポイント」として、各区役所・支所、保健福祉センター等で配布している専用のポイント手帳に登録していただき、健康づくりを進めながら歩いていくことが出来る京都市の取組（平成28年8月から実施）。健康ポイントを貯めて応募することで、抽選でプレゼントも当たります。

- 1 知っている
- 2 知らなかつた

問16-1 「1」知っている」に○をつけた方にお聞きします。「いきいきポイント」事業に取り組んでいませんか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 事業に参加し、取組を続けている、又はプレゼントに応募した
- 2 事業に参加し、続けることができなかつたが、また取組を再開したいと思っている
- 3 事業に参加したが、続けることができず、再開しようとも思わない
- 4 興味はあるが、取組んでいない
- 5 興味がな

問16-2 「1」知らなかつた」に○をつけた方にお聞きします。今回のアンケートで知った「いきいきポイント」事業に、今後取り組みたいと思いませんか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 取り組んでみたい
- 2 取り組むつもりはない

問17 あなたは、日常的に、外出していますか。もともとも当てはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 外出している 一週に何回外出していますか。 () 回
- 2 あまり外出していない
- 3 外出していない
- 4 わからな

問18 あなたはこの1年間に、個人または友人と、あるいはグループや団体等で自主的に行われている次のような活動を行い参加しましたか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

- 1 趣味（俳句、詩吟、陶芸等）
- 2 健康・スポーツ（体操、歩こう会、ゲートボール等）
- 3 生産・就業（生きがいのための園芸・飼育、シルバー人材センター等）
- 4 教育関連・文化啓発活動（学習会、子供会の育成、郷土芸能の伝承等）
- 5 生活環境改善（環境美化、緑化推進、まちづくり等）
- 6 安全管理（交通安全、防犯・防災等）
- 7 高齢者の支援（家事援助、移送等）
- 8 子育て支援（保育への手伝い等）
- 9 地域行事（祭りなどの地域の催しもの世話等）
- 10 その他（具体的に

問24 運動をする目的は何だと思えますか、次の1～5についてそれぞれもとも当てはまる番号1つに○をつけてください。1～5以外に思うものがあれば、「その他」に具体的な内容等をお書きください。

	そう思う	どちらかといえば思う	どちらかともいえない	どちらかともいえない	どちらかともいえない	そう思う
記入例 ※1	1	2	3	4	5	
1 体力・健康づくり	1	2	3	4	5	
2 趣味・気晴らし	1	2	3	4	5	
3 友人・仲間との交流	1	2	3	4	5	
4 家族とのふれあい	1	2	3	4	5	
5 美容	1	2	3	4	5	
6 その他()						

問25 運動を継続するために必要なものはないと思えますか。次の1～10についてそれぞれもとも当てはまる番号1つに○をつけてください。1～10以外に思うものがあれば「11 その他」に具体的な内容等をお書きください。

	そう思う	どちらかといえば思う	どちらかともいえない	どちらかともいえない	そう思う
記入例 ※1	1	2	3	4	5
1 時間	1	2	3	4	5
2 場所・施設	1	2	3	4	5
3 やる気	1	2	3	4	5
4 指導者	1	2	3	4	5
5 一緒にする仲間	1	2	3	4	5
6 取り組むきっかけ	1	2	3	4	5
7 金銭的余裕	1	2	3	4	5
8 健康	1	2	3	4	5
9 運動場所等に関する情報	1	2	3	4	5
10 運動した成果がわかること	1	2	3	4	5
11 その他()					

問26 ロコモティブシンドロームについて、知っていますか。もとも当てはまる番号1つに○をつけてください。

1 言葉も意味もよく知っている	
2 言葉も知っており、意味も大體知っている	
3 言葉は知っているが、意味はあまり知らない	
4 言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない	
5 言葉も意味も知らない	

問22 次の1～7の中で、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

- 1 片開立ちで靴下がはけない
- 2 家の中でつまずいたり滑ったりする
- 3 階段を上るに手すりが必要である
- 4 横断歩道を青信号で渡りきれない
- 5 15分くらい続けて歩けない
- 6 2kg程度の重い物(1リットルの牛乳パック2個程度)を上げて持ち帰るのが困難である
- 7 家の中のやや重い仕事(掃除機の使用、布団の上げ下ろしなど)が困難である

問23 この1年間のあなたの運動に対する取組状況について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 定期的に(週2回以上)、行っている
- 2 定期的ではないが、行っている
- 3 行っていないが、今後行うつもりである
- 4 行っていないが、今後も行わない
- 5 問24の理由により行わない

問23-1 問23で、「1」又は「2」に○をつけた方にお聞します。現在行っている種目すべてに○をつけてください。また、それぞれを行う1回あたりの時間(分)と1週間あたりの回数も御記入ください。

1 ウォーキング	1回	分	週	回
2 ストレッチ	1回	分	週	回
3 筋カトレーニング	1回	分	週	回
4 軽い体操(ラジオ体操等)	1回	分	週	回
5 ジョギング	1回	分	週	回
6 水中運動、アクアビクス	1回	分	週	回
7 エアロビクス	1回	分	週	回
8 ハルエ、ダンス	1回	分	週	回
9 サッカー	1回	分	週	回
10 テニス	1回	分	週	回
11 登山	1回	分	週	回
12 サイクリング	1回	分	週	回
13 水泳	1回	分	週	回
14 ボウリング	1回	分	週	回
15 ハレーボール	1回	分	週	回
16 ゴルフ	1回	分	週	回
17 卓球	1回	分	週	回
18 ハドミントン	1回	分	週	回
19 ソフトボール、野球	1回	分	週	回
20 バスケットボール	1回	分	週	回
21 その他(身体的にきついと感じかたり呼	1回	分	週	回
22 その他(身体的にやや負担がかかり少	1回	分	週	回
23 息がはずむもの)				

問30 あなたがたばこを吸うときに気を付けていること、または、たばこを吸う人に気を付けて欲しいことはありませんか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

- 1 公共的な場所では吸わない
- 2 喫煙場所以外では吸わない
- 3 混雑している場所では吸わない
- 4 子どもや妊産婦、病気の人がそばにいる場所では吸わない
- 5 周りに食事の人がいる場所では吸わない
- 6 自宅の室内では吸わない
- 7 喫煙できる場所であっても、周囲の人の了解を得てから吸う
- 8 吸った直後は、室内等公共のスペースに入らない
- 9 気を付けていること（気を付けてほしくないこと）はない

問31 あなたは、多数の人が利用する公共的な空間の受動喫煙防止対策が定められていることについて、どのように思いますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 賛成 2 どちらかといえば賛成 3 どちらかといえば反対 4 反対

問32 あなたは、施設（飲食店等）を利用するときには気を付けていることはありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 建物内全面禁煙の施設であることを確認してから、利用するようにしている
- 2 禁煙席（室）が設けられている施設であることを確認してから、利用するようにしている
- 3 確認はしないが、禁煙席（室）が設けられている場合は禁煙席を利用するようにしている
- 4 喫煙席（室）がある施設であることを確認してから、利用するようにしている
- 5 気を付けていることはない

問33 あなたは、飲食店等の入口に禁煙や分煙の表示があれば、利用する際、入るかどうかの参考にしますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 参考にしない 2 参考にしない 3 わからない

問34 多数の人が利用する施設で、あなたが受動喫煙防止対策が十分でないと思う施設はどこですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

- 1 保育所（認定保育園含む）・幼稚園
- 2 小・中・高等学校
- 3 総合支援学校
- 4 大学・専門学校
- 5 医療機関
- 6 老人ホームなど社会福祉施設
- 7 官公庁施設
- 8 博物館・美術館
- 9 体育館などスポーツ施設
- 10 公共交通機関
- 11 スーパー・小売店
- 12 コンビニ
- 13 百貨店
- 14 ホテル、旅館などの宿泊施設
- 15 金融機関
- 16 劇場・映画館
- 17 飲食店
- 18 ゲームセンター・パチンコ店等娯楽施設
- 19 公園

問27 あなたは、たばこを吸いますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 吸っている
- 2 過去に吸っていたが、今はやめている
- 3 吸ったことがない

問27-1 問27で「1. 吸っている」に○をつけた方にお聞きします。あなたは、1日あたり何本たばこを吸いますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 1本～5本
- 2 6本～10本
- 3 11本～20本
- 4 21本～30本
- 5 31本～40本
- 6 41本以上

問27-2 今後、たばこをやめたいと思いませんか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 やめたい
- 2 本数を減らしたい
- 3 やめたくない
- 4 わからない

問27-3 問27で「2. 過去に吸っていたが、今はやめている」に○をつけた方にお聞きします。あなたは、たばこをやめてからどのくらいの期間が経ちますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 1か月未満
- 2 1か月以上6か月未満
- 3 6か月以上1年未満
- 4 1年以上5年未満
- 5 5年以上10年未満
- 6 10年以上

問28 あなたは、「受動喫煙」※が健康に悪影響を及ぼすと思いませんか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 強くそう思う
- 2 ある程度そう思う
- 3 あまり思わない
- 4 まったくそう思わない

※ 受動喫煙とは、たばこを吸っている人の周りにいる人が、自分の意思とは無関係にたばこの煙を吸ってしまうことです。

問29 最近では、従来の紙巻たばこ等とは別に、新型たばこ（電子式、加熱式等）が販売されていますが、新型たばこについてどのように思いませんか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 紙巻たばこ等と同様に、受動喫煙の害があると思う
- 2 紙巻たばこ等よりは受動喫煙の害は少ないと思う
- 3 受動喫煙の害はないと思う
- 4 わからない

問37 週に何日くらいお酒（アルコール）を飲みますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 毎日
- 2 週に6日
- 3 週に5日
- 4 週に3日～4日
- 5 週に1日～2日
- 6 月に1日～3日
- 7 最近（1年以内）やめた
- 8 1年以上前にやめた
- 9 ほどんど飲まない又は飲めない

問37-3にお進みください

問37-1 問37で「1. 毎日」～「6. 月に1日～3日」に○をつけた方にお聞きします。あなたがお酒を飲む量は、1日あたりどのくらいの量ですか。清酒に換算し、当てはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 1合（180ml）未満
- 2 1合以上、2合（360ml）未満
- 3 2合以上、3合（540ml）未満
- 4 3合以上、4合（720ml）未満
- 5 4合以上、5号（900ml）未満
- 6 5合以上

清酒1合（180ml）は、次の量にほぼ相当します。

- ビール・発泡酒中瓶1本（約500ml）
- 焼酎20度（185ml）、焼酎25度（110ml）、焼酎35度（80ml）
- チェウハイ7度（350ml）
- ウイスキーダブル1杯（60ml）
- ワイン2杯（240ml）

問37-2 問37で「1. 毎日」～「6. 月に1日～3日」に○をつけた方にお聞きします。あなたがお酒を飲む機会で最も多いのはいつですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 職場の宴会、行事等（忘年会、送別会、懇親会など）
- 2 同僚、知人、友人との飲み
- 3 家族と一緒に家や店で飲む
- 4 一人で家や店で飲む
- 5 その他（ ）

問37-3 問37で「7. 最近（1年以内）やめた」～「9. ほどんど飲まない又は飲めない」に○をつけた方にお聞きします。あなたが週何回飲むお酒量は、問38にある基準（清酒1合に換算）で、1日あたり合計どのくらいですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1 1合未満 | 2 1合以上2合未満 | 3 2合以上3合未満 |
| 4 3合以上4合未満 | 5 4合以上5合未満 | 6 5合以上 |

問35 あなたは、多量の人が利用する施設で、どのような受動喫煙防止対策を講じますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- 1 敷地内を全て禁煙にする
- 2 建物内は全て禁煙とし、屋外に喫煙場所を設置する
- 3 室内に隔離された喫煙場所（室）を設置し、その場所以外は禁煙にする
- 4 室内に喫煙できるスペースを仕切ったり、空気清浄器を設置する
- 5 特に何もしない

問36 受動喫煙防止のために、行政に望むことを次の中から3つまで選び○をつけてください。

- 1 受動喫煙の健康への悪影響についての情報提供する
- 2 効果的な受動喫煙防止対策について情報提供する
- 3 たばこを吸う人に喫煙マナーをPRする
- 4 施設の禁煙や分煙がわかるように表示することを要する
- 5 公共施設の建物内禁煙を進める
- 6 受動喫煙防止のための規制を進める
- 7 その他（ ）

問38 お酒を飲む理由としてあなたが思うことは何ですか。
 次の1～5についてそれぞれ当てはまる番号「○」をつけてください。1～5以外に思
 うものがあれば、「6 その他」に具体的な内容等お書きください。

記入例 ※1	もう 思っ	ど か し も 思 っ	ど ち ら も 思 っ て い ない	ど ち ら か も 思 っ て い ない	ど ち ら か も 思 っ て い ない
1 お酒が好き	1	2	3	4	5
2 場の雰囲気	1	2	3	4	5
3 つきあい・上司の勧め等	1	2	3	4	5
4 ストレス解消のため	1	2	3	4	5
5 確付きをよくするため	1	2	3	4	5
6 その他 ()					

質問は以上です。御協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒にて、6月23日（金）までに
 投かんをお願いします。（切手不要）

第Ⅱ部

公共施設等における 受動喫煙防止対策実態調査

第1章 調査の概要

1 調査目的

京都市では、平成25年3月に策定した「京都市たばこ対策行動指針(第2次)」に基づき、たばこの煙完全ガード社会の構築を目指して、たばこ対策を推進している。

指針の計画期間が平成25年度から平成29年度までであることから、指針の見直しに当たり、現状把握を目的として、実態調査を実施した。

2 調査概要

(1)調査の名称

公共施設等における受動喫煙防止対策実態調査

(2)調査対象及び回収数

ア 対象施設の選定方法

禁煙の必要性の高い施設(病院, 介護老人保健・福祉施設, 保育・教育機関, 官公庁)は市内全施設を調査対象とした。

上記以外の施設については、平成22年度に調査対象とした施設は今回も対象とし、全体の調査数における施設種別間のバランスがとれるように調査対象数を決定した。不足分については無作為抽出によって選出した。

イ 回収数

	平成22年度			平成29年度			
	調査客体数	回収数	回収率	調査客体数	回収数	回収率	
全体	3220	2107	65.4	3958	2574	65.0	
公共施設							
病院	109	94	86.2	103	79	76.7	注1
保健センター・支所	14	14	100.0	-	-	-	
介護老人保健・福祉施設	98	97	99.0	232	207	89.2	注2
保育・教育機関	802	663	82.7	929	739	79.5	注3
官公庁	229	147	64.2	296	293	99.0	注4
文化施設	228	125	54.8	282	203	72.0	注5
運動施設	123	62	50.4	150	92	61.3	注6
飲食店	713	297	41.7	854	358	41.9	注7
小売・サービス業・その他事業所	706	348	49.3	842	458	54.4	注8
宿泊施設	153	102	66.7	191	93	48.7	注9
公共交通機関							注10
鉄道事業者	8	7	87.5	8	8	100.0	
バス事業者	5	3	60.0	26	17	65.4	
タクシー事業者	32	21	65.6	45	27	60.0	

注1)市内の病院(診療所除く)

注2)市内の介護老人保健施設及び介護老人福祉施設に加え,新たに高齢サポート,地域介護予防推進センター,社会福祉協議会,老人福祉センターを追加した。

注3)市内の保育所(園),幼稚園,小・中・高等学校,短期大学・大学,総合支援学校,専修学校に加え,新たに認定こども園,事業所内保育,小規模保育,家庭的保育,認可外保育を追加した。

注4)市の施設は全施設を対象とした。国及び府の施設は平成22年度調査の調査客体を基準にその後の動向を考慮して選定した。保健センター・支所については,官公庁に加えた。

注5)京都市内博物館施設連絡協議会に加盟するすべての施設を対象とした。図書館は市立及び府立の図書館を対象とした。その他,劇場・映画館,展示場・イベントホールを対象としている。

注6)体育館・スポーツ施設,野外活動施設,自然公園,運動公園を対象としている。

注7)ファーストフード店,ファミリーレストラン,レストラン,食堂,居酒屋を対象としている。

注8)不特定多数の利用があり,かつ比較的長時間の滞在が見込まれる施設(百貨店,ショッピングセンター,貸し展示場や会館,金融機関,事業所,ゲームセンター・パチンコ店及び理美容院)に加え,新たに公衆浴場を対象とした。

注9)旅館と公共宿舎・保養所を対象とした。ただし,休憩を主な目的とするホテルは除いている。

注10)市内に乗り入れている鉄道事業者,バス事業者,タクシー事業者を対象とし,個人タクシーは,組合及び協会を対象とした。

(3)調査時期

平成29年6月28日～平成29年7月19日

(4)調査方法

市内の事業所等への郵送による調査

3 報告書における表及び図表の見方

- ①図表内の「N」は、設問に対する回答の合計数である。
- ②集計は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位までを表示しているため、比率の合計が100.0%とならない場合がある。
- ③複数回答を求めた設問では、設問に対する回答者数を基数として算出しているため、回答比率の合計が100.0%を超えることがある。
- ④クロス集計表は、分析軸となる質問(施設種別等)の選択肢ごとに、最も多い回答を濃い灰色、2番目に多い回答を薄い灰色で着色している。
- ⑤本文や図表内の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している。
なお、「敷地内禁煙」と「建物内禁煙」を合わせて「建物内禁煙以上」と表記している。

第2章 調査結果の概要

【公共施設】

1 受動喫煙防止対策の状況

- 受動喫煙防止対策の状況を見ると、「敷地内禁煙」が最も多く、42.0%となっている。「敷地内禁煙」と「建物内禁煙」を合わせた割合は、71.4%となっている。平成 22 年度の前回調査では61.9%であったため、約 10%増加している。また、前々回の平成 15 年度の調査では、29.0%であった。
- 「保育・教育機関」や「病院」では「敷地内禁煙」が最も多く、それぞれ 88.8%、64.6%となっている。
- 「敷地内禁煙」と「建物内禁煙」を合わせた割合が最も少なかったのが、「飲食店」で 29.1%だった。ただし、平成 22 年度調査では、「飲食店」の同割合は 15.5%であったため、前回よりも 10%以上増加している。
- 「官公庁」についてみると、平成 22 年度調査では、「敷地内禁煙」と「建物内禁煙」を合わせた割合は 51.0%にとどまっていたのに対し、今回の調査では 76.1%であり、その割合は大幅に増加している。
- 受動喫煙の健康への影響の認識によって、受動喫煙防止対策の状況に違いがみられた。健康への悪影響を認識している施設ほど、「敷地内禁煙」と「建物内禁煙」を合わせた割合が高かった。

2 現在の受動喫煙防止対策に対する認識

- 現在の受動喫煙防止対策に対する認識を見ると、「十分」が最も多く、64.8%となっている。また、「十分」「どちらかといえばやりすぎ」「必要以上にやりすぎ」の割合を合計した“十分以上”をみると、66.0%となっている。
- 「保育・教育機関」では、“十分以上”の割合が他の施設よりも多く、84.1%となっている。
- 「全くやっていない」「まだまだ不十分」の合計の割合が多い施設をみると、「飲食店」が 61.7%となっている。
- 「自由に喫煙できる」施設では、「全くやっていない」「まだまだ不十分」の合計が 86.1%となっており、何らかの対策が必要と認識していることが伺える。

3 今後の受動喫煙防止対策

- 現在の受動喫煙防止対策について「全くやっていない」「まだまだ不十分である」と答えた施設の今後の受動喫煙防止対策の意向をみると、「敷地内禁煙」と「建物内禁煙」を合わせた割合が 25.5%となっており、4分の1の施設で今後「建物内禁煙」以上を予定している。
- 今後の受動喫煙防止対策の意向を施設種別にみると、現在の受動喫煙防止対策について「全くやっていない」「まだまだ不十分」としている割合が多かった「飲食店」では、約7割が「当面、現状のまま」であるとしており、今後「敷地内禁煙」と「建物内禁煙」を実施するとした施設の割合は 12.6%にとどまっている。平成 22 年度調査でも、「当面、現状のまま」であ

るとしている割合が 68.9%であったため、概ね横ばいとなっている。

- 現在の対策が「喫煙スペース」「自由に喫煙できる」である施設の半数以上が、今後の対策を「当面、現状のまま」としており、受動喫煙防止対策の推進に課題が残る。

4 受動喫煙防止対策が進まない理由

- 受動喫煙防止対策が進まない理由として、最も多くあげられていたのが「狭くて喫煙場所を作れない」で 35.4%にのぼる。「喫煙場所の設置や排気装置の設置等に費用がかかりすぎる」も 31.2%と多くなっている。「狭くて喫煙場所を作れない」という理由は、平成 15 年度、平成 22 年度調査でも、最も多くあげられていたが、その割合は平成 15 年度の 21.7%から、28.9%、35.4%と増加傾向にある。
- 施設種別に受動喫煙防止対策が進まない理由をみると、「敷地内禁煙」と「建物内禁煙」を合わせた割合が低かった「飲食店」「小売・サービス業」「宿泊施設」では、「狭くて喫煙場所を作れない」が多くなっており、いずれの施設でも4割を超えている。特に「飲食店」では、56.1%と半数以上となっている。「飲食店」では「来客者が減るおそれがある」も多くなっており、約6割となっている。

5 受動喫煙による健康への影響に対する認識

- 受動喫煙による健康への影響について、「健康への悪影響はあると思う」とした割合が 68.0%と多くなっている。「健康への悪影響の可能性はあると思う」が 25.9%となっているため、90%以上の施設で、受動喫煙が健康へ何らかの悪影響を及ぼすと認識している。
- 施設種別に受動喫煙による健康への影響についてみると、全ての施設種で受動喫煙が健康へ何らかの悪影響を及ぼすとの認識があり、その割合はいずれの施設でも9割前後となっている。

6 受動喫煙防止対策の強化に関する制度案の認知状況

- 受動喫煙防止対策の強化に関する制度案について「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が最も多く、68.0%となっている。「知らなかった」割合が 21.1%、「詳しく知っている」としている割合は 9.5%だった。
- 施設種別にみると、「病院」では、「詳しく知っている」の割合が他の施設種よりも高く、21.5%となっている。また、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」の割合も同様に比較的高くなっている。

7 喫煙環境の掲示状況

- 喫煙環境を掲示している施設は 27.9%となっている。一方で「掲示していない」としている割合が 70.3%となっている。
- 施設種でみると、「病院」「文化施設」「運動施設」では、「掲示している」が5割を超えており、多くなっているが、その他の施設種では「掲示していない」が半数を超えている。
- 「自由に喫煙できる」と回答した施設では、掲示している割合が 6.6%と最も低く、予期せぬ受動喫煙防止に課題があることが伺える。

【公共交通機関】

1 受動喫煙防止対策の状況

- 鉄道事業者では駅構内を「全面禁煙」としている事業者が2事業者いる。前回調査においては駅構内を「全面禁煙」にしている事業者はいなかった。
- 鉄道事業と同様にバス事業者でも停留所を「全面禁煙」にしている事業者が前回調査の0事業者から9事業者へと増加している。

2 現在の受動喫煙防止対策に対する意識

- いずれの事業者でも「十分」が最も多くなっている。「十分」「どちらかといえばやりすぎ」「必要以上にやりすぎ」を合計した“十分以上”の割合はいずれの事業者でもおよそ5割と多くなっている。

3 今後の受動喫煙防止対策

- 現在の受動喫煙防止対策について「全くやっていない」「まだまだ不十分」と回答した鉄道の駅構内の今後の受動喫煙防止対策として、「喫煙コーナーの設置」をする事業者数が1事業者、「当面、現状のまま」としてのが2事業者となっている。平成22年の調査では、2事業者いずれもが駅構内では「当面、現状のまま」としていた。

4 受動喫煙防止対策が進まない理由

- 受動喫煙防止対策が進まない理由として、「喫煙場所の設置や排気装置の設置等に費用がかかりすぎる」が、鉄道事業者とタクシー事業者で最も多くなっている。また、全体でも40%と比較的多くなっている。
- 前回調査では、「喫煙場所の設置や排気装置の設置等に費用がかかりすぎる」が、いずれの事業者でも最も多くなっていた。

5 受動喫煙による健康への影響に対する意識

- いずれの事業者でも「健康への悪影響はあると思う」との回答が最も多くなっている。「健康への悪影響の可能性はあると思う」と合わせると、いずれの事業者でも概ね100%となり、受動喫煙が健康へ何らかの悪影響を及ぼすとの認識が広く浸透していることがうかがえる。

6 受動喫煙防止対策の強化に関する制度案の認知状況

- 受動喫煙防止対策の強化に関する制度案の認知状況をみると、いずれの事業者でも「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が最も多くなっている。

7 乗務員への受動喫煙に関する教育の実施状況

- 全体で見ると、乗務員への受動喫煙に関する教育を約半数程度が「実施していない」としており、最も多くなっている。一方で、3割程度の事業者では、「実施している」または「近々実施予定」としている。

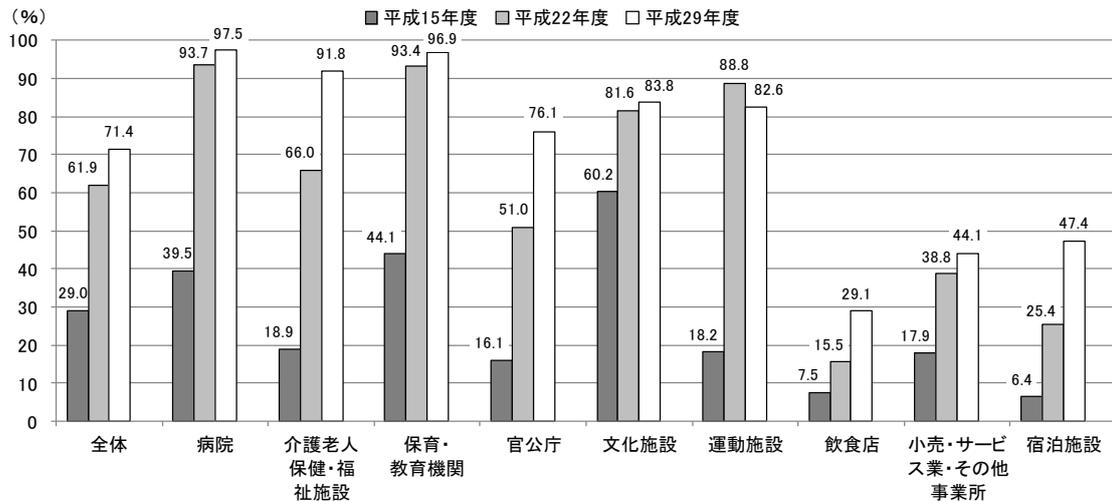
第3章 公共施設の調査結果

1 受動喫煙防止対策の状況

「敷地内禁煙」と「建物内禁煙」を合わせた割合は、全体で71.4%となっている。平成22年調査では61.9%であり、1割程度増加している。

「自由に喫煙できる」が11.4%となっており、平成22年調査の13.6%と比較すると少なくなっている。

【「敷地内禁煙」と「建物内禁煙」を合わせた割合】

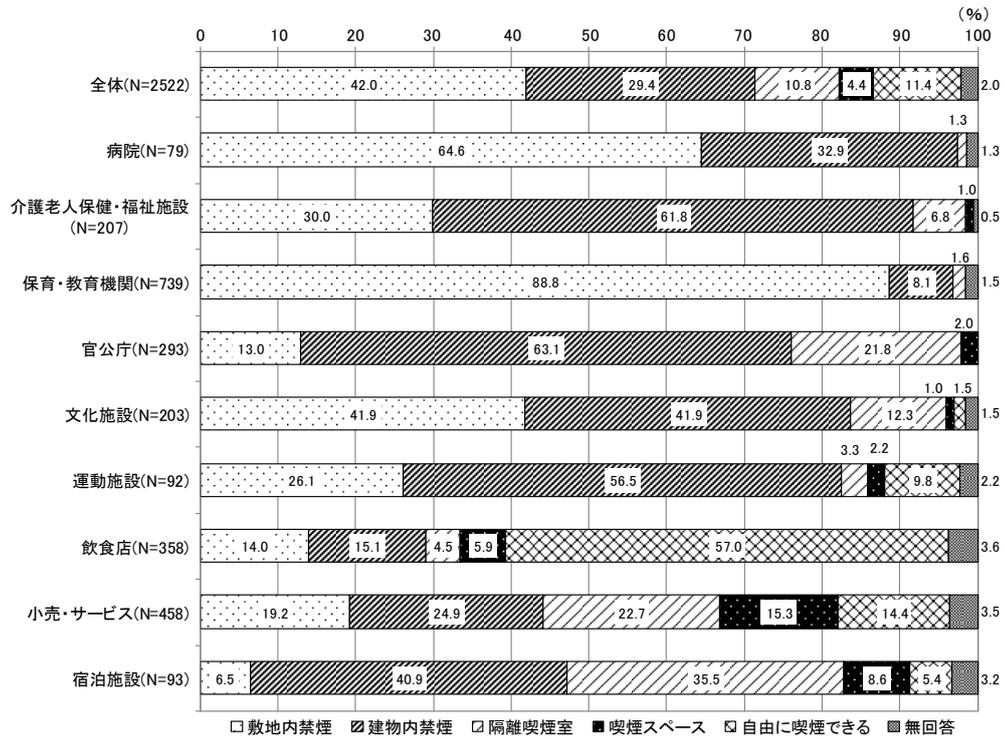


(1) 施設種別にみる受動喫煙防止対策の状況

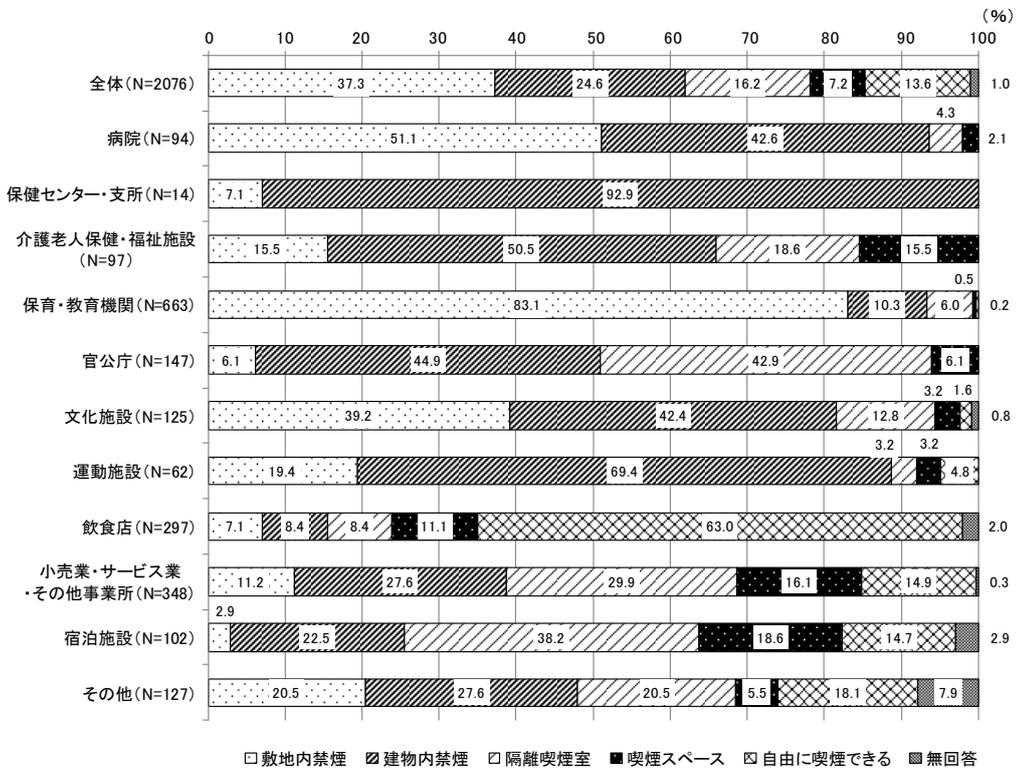
受動喫煙防止対策の状況を施設種別で見ると、「病院」では64.6%、「保育・教育機関」で88.8%が敷地内禁煙となっている。建物内禁煙を含めた割合をみると、「病院」と「保育・教育機関」の両施設では、約97%が受動喫煙防止対策を実施していることになる。

「自由に喫煙できる」では、「飲食店」の割合が最も高く、57.0%となっている。一方で「飲食店」の「敷地内禁煙」と「建物内禁煙」を合わせた割合は29.1%となっている。平成22年調査では、「自由に喫煙できる」が63.0%、「敷地内禁煙」と「建物内禁煙」を合わせた割合が15.5%であったことから、「飲食店」においても受動喫煙防止対策を実施している施設が増加している。

【施設種別受動喫煙防止対策の状況】

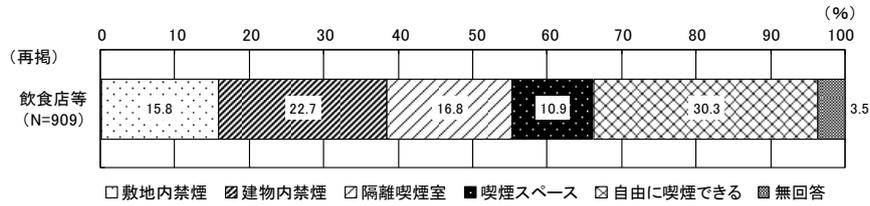


参考(平成22年度)



(再掲)【飲食店等の受動喫煙防止対策の状況】

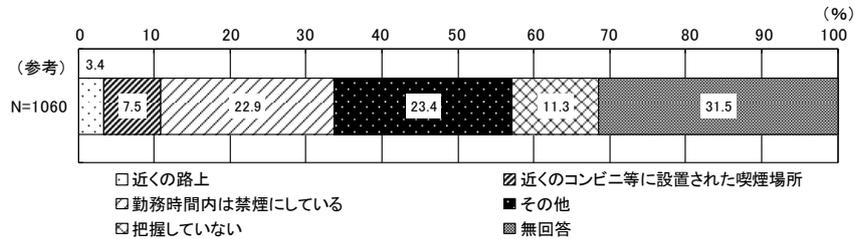
飲食店等においては、「敷地内禁煙」と「建物内禁煙」を合わせた割合が38.5%と全体の4割弱となっている。一方で「自由に喫煙できる」の割合は30.3%で全体の3割近い割合となっている。



※飲食店等には飲食店、小売・サービス業・その他事業所、宿泊施設が含まれます。

(参考)【従業員の喫煙場所】

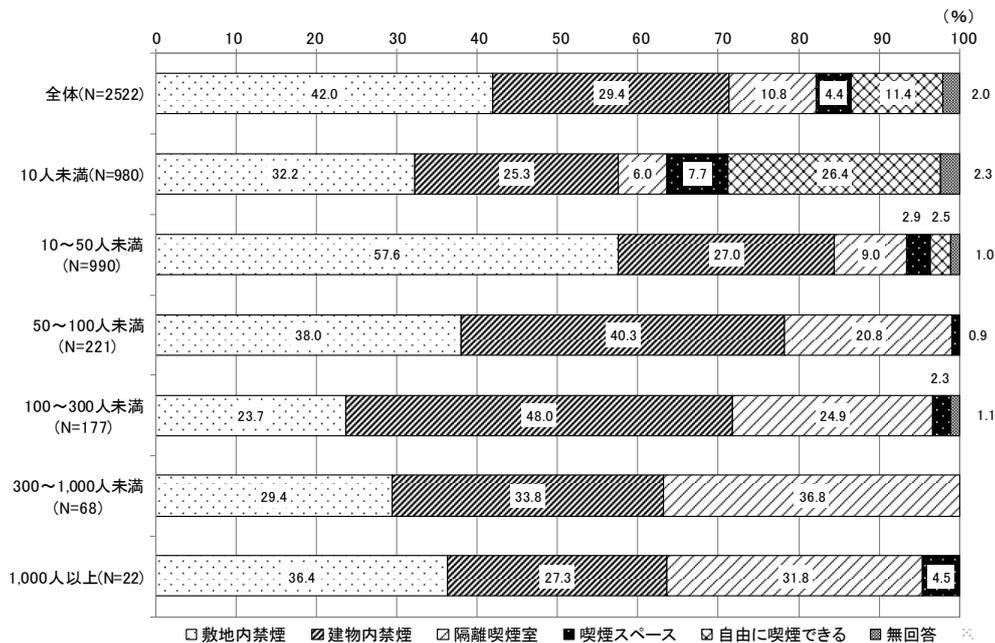
敷地内禁煙施設の従業員の喫煙場所を施設全体でみると、「勤務時間内は禁煙にしている」と回答した施設は、22.9%であった。



(2)従業員数別にみる受動喫煙防止対策の状況

従業員数別に受動喫煙防止対策の状況を見ると、従業員数が「10～50人未満」で「敷地内禁煙」もしくは「建物内禁煙」としている割合が最も多くなっており、84.6%となっている。「10人未満」の施設では、「自由に喫煙できる」が多く、26.4%だった。また、従業員数が50人以上の施設では、「自由に喫煙できる」はなかった。

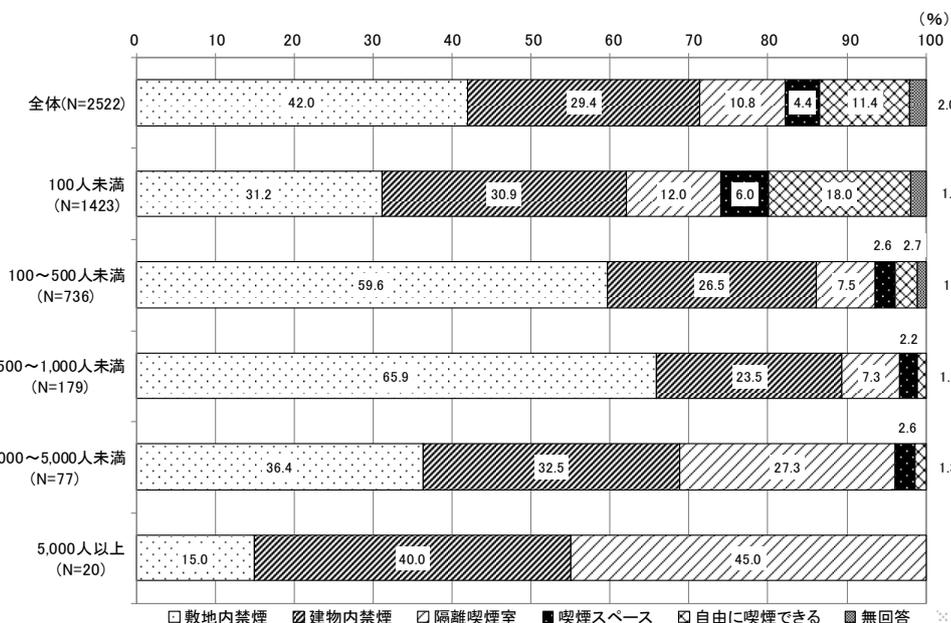
【従業員別受動喫煙防止対策の実施状況】



(3)1日あたりの来客数別にみる受動喫煙防止対策の状況

受動喫煙防止対策の状況を1日あたりの来客数別で見ると、「自由に喫煙できる」の割合が来客数が多くなるにつれて減少する傾向がみられる。「建物内禁煙」以上の割合では、「100～500人未満」「500～1,000人未満」の施設で8割半ばから9割弱とくなっている。

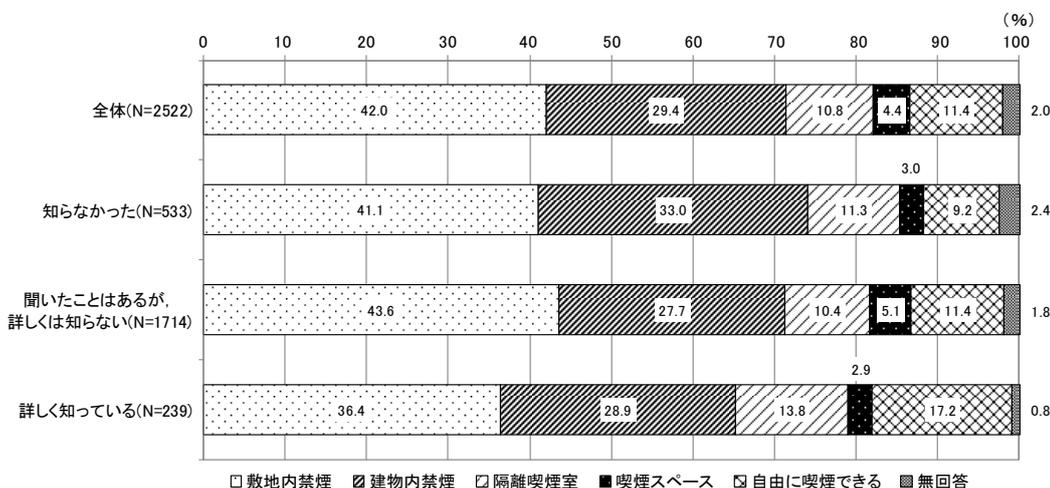
【来客数別受動喫煙防止対策の実施状況】



(4)受動喫煙防止対策の強化に関する制度案の認知度別にみる受動喫煙防止対策の状況

受動喫煙防止対策の強化に関する制度案の認知度別にみる受動喫煙防止対策の状況では、「知らなかった」「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」と回答した施設の「建物内禁煙」以上の割合が「詳しく知っている」よりもやや高く、それぞれ 74.1%、71.3%となっている。「詳しく知っている」では、65.3%となっている。一方で「詳しく知っている」では「自由に喫煙できる」の割合が他よりも若干高く、17.2%となっている。これは飲食店や宿泊施設など「自由に喫煙できる」割合が高い施設(P. 110 参照)についてメディアで取り上げられることが多く、そのような施設が関心を持っている(P. 121 参照)ことが関係していると推察される。

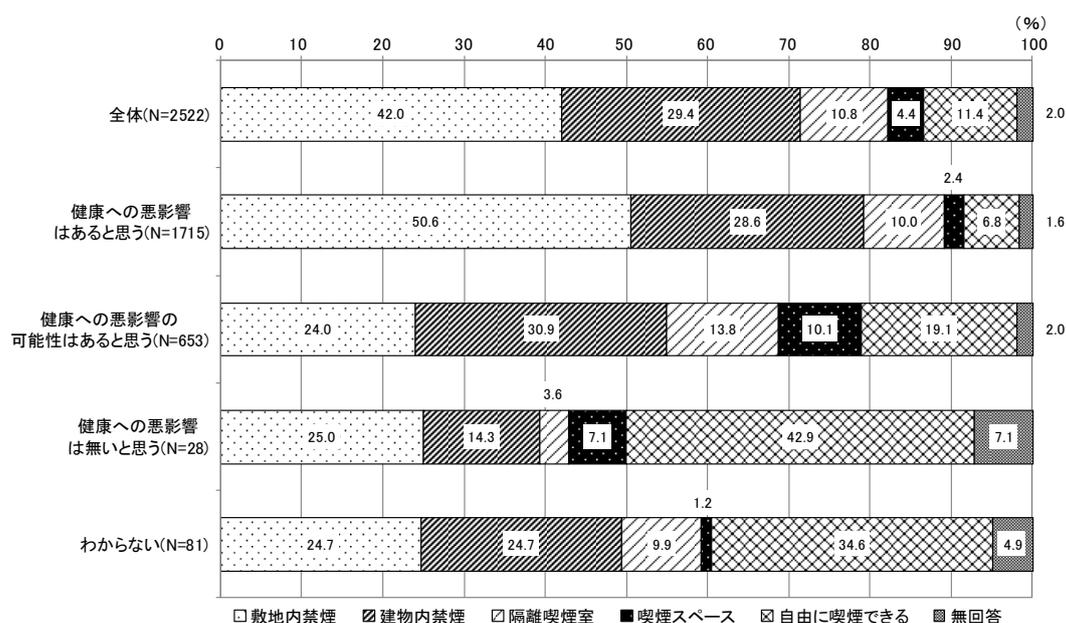
【受動喫煙防止対策に関する制度案の認知度別にみる受動喫煙防止対策の状況】



(5)受動喫煙の健康への影響の認識別にみる受動喫煙防止対策の状況

受動喫煙の健康への影響の認識別にみる受動喫煙防止対策の状況では、「健康への悪影響はあると思う」と回答した施設では、「建物内禁煙」以上の割合が他よりも高く、79.2%となっている。一方で、「健康への悪影響は無いと思う」と回答した施設では、「自由に喫煙できる」の割合が多くなっており、42.9%に上る。受動喫煙の健康への影響の認識によって、受動喫煙防止対策の状況に違いがみられた。健康への悪影響を認識している施設ほど、「敷地内禁煙」もしくは「建物内禁煙」にしている割合が高かった。

【受動喫煙による健康への影響に対する認識別にみる受動喫煙防止対策の状況】



2 現在の受動喫煙防止対策に対する認識

受動喫煙防止対策についての認識は、施設全体では「十分」と回答した割合が最も高く、64.8%だった。ついで「まだまだ不十分」が高くなっており、16.3%となっている。

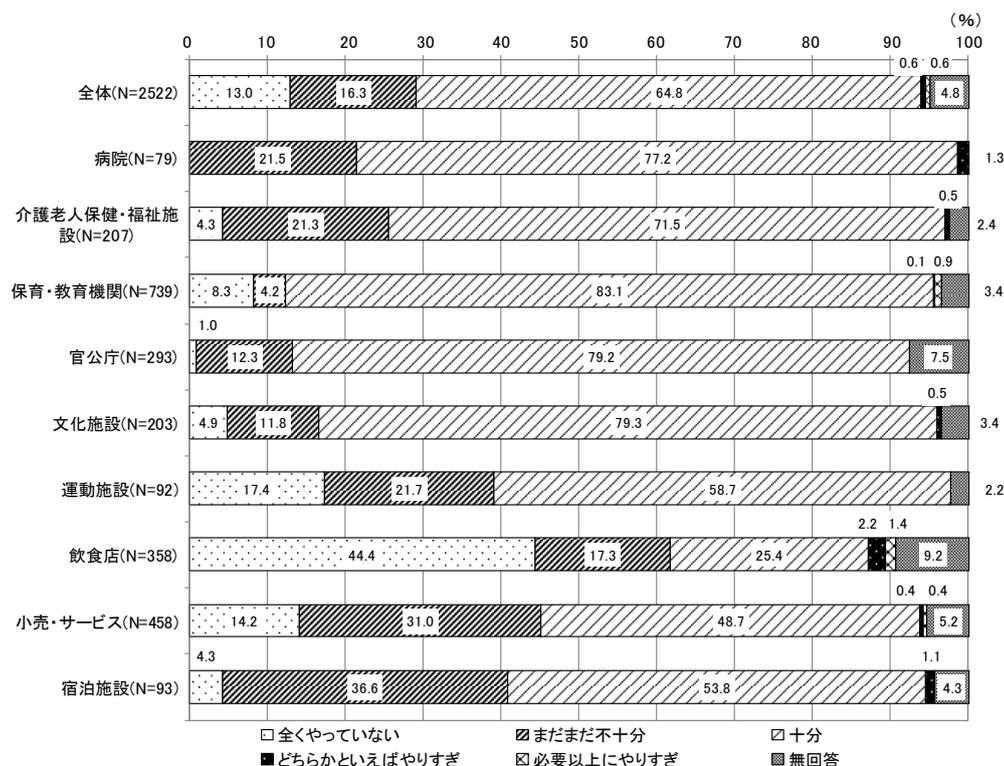
また、「十分」「どちらかといえばやりすぎ」「必要以上にやりすぎ」を合計した“十分以上”の割合が66.0%となっており、平成22年調査の61.8%よりもやや高くなっている。

(1)施設種別にみる受動喫煙防止対策に対する認識

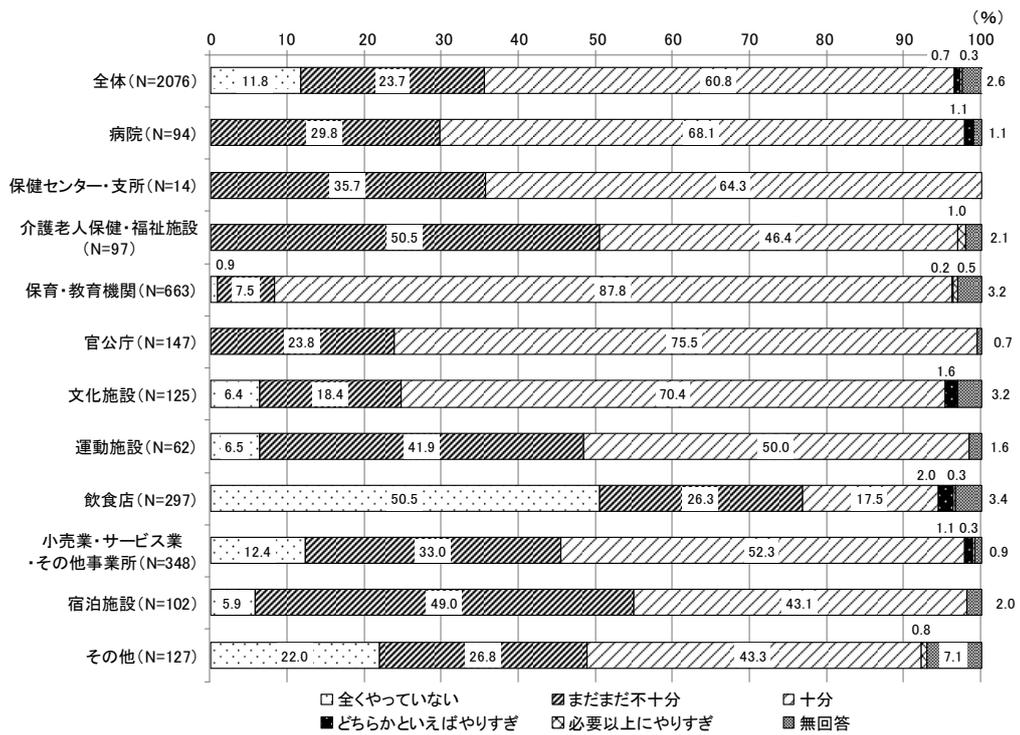
受動喫煙防止対策についての認識を施設種別にみると、「敷地内禁煙」を実施している割合の高い「病院」と「保育・教育機関」では、それぞれ77.2%、83.1%の施設で「十分である」としている。また、「十分」と回答した割合が高かった施設は、「介護老人保健・福祉施設」「官公庁」「文化施設」でいずれも7割を超えている。「建物内禁煙」以上の割合が29.1%と最も低い「飲食店」では、「十分」の割合が他よりも低く、25.4%となっている。一方で「全くやっていない」の割合が他よりも高く44.4%となっている。

平成22年調査と比較すると、「十分以上」の割合が、「官公庁」「文化施設」「病院」などの施設で平成22年度よりも高くなっている。

【施設種別受動喫煙防止対策に対する認識】



参考(平成 22 年度)

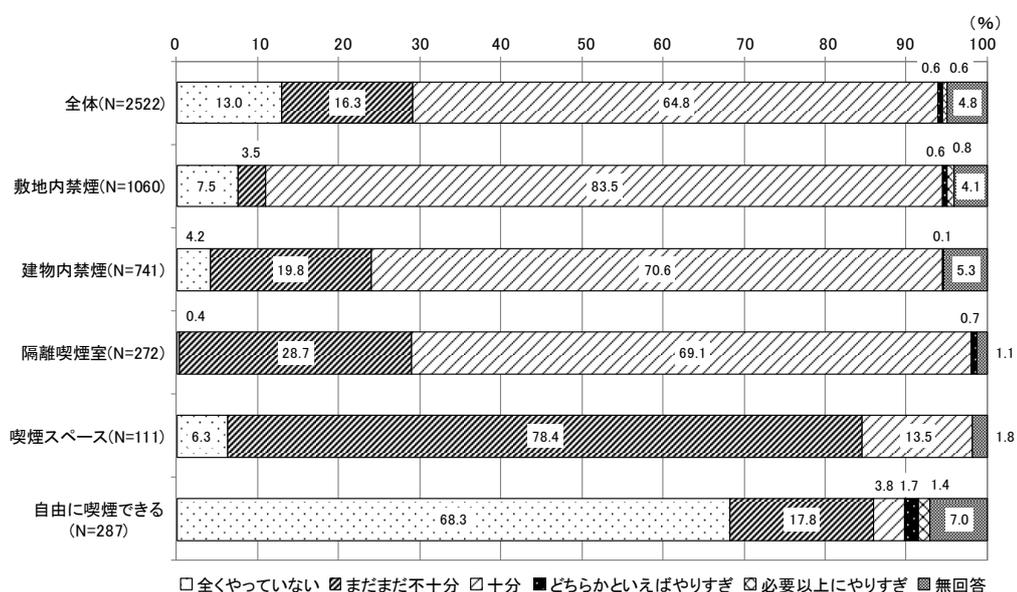


(2) 受動喫煙防止対策の状況別にみる受動喫煙防止対策についての認識

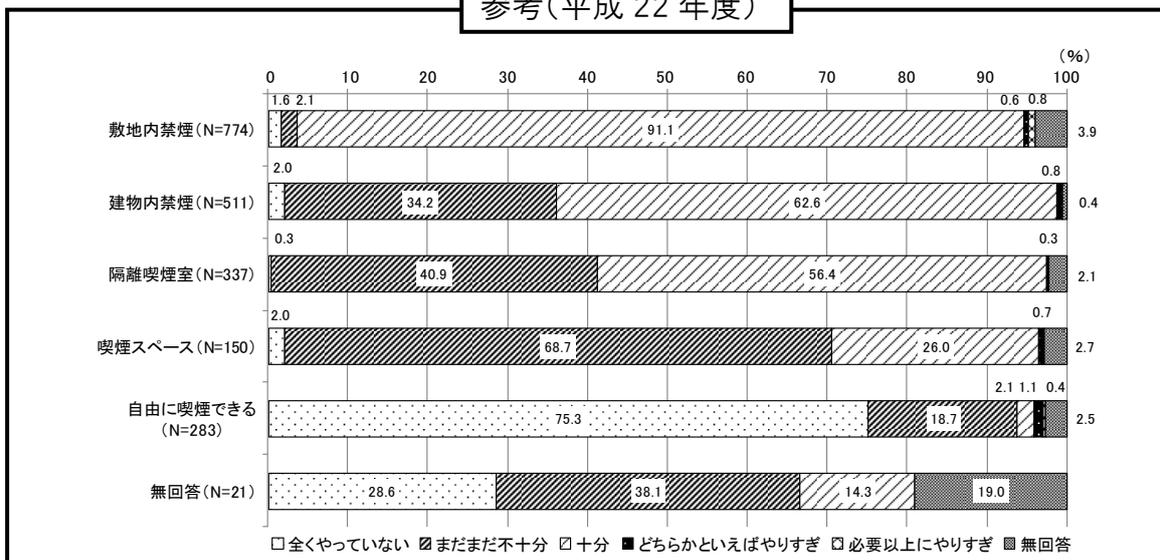
受動喫煙防止対策についての認識を実施状況別にみると、「十分」「どちらかといえばやりすぎ」「必要以上にやりすぎ」を合計した“十分以上”の割合が最も高くなっているのが、「敷地内禁煙」をしている施設で 84.9% となっている。また、「建物内禁煙」「隔離喫煙室」でも“十分以上”の割合が高くなっており、いずれの施設でも7割程度だった。一方で、「自由に喫煙できる」施設では、「全くやっていない」「まだまだ不十分」の合計が 86.1% と高くなっている。受動喫煙防止対策の実施状況によって、認識に大きな違いが見受けられた。

平成 22 年調査と比較すると、“十分以上”の割合は、建物内禁煙が 63.4% からやや増加しているが、敷地内禁煙では 92.5% から減少している。一方で「自由に喫煙できる」施設は、「全くやっていない」「まだまだ不十分」の合計が 94.0% から1割弱減少している。

【平成 29 年度】



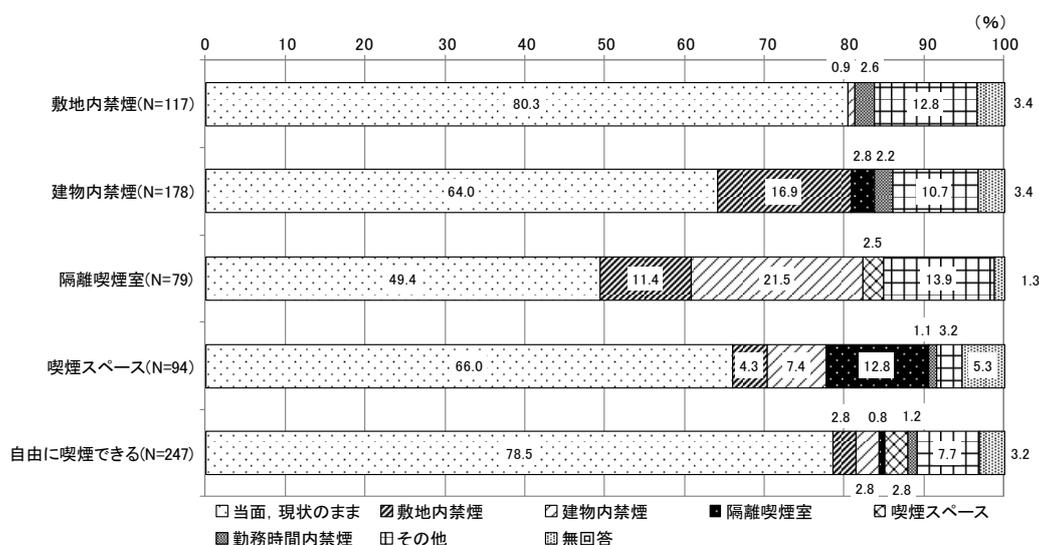
参考(平成 22 年度)



3 今後の受動喫煙防止対策

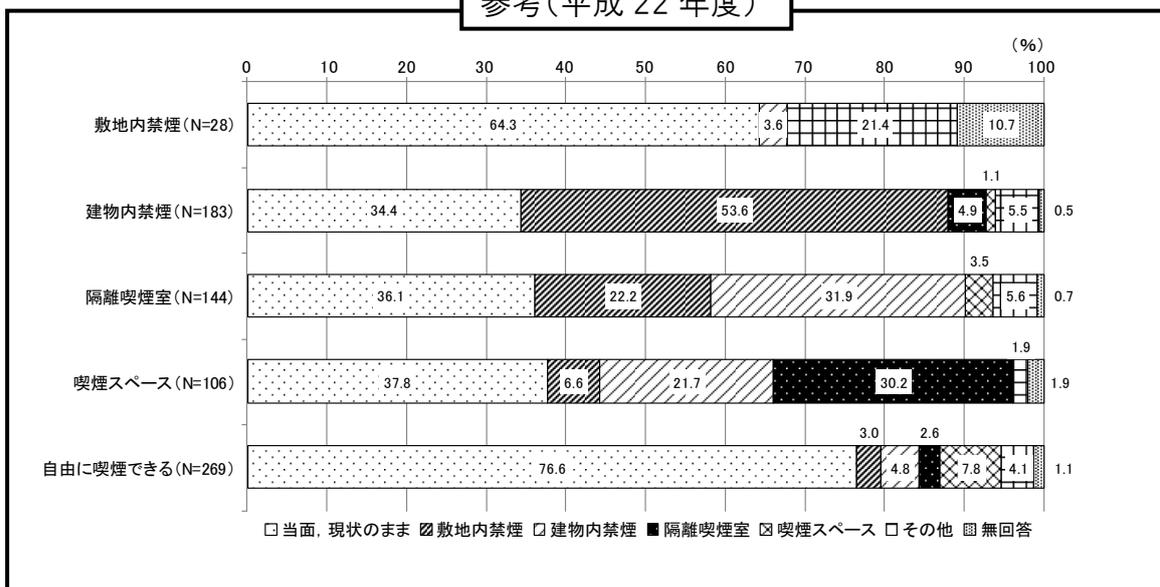
現在の受動喫煙防止対策について「全くやっていない」「まだまだ不十分である」と答えた施設 (P113 参照) の今後の受動喫煙防止対策についてみると、「自由に喫煙できる」と回答した施設では、「当面、現状のまま」との回答が最も多く、78.5%に上る。一方で「建物内禁煙」以上に踏み切ると回答した割合は 5.6%にとどまっている。また、「隔離喫煙室」とした施設では、32.9%が「建物内禁煙」以上を今後予定している。

【平成 29 年度】



※現在の受動喫煙防止対策の実施状況と今後の対策が一致している施設 (例えば、敷地内禁煙をしている施設が今後の対策として「敷地内禁煙」を選択した場合) では、現状と今後の対策に変化がみられないことから、上記のグラフ内の割合では、「当面、現状のまま」と同義とみなし、「当面、現状のまま」とそれらの選択肢の割合を合計したものを示している。

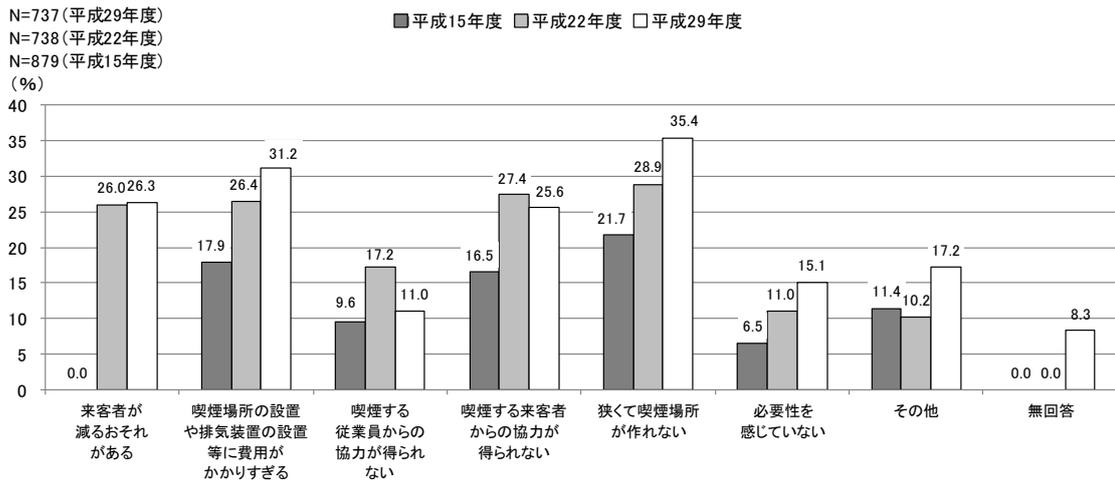
参考(平成 22 年度)



4 受動喫煙防止対策が進まない(困難である)理由

受動喫煙防止対策が進まない(困難である)理由をみると、「狭くて喫煙場所が作れない」が最も多く、35.4%となっている。ついで「喫煙場所の設置や排気装置の設置等に費用がかかりすぎる」で31.2%、「来客者が減るおそれがある」が26.3%となっている。

【受動喫煙防止対策が進まない理由】



(1)施設種別にみる受動喫煙防止対策が進まない理由

「官公庁」「文化施設」「運動施設」「小売・サービス業」「宿泊施設」では、「喫煙場所の設置や排気装置の設置等に費用がかかりすぎる」が最も多くなっている。また、「敷地内禁煙」と「建物内禁煙」を合わせた割合が低かった「飲食店」「小売・サービス業」「宿泊施設」では、「狭くて喫煙場所が作れない」が多くなっており、いずれの施設でも4割を超えている。特に「飲食店」では、56.1%と半数以上となっている。「飲食店」では「来客者が減るおそれがある」も多くなっており、約6割となっている。

【施設種別にみる受動喫煙防止対策が進まない理由】

	合計	来客者が減るおそれがある	喫煙場所の設置や排気装置の設置等に費用がかかりすぎる	喫煙する従業員からの協力が得られない	喫煙する来客者からの協力が得られない	狭くて喫煙場所が作れない	必要性を感じていない	その他	無回答
平成29年度	全体 (N=737)	26.3	31.2	11.0	25.6	35.4	15.1	17.2	8.3
	病院 (N=17)	0.0	11.8	29.4	41.2	11.8	0.0	23.5	11.8
	介護老人保健・福祉施設 (N=53)	9.4	30.2	32.1	24.5	28.3	1.9	35.8	1.9
	保育・教育機関 (N=92)	0.0	5.4	12.0	5.4	3.3	35.7	21.7	28.3
	文化施設 (N=34)	8.8	23.5	8.8	17.6	8.8	17.6	17.6	20.6
	運動施設 (N=36)	5.6	36.1	0.0	11.1	11.1	8.3	30.6	11.1
	飲食店 (N=221)	59.3	29.0	3.6	29.4	56.1	19.5	15.4	2.3
	小売・サービス (N=207)	23.2	42.0	13.5	38.2	42.0	12.1	8.7	3.9
	宿泊施設 (N=38)	13.2	55.3	2.6	15.8	42.1	0.0	7.9	13.2
	官公庁 (N=39)	0.0	35.9	20.5	10.3	17.9	5.1	30.8	7.7
平成22年度	全体 (N=738)	26.0	26.4	17.2	27.4	28.9	11.0	10.2	0.0
	病院 (N=28)	7.1	14.3	32.1	35.7	10.7	0.0	25.0	0.0
	介護老人保健・福祉施設 (N=49)	2.0	36.7	36.7	26.5	26.5	0.0	12.2	0.0
	保育・教育機関 (N=56)	0.0	23.2	37.5	12.5	0.0	3.6	16.1	0.0
	文化施設 (N=31)	12.9	22.6	16.1	26.8	16.1	6.5	22.6	0.0
	運動施設 (N=30)	0.0	6.7	0.0	86.7	0.0	3.3	16.7	0.0
	飲食店 (N=228)	57.5	22.8	3.1	25.4	51.8	18.0	4.8	0.0
	小売・サービス(その他事業) (N=158)	12.7	29.7	25.3	17.7	24.1	10.8	9.5	0.0
	宿泊施設 (N=56)	33.9	35.7	5.4	32.1	41.1	1.8	7.1	0.0
	官公庁 (N=35)	0.0	40.0	45.7	11.4	17.1	0.0	8.6	0.0

5 受動喫煙による健康への影響に対する認識

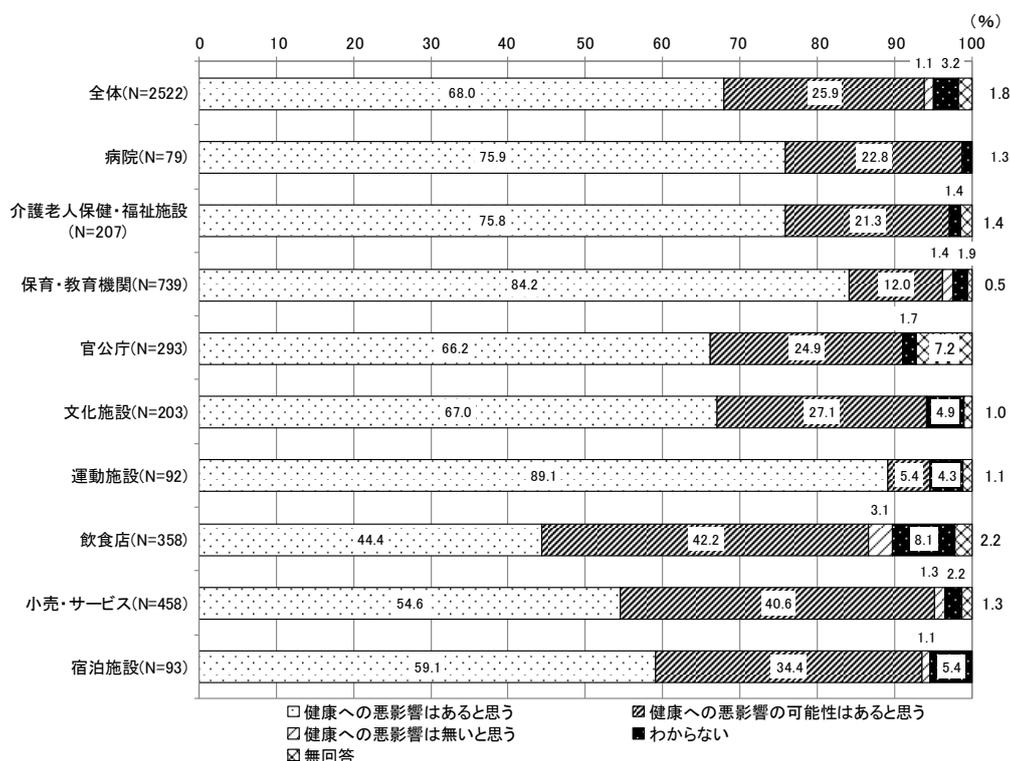
受動喫煙による健康への影響に対する認識について、「健康への悪影響はあると思う」の割合が最も多く、68.0%となっている。ついで「健康への悪影響の可能性はあると思う」が 25.9%となっている。一方で、「健康への悪影響は無いと思う」は 1.1%、「わからない」が 3.2%となっている。

平成 22 年調査では、「健康への悪影響はあると思う」の割合が 72.7%となっている。「健康への悪影響の可能性はあると思う」は、22.5%だった。また、「健康への悪影響は無いと思う」は 0.4%、「わからない」が 3.5%だった。平成 22 年調査と比較すると、受動喫煙による健康への影響に対する意識にあまり大きな変化はみられない。

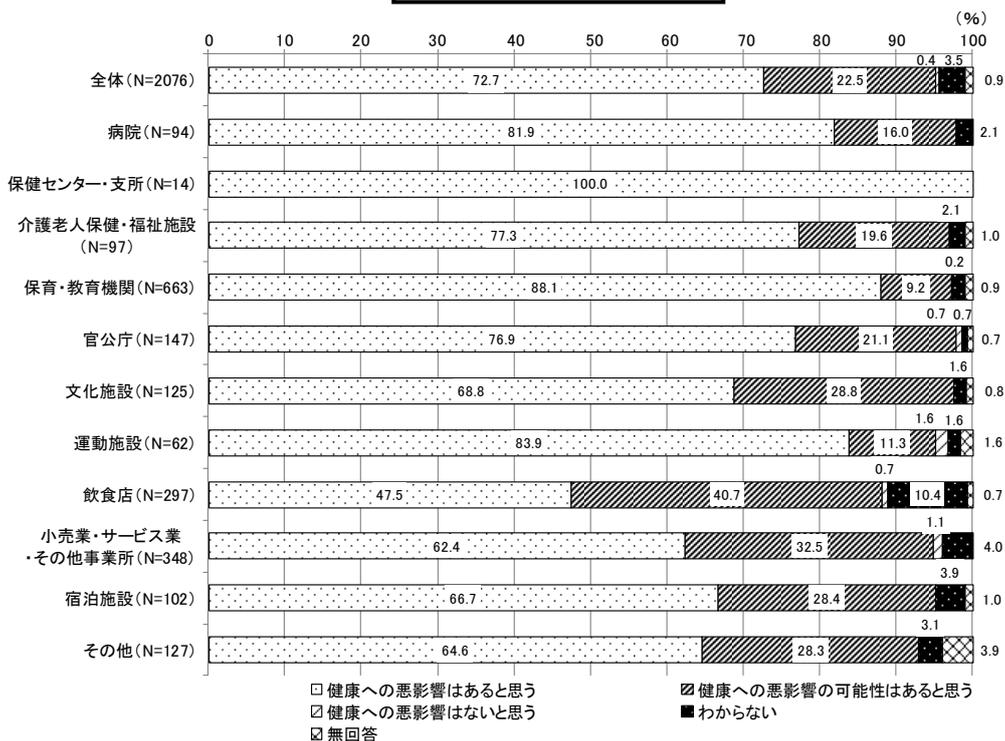
(1)施設種別にみる受動喫煙による健康への影響

受動喫煙による健康への影響に対する意識を施設種別にみると、「保育・教育機関」「運動施設」で「健康への悪影響はあると思う」とする割合が多く、いずれの施設でも8割以上となっている。一方で、「飲食店」では「健康への悪影響はあると思う」としている割合は 44.4%であり、半数以下となっている。

【平成 29 年度】



参考(平成 22 年度)



6 受動喫煙防止対策の強化に関する制度案の認知状況

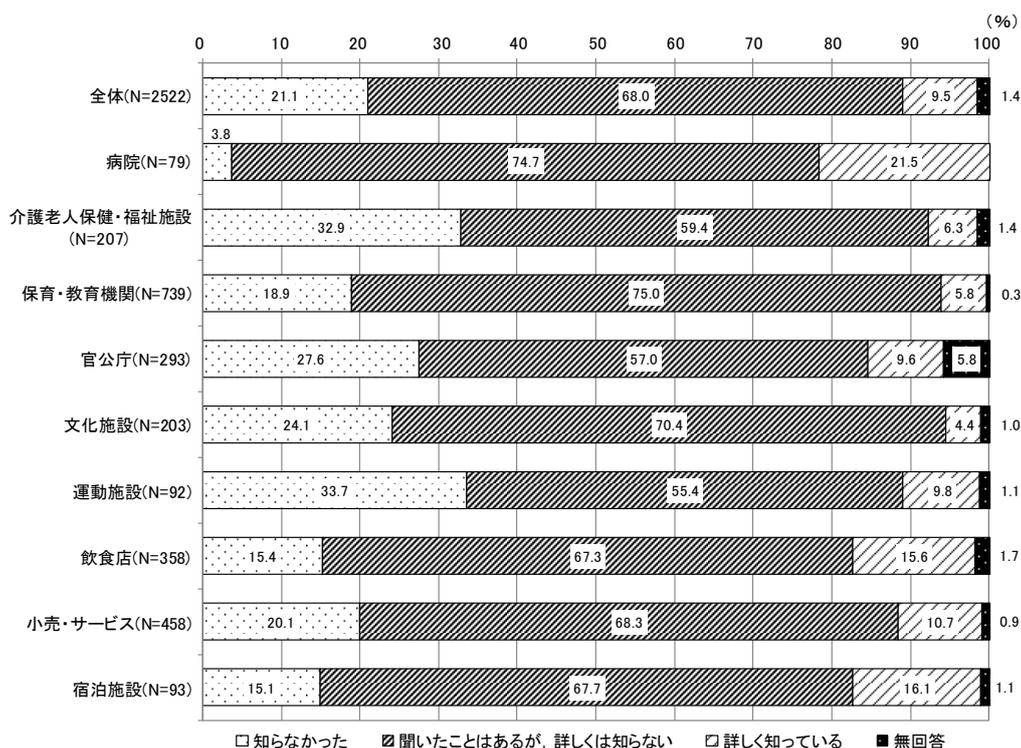
受動喫煙防止対策の強化に関する制度案について、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が最も多く、68.0%となっている。ついで「知らなかった」が21.1%、「詳しく知っている」が9.5%となっている。

(1) 施設種別にみる受動喫煙防止対策の強化に関する制度案の認知状況

施設種別に認知状況をみると、「病院」で「詳しく知っている」が21.5%と最も多くなっている。「飲食店」「小売・サービス業」「宿泊施設」でも「詳しく知っている」の割合が比較的多く、1割から1割半ばとなっている。その他の施設では、1割未満となっている。

一方で、「知らなかった」の割合が最も多かったのが、「運動施設」で33.7%となっている。その他、「官公庁」「介護老人保健・福祉施設」でも「知らなかった」の割合が比較的多くなっており、いずれの施設でも3割前後となっている。

【制度案の認知状況】



7 喫煙環境の掲示状況

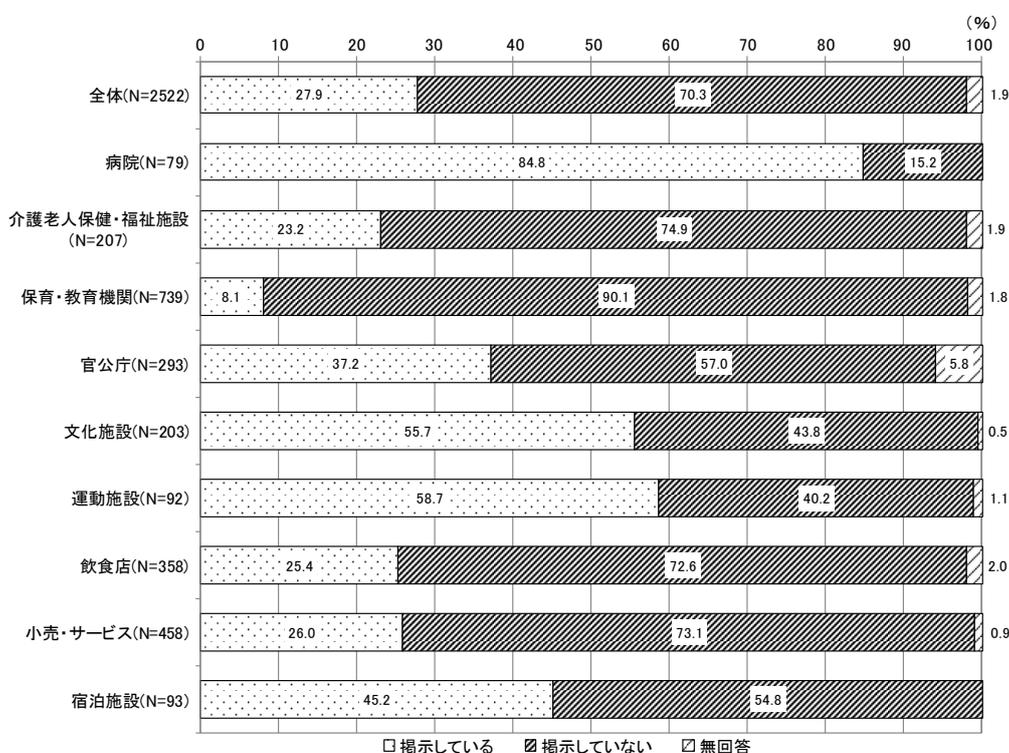
施設内の喫煙環境を「掲示している」と回答した施設は 27.9%となっている。一方で、「掲示していない」が 70.3%と多くなっている。

(1)施設種別にみる喫煙環境の掲示状況

「掲示している」と回答した施設では、「病院」「文化施設」「運動施設」などで多くなっており、いずれの施設でも半数を超えている。特に「病院」ではその割合が高く、84.8%となっている。「文化施設」「運動施設」でもそれぞれ 55.7%, 58.7%となっている。

一方で、「介護老人保健・福祉施設」「保育・教育機関」「飲食店」「小売・サービス業」では、「掲示していない」とした割合が多くなっており、いずれも7割を超えている。

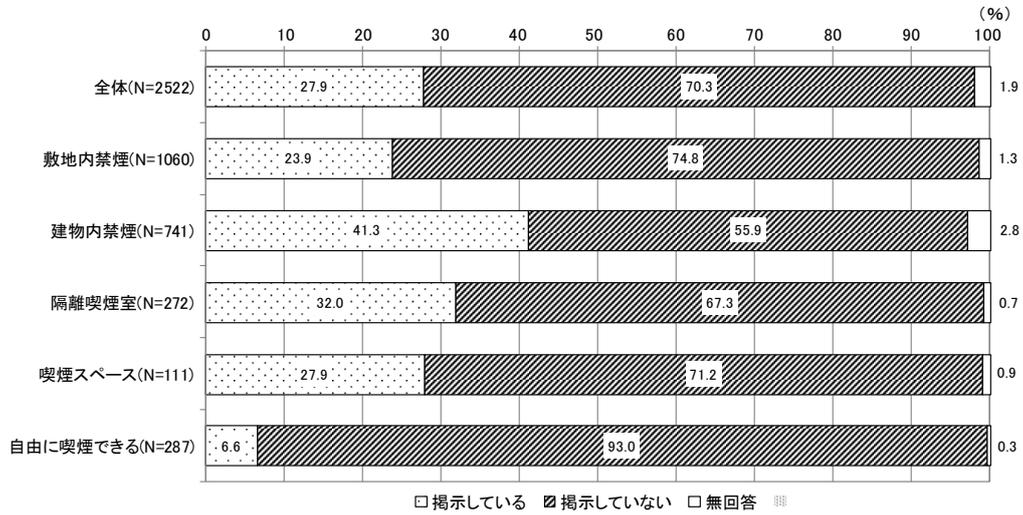
【喫煙環境の掲示状況】



(2)受動喫煙防止対策別にみる喫煙環境の揭示状況

「自由に喫煙できる」では、揭示している割合が6.6%と最も低く、予期せぬ受動喫煙防止に課題があることが伺える。

【受動喫煙防止対策別の揭示状況】



第4章 公共交通機関の調査結果

1 受動喫煙防止対策の状況

鉄道事業者

【鉄道車両内】

鉄道車両内においては「全車禁煙」にしている事業者が6事業者と最も多く、ついで「喫煙できる車両がある」が1事業者となっている。「その他」は喫煙ルームを設置している車両があるであった。平成22年調査では、「全車禁煙」と回答した事業者は5事業者だった。

(単位:件)

	合計	全車禁煙	喫煙できる車両がある	その他	無回答
平成29年度	(N=8)	6	1	1	0
平成22年度	(N=7)	5	2	0	0

【駅構内】

駅構内においては、「喫煙コーナーを設置している」が4事業者、「全面禁煙」が2事業者となっている。

平成22年調査では「全面禁煙」をしている事業者はおらず、「喫煙コーナーを設置している」事業者が6事業者となっていた。

	合計	全面禁煙	喫煙コーナーを設置	喫煙コーナーを設置しているが、ラッシュ時間帯などは禁煙タイムを設定	自由に喫煙できる	その他	無回答
平成29年度	(N=8)	2	4	0	0	2	0
平成22年度	(N=7)	0	6	1	0	0	0

【鉄道事業所】

事業所においては、7事業者が「隔離喫煙室」、1事業者が「喫煙スペース」を設置しているとしている。

(単位:件)

	合計	敷地内禁煙	建物内禁煙	隔離喫煙室	喫煙スペース	自由に喫煙できる	無回答
鉄道事業者	(N=8)	0	0	7	1	0	0

バス事業者

【バスターミナル】

バスターミナルでの受動喫煙防止対策の状況について、「全面禁煙」にしている事業者が8事業者、「喫煙コーナーを設置してる」が4事業者、「自由に喫煙できる」が1事業者となっている。平成22年調査では、「全面禁煙」「喫煙コーナーを設置」「自由に喫煙できる」が各1事業者となっていた。

(単位:件)

	合計	全面禁煙	喫煙コーナー を設置	喫煙コーナー を設置している が、ラッシュ 時間帯などは 禁煙タイムを 設定	自由に喫煙で きる	その他	無回答
平成29年度	(N=17)	8	4	0	1	1	3
平成22年度	(N=3)	1	1	0	1	0	0

【停留所】

バスの停留所においては、「全面禁煙」が9事業者、「喫煙できるが、灰皿は設置していない」が4事業者となっている。平成22年調査では、「禁煙であるが、やむを得ず灰皿を設置している」が1事業者、「喫煙できるが、灰皿は設置していない」2事業者となっていた。

(単位:件)

	合計	全面禁煙	禁煙である が、やむを得 ず灰皿を設 置している	喫煙できる が、灰皿は設 置していない	喫煙でき、灰 皿を設置して いる	その他	無回答
平成29年度	(N=17)	9	0	4	0	1	3
平成22年度	(N=3)	0	1	2	0	0	0

【バス事業所】

事業所では、「建物内禁煙」が11事業者となっている。「隔離喫煙室」が4事業者、「自由に喫煙できる」「敷地内禁煙」がそれぞれ1事業者ずつとなっている。

また、敷地内禁煙にしている事業者の従業員の喫煙場所等については「勤務時間内禁煙」となっている。

(単位:件)

	合計	敷地内禁煙	建物内禁煙	隔離喫煙室	喫煙 スペース	自由に 喫煙できる	無回答
バス事業者	(N=17)	1	11	4	0	1	0

タクシー事業者

【車両内】

タクシー車両内での受動喫煙防止対策では、「全車禁煙」が最も多く 23 事業者となっている。ついで「一部の車両を禁煙にしている」が1事業者、「各車の対応にまかせている」が3事業者となっている。平成 22 年調査では、「全車禁煙」が 15 事業者、「一部の車両を禁煙にしている」が6事業者だった。

(単位:件)

	合計	全車禁煙	一部の車両を禁煙	各車の対応にまかせている	その他	無回答
平成29年度	(N=27)	23	1	3	0	0
平成22年度	(N=21)	15	6	0	0	0

【車内の喫煙確認状況(複数回答)】

全車禁煙にしていると回答したタクシー事業者について、いかなる時も車内で喫煙していないか確認しているかでは、「いかなる時も禁煙である旨確認している」が最も多く、18 事業者、ついで「客の要望があれば、やむを得ず喫煙可とする場合もある」が3事業者、「確認したことがない」が2事業者となっている。その他では、「目撃者などからの通報があれば確認する」や「泥酔者等の車内での喫煙を制止することは困難」とする意見がみられた。

(単位:件)

	合計	いかなる時も禁煙である旨確認している	客の要望があれば、やむを得ず喫煙可とする場合もある	客が乗車していない時は乗務員が喫煙していることもある	確認したことがない	その他	無回答
タクシー事業者	(N=23)	18	3	0	2	2	0

【タクシー事業所】

事業所においては、「建物内禁煙」が 17 事業者で最も多く、ついで「隔離喫煙室」が6事業者、「室内に喫煙できるスペースを仕切ったり、空気清浄機を設置している」が2事業者、「敷地内禁煙」が1事業者となっている。

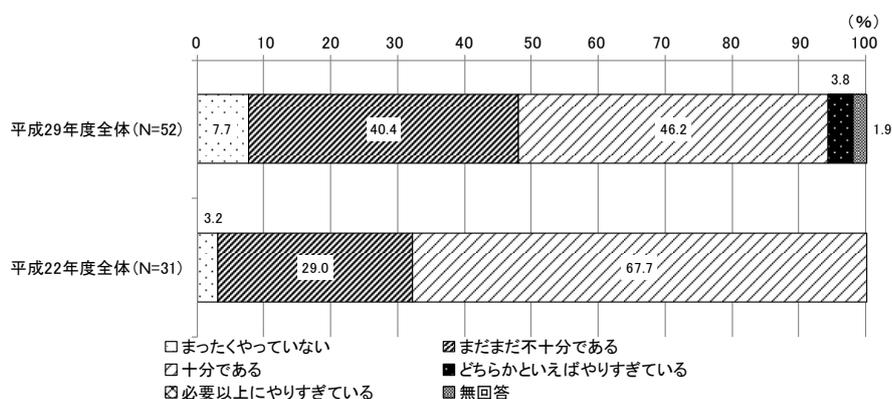
また、敷地内禁煙にしている事業者では、従業員の喫煙場所等については、「把握していない」としている。

(単位:件)

	合計	敷地内禁煙	建物内禁煙	隔離喫煙室	喫煙スペース	自由に喫煙できる	無回答
タクシー事業者	(N=27)	1	17	6	2	0	1

2 現在の受動喫煙防止対策に対する認識

全体でみると、平成22年調査と比較すると「まったくやっていない」「まだまだ不十分」としている割合がどちらも高くなっており、受動喫煙防止対策の必要性について認識が高まっていることが推測される。



鉄道事業者

現在の受動喫煙防止対策に対する認識として、5事業者では「十分」としているが、3事業者は「まだまだ不十分」としている。平成22年調査でも「十分」としている事業者は5事業者であった。
(単位: 件)

	合計	まったくやっていない	まだまだ不十分である	十分である	どちらかといえばやりすぎている	必要以上にやりすぎている	無回答
平成29年度	(N=8)	0	3	5	0	0	0
平成22年度	(N=7)	0	2	5	0	0	0

バス事業者

現在の受動喫煙防止対策に対する認識について、「十分」としている事業者が7事業者となっている一方で、「まだまだ不十分」が7事業者となっている。また、「まったくやっていない」「どちらかといえばやりすぎ」と回答した事業者もそれぞれ1事業者ずつとなっている。平成22年調査では、「まだまだ不十分」が2事業者、「十分」が1事業者だった。
(単位: 件)

	合計	まったくやっていない	まだまだ不十分である	十分である	どちらかといえばやりすぎている	必要以上にやりすぎている	無回答
平成29年度	(N=17)	1	7	7	1	0	1
平成22年度	(N=3)	0	2	1	0	0	0

タクシー事業者

現在の受動喫煙防止対策に対する認識として、12事業者では「十分」としているが、一方で11事業者が「まだまだ不十分」としている。また、「まったくやっていない」が3事業者、「どちらかといえばやりすぎ」が1事業者となっている。平成22年調査では、「十分」が15事業者、「まだまだ不十分」が5事業者だった。
(単位: 件)

	合計	まったくやっていない	まだまだ不十分である	十分である	どちらかといえばやりすぎている	必要以上にやりすぎている	無回答
平成29年度	(N=27)	3	11	12	1	0	0
平成22年度	(N=21)	1	5	15	0	0	0

3 今後の受動喫煙防止対策

鉄道事業者

【鉄道車両内】

鉄道車両内における今後の受動喫煙防止対策として、「喫煙できる車両を減らす」としている事業者が1事業者となっている。その他では、車両は既に全車禁煙となっており、今後も全車禁煙としていくとしている事業者が1事業者となっている。

(単位:件)

	合計	全車禁煙	喫煙できる 車両を減らす	適切な分煙 措置を講じる	当面、 現状のまま	その他	無回答
平成29年度	(N=3)	0	1	0	0	1	1
平成22年度	(N=2)	0	0	0	2	0	0

【駅構内】

駅構内については、「喫煙コーナーを設置」が1事業者、「当面、現状のまま」が2事業者となっている。「当面、現状のまま」としている事業者では、いずれも現在の状況としては喫煙コーナーを設置している。平成22年調査では、2事業者がいずれも鉄道車両内、駅構内の両施設内において「当面、現状のまま」としていた。

(単位:件)

	合計	全面禁煙	隔離喫煙室	喫煙 コーナー	禁煙タイム	当面、 現状のまま	その他	無回答
平成29年度	(N=3)	0	0	1	0	2	0	0
平成22年度	(N=2)	0	0	0	0	2	0	0

【鉄道事業所】

事業所では、「敷地内禁煙」が1事業者、「隔離喫煙室」が1事業者となっている。

(単位:件)

	合計	敷地内禁煙	建物内禁煙	隔離喫煙室	喫煙 スペース	勤務時間内 禁煙	当面、 現状のまま	その他	無回答
鉄道事業者	(N=3)	1	0	1	0	0	0	0	1

バス事業者

【バスターミナル】

バスターミナルにおける今後の受動喫煙防止対策として、3事業者が「当面、現状のまま」とし、2事業者が「全面禁煙」としている。「当面、現状のまま」としている事業者では現在、全面禁煙を実施している事業者が1事業者、自由に喫煙できているのが1事業者、乗り場付近は全面禁煙としているが、近隣の店舗等では灰皿が設置されている状況としている事業者が1事業者となっている。その他では、計画がない事業者や貸切バスのためバスターミナルやバス停がないとしている事業者が1事業者ずつとなっていた。平成22年調査では、「当面、現状のまま」「隔離喫煙室」がそれぞれ1事業者ずつだった。

(単位:件)

	合計	全面禁煙	隔離喫煙室	喫煙コーナー	禁煙タイム	当面、 現状のまま	その他	無回答
平成29年度	(N=8)	2	0	0	0	3	2	1
平成22年度	(N=2)	0	1	0	0	1	0	0

【停留所】

バス停留所では、3事業者が「全面禁煙」、2事業者が「当面、現状のまま」となっている。「当面、現状のまま」としている事業者では、いずれも現状では喫煙できるが、灰皿は設置していない状況となっている。その他では、停留所がないため、今後の計画もないとしている事業者が1事業者となっている。平成 22 年調査では、「灰皿の撤去を進める」「当面、現状のまま」が1事業者ずつとなっていた。

(単位:件)

	合計	全面禁煙	灰皿の撤去を進める	当面、現状のまま	その他	無回答
平成29年度	(N=8)	3	0	2	1	2
平成22年度	(N=2)	0	1	1	0	0

【バス事業所】

事業所については、「当面、現状のまま」が3事業者、「建物内禁煙」が2事業者、「敷地内禁煙」「隔離喫煙室」が各1事業者ずつとなっている。「当面、現状のまま」としている事業者はいずれも現在、建物内禁煙を実施している。

(単位:件)

	合計	敷地内禁煙	建物内禁煙	隔離喫煙室	喫煙スペース	勤務時間内禁煙	当面、現状のまま	その他	無回答
バス事業者	(N=8)	1	2	1	0	0	3	0	1

タクシー事業者

【車両内】

今後の受動喫煙防止対策についてタクシー車両内では、「全車禁煙」が4事業者、「当面、現状のまま」が4事業者となっている。「当面、現状のまま」としている事業者では、現在全車禁煙にしている事業者が2事業者、一部車両を禁煙にしている場合と各車両の対応にまかせている場合が1事業者ずつとなっている。その他では、4事業者のうち3事業者が車両は既に全車禁煙であるとしており、今後も全面禁煙であるとしている。うち1事業者はさらに対策として指導・教育に努め、従業員の理解を求めるとしている。1事業者は個人タクシーのため、現在は各車両に対応をまかせているが、今後禁煙車両が増えていくと考えている。平成 22 年調査では、「全車禁煙」が3事業者、「当面、現状のまま」が2事業者だった。

(単位:件)

	合計	全車禁煙にする	禁煙車両をふやしていく	当面、現状のまま	その他	無回答
平成29年度	(N=14)	4	0	4	4	2
平成22年度	(N=6)	3	0	2	0	1

【タクシー事業所】

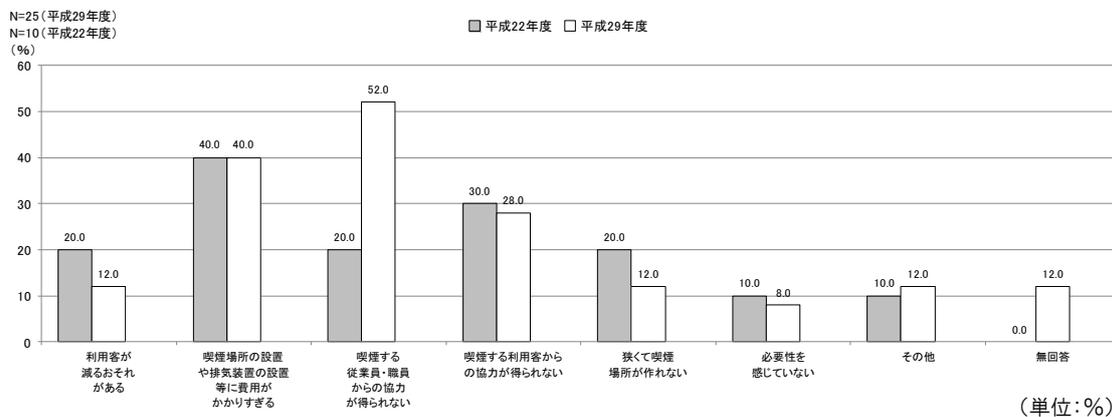
事業所では、「建物内禁煙」が5事業者で最も多く、ついで「当面、現状のまま」が4事業者、「敷地内禁煙」が3事業者、「隔離喫煙室」が2事業者となっている。「当面、現状のまま」が4事業者ではいずれも現在は、建物内禁煙を実施している状況となっている。

(単位:件)

	合計	敷地内禁煙	建物内禁煙	隔離喫煙室	喫煙スペース	勤務時間内禁煙	当面、現状のまま	その他	無回答
タクシー事業者	(N=14)	3	5	2	0	0	4	0	0

4 受動喫煙防止対策が進まない(困難である)理由

全体でみると「喫煙する従業員・職員からの協力が得られない」が最も多く、平成22年調査と比較すると倍以上になっていた。



鉄道事業者

受動喫煙防止対策が進まない理由としては、「喫煙場所の設置や排気装置の設置等に費用がかかりすぎる」をあげているのが2事業者、「喫煙する従業員・職員からの協力が得られない」「喫煙する利用者からの協力が得られない」「狭くて喫煙場所が作れない」がそれぞれ1事業者となっている。

(単位:件)

	合計	利用客が減るおそれがある	喫煙場所の設置や排気装置の設置等に費用がかかりすぎる	喫煙する従業員・職員からの協力が得られない	喫煙する利用者からの協力が得られない	狭くて喫煙場所が作れない	必要性を感じていない	その他	無回答
平成29年度	(N=3)	0	2	1	1	1	0	0	0
平成22年度	(N=2)	0	1	1	1	1	0	0	0

バス事業者

受動喫煙防止対策が進まない理由としては、6事業者が「喫煙する従業員・職員からの協力が得られない」をあげている。「喫煙する利用者からの協力が得られない」も3事業者が選択している。「喫煙場所の設置や排気装置の設置等に費用がかかりすぎる」「狭くて喫煙場所が作れない」もそれぞれ1事業者となっている。その他は「従業員に一服する場所をつくってあげたい」というものであった。平成22年調査では、「喫煙場所の設置や排気装置の設置等に費用がかかりすぎる」「狭くて喫煙場所が作れない」を選択した事業者がそれぞれ2事業者であった。

(単位:件)

	合計	利用客が減るおそれがある	喫煙場所の設置や排気装置の設置等に費用がかかりすぎる	喫煙する従業員・職員からの協力が得られない	喫煙する利用者からの協力が得られない	狭くて喫煙場所が作れない	必要性を感じていない	その他	無回答
平成29年度	(N=8)	0	1	6	3	1	0	1	2
平成22年度	(N=2)	1	2	0	1	2	0	0	0

タクシー事業者

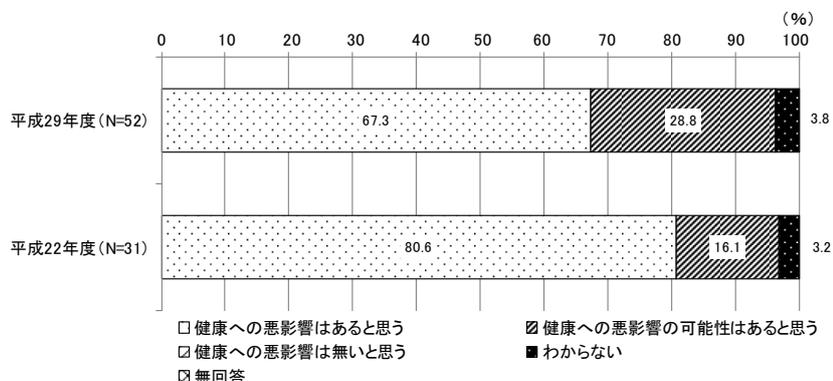
受動喫煙防止対策が進まない理由として最も多かったのが、7事業者で「喫煙場所の設置や排気装置の設置等に費用がかかりすぎる」、ついで「喫煙する従業員・職員からの協力が得られない」が6事業者、「喫煙する利用客からの協力が得られない」「利用客が減るおそれがある」が3事業者ずつとなっている。その他では、「個人タクシーのため各自の考え方にまかせているが、今後必要になってくる」とする意見があった。

(単位:件)

	合計	利用客が減るおそれがある	喫煙場所の設置や排気装置の設置等に費用がかかりすぎる	喫煙する従業員・職員からの協力が得られない	喫煙する利用客からの協力が得られない	狭くて喫煙場所が作れない	必要性を感じていない	その他	無回答
平成29年度	(N=14)	3	7	6	3	1	2	2	1
平成22年度	(N=6)	1	1	1	1	0	1	1	0

5 受動喫煙による健康への影響に対する認識

全体でみると、「健康への悪影響はあると思う」「健康への悪影響の可能性はあると思う」と回答した事業者が平成29年、平成22年ともに多かった。



鉄道事業者

受動喫煙による健康への影響について、「健康への悪影響はあると思う」「健康への悪影響の可能性はあると思う」と回答している事業者が3事業者ずつ、「わからない」が2事業者となっている。平成22年調査では、「健康への悪影響はあると思う」が6事業者と最も多く、「健康への悪影響の可能性はあると思う」が1事業者となっていた。

(単位: 件)

	合計	健康への悪影響はあると思う	健康への悪影響の可能性はあると思う	健康への悪影響は無いと思う	わからない	無回答
平成29年度	(N=8)	3	3	0	2	0
平成22年度	(N=7)	6	1	0	0	0

バス事業者

受動喫煙が健康に及ぼす影響について、「健康への悪影響はあると思う」と回答している事業者が13事業者で最も多かった。ついで「健康への悪影響の可能性はあると思う」が4事業者となっている。平成22年調査では、「健康への悪影響はあると思う」が2事業者、「健康への悪影響の可能性はあると思う」が1事業者となっていた。

(単位: 件)

	合計	健康への悪影響はあると思う	健康への悪影響の可能性はあると思う	健康への悪影響は無いと思う	わからない	無回答
平成29年度	(N=17)	13	4	0	0	0
平成22年度	(N=3)	2	1	0	0	0

タクシー事業者

受動喫煙による健康への影響について、「健康への悪影響はあると思う」が最も多く、19 事業者、ついで「健康への悪影響の可能性はあると思う」が8事業者で多くなっている。

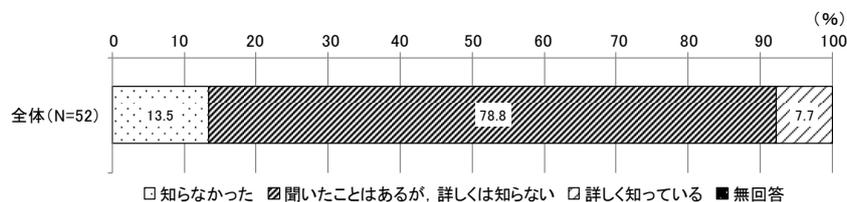
平成 22 年調査では、「健康への悪影響はあると思う」を選択したのは 17 事業者、「健康への悪影響の可能性はあると思う」は3事業者だった。

(単位:件)

	合計	健康への悪影響はあると思う	健康への悪影響の可能性はあると思う	健康への悪影響は無いと思う	わからない	無回答
平成29年度	(N=27)	19	8	0	0	0
平成22年度	(N=21)	17	3	0	1	0

6 受動喫煙防止対策の強化に関する制度案の認知状況

全体で見ると、「聞いたことがあるが、詳しくは知らない」が最も多く、78.8%であった。



鉄道事業者

受動喫煙防止対策の強化に関する制度案の認知状況についてみると、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」と回答した事業者が5事業者で最も多く、「知らなかった」が2事業者、「詳しく知っている」が1事業者と続いている。

(単位: 件)

	合計	知らなかった	聞いたことはあるが、詳しくは知らない	詳しく知っている	無回答
鉄道事業者	(N=8)	2	5	1	0

バス事業者

受動喫煙防止対策の強化に関する制度案について、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が最も多く、14事業者となっている。ついで「知らなかった」が2事業者、「詳しく知っている」が1事業者となっている。

(単位: 件)

	合計	知らなかった	聞いたことはあるが、詳しくは知らない	詳しく知っている	無回答
バス事業者	(N=17)	2	14	1	0

タクシー事業者

受動喫煙防止対策の強化に関する制度案の認知状況についてみると、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」と回答した事業者が22事業者で最も多く、ついで「知らなかった」が3事業者、「詳しく知っている」が2事業者となっている。

(単位: 件)

	合計	知らなかった	聞いたことはあるが、詳しくは知らない	詳しく知っている	無回答
タクシー事業者	(N=27)	3	22	2	0

7 京都市路上喫煙の禁止等に関する条例の認知度

タクシー事業者

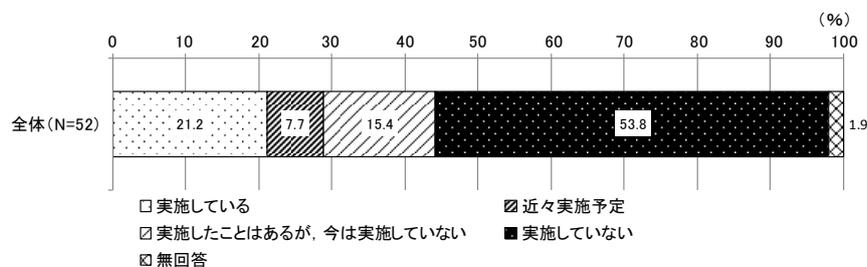
京都市路上喫煙の禁止等に関する条例において、京都市内全域で路上喫煙が禁止されていることについて、「詳しく知っている」「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」との回答した事業者がともに12事業者で最も多くなっている。一方で、「知らなかった」としたのは3事業者にとどまっている。

(単位:件)

	合計	知らなかった	聞いたことはあるが、詳しくは知らない	詳しく知っている	無回答
タクシー事業者	(N=27)	3	12	12	0

8 乗務員への受動喫煙に関する教育の実施状況

全体でみると、乗務員への受動喫煙に関する教育を約半数程度が「実施していない」としており、最も多くなっている。一方で、3割程度の事業者では「実施している」または「近々実施予定」としている。



鉄道事業者

受動喫煙の害について乗務員に対する教育を「実施している」が4事業者、「実施していない」が4事業者となっている。

(単位:件)

	合計	実施している	近々実施予定	実施したことはあるが、今は実施していない	実施していない	無回答
鉄道事業者	(N=8)	4	0	0	4	0

バス事業者

乗務員に対する受動喫煙の害に関する教育について、11事業者が「実施していない」としており、最も多くなっている。ついで「実施している」が3事業者、「実施したことはあるが、今は実施していない」が2事業者となっている。

(単位:件)

	合計	実施している	近々実施予定	実施したことはあるが、今は実施していない	実施していない	無回答
バス事業者	(N=17)	3	0	2	11	1

タクシー事業者

乗務員への受動喫煙の害に関する教育について、「実施していない」が13事業者で最も多くなっている。ついで「実施したことはあるが、今は実施していない」が6事業者、「実施している」「近々実施予定」が4事業者ずつとなっている。

(単位:件)

	合計	実施している	近々実施予定	実施したことはあるが、今は実施していない	実施していない	無回答
タクシー事業者	(N=27)	4	4	6	13	0

第5章 調査票

平成29年度 公共施設等における受動喫煙防止対策実態調査について

御協力のお願い

日頃から京都市政に御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございます。

京都市では、平成25年3月に策定いたしました「京都市たばこ対策行動指針（第2次）」に基づき、たばこの煙完全ガード社会の構築を目指して、たばこ対策を推進しております。

指針の計画期間を平成25年度から平成29年度までとしており、指針の見直しに当たりまして、現状把握を目的とした、実態調査を実施することといたしました。

お答えいただいた内容は、統計資料を得る目的にのみ使用し、皆様には不利益とならないように、秘密の保持には万全を期しておりますので、御協力を御願い申し上げます。

平成29年6月

京 都 市

〈記入上のお願い〉

- (1) 各質問項目については、あてはまる回答項目の番号いずれか1つに○印をつけてください。
- (2) ただし、【複数回答可】の質問項目については、あてはまる回答項目の番号全てに○印をつけてください。
- (3) 「その他」の回答項目を選択された場合は、「カッコ（ ）」内に具体的な内容等を御記入ください。
- (4) 質問項目に補足の質問がある場合は、「矢印（→）」にそって回答を進めてください。

御記入いただいた調査票は、お手数ですが、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに、平成29年7月12日（水）までに御返送くださいますようお願いいたします。

この調査に関するお問い合わせ及び送付先

京都市保健福祉局健康長寿のまち・京都推進室

健康長寿企画課健康長寿推進第一担当 堤，村山

電話：075-222-3419 FAX：075-222-3416



問6 現在の貴施設の受動喫煙防止対策についてどのようなように思いますが。(〇は1つ)

- 1 まったくやっではない
- 2 まだまだ不十分である
- 3 十分である
- 4 どちらかといえばやりすぎている
- 5 必要以上にやりすぎている

問7へお進みください

問6-1、問6-2は問6で「1」または「2」を選択した方のみお答えください

問6-1 今後、受動喫煙防止対策についてどのようなように計画されていますか。(〇は1つ)

- 1 敷地内は全面禁煙にする
- 2 建物内は禁煙にし、屋外に喫煙場所をつくる
- 3 建物内に隔離された喫煙場所(莖)を設置し、その場所以外は禁煙にする
- 4 同じ室内に喫煙できるスペースを仕切って喫煙場所をつくる
- 5 1～4は実施しないが、勤務時間内は禁煙にする
- 6 当面、現状のまま
- 7 その他()

問6-2 受動喫煙防止対策が進まない、また、困難である理由は何ですか。(〇はいくつでも)

- 1 来客者が減るおそれがある
- 2 喫煙場所の設置や排気装置の設置等に費用がかかりすぎる
- 3 喫煙する従業員からの協力が得られない
- 4 喫煙する来客者からの協力が得られない
- 5 狭くて喫煙場所が作れない
- 6 必要性を感じていない
- 7 その他()

すべての方にお答えください

問7 現在、厚生労働省において、2020年の東京オリンピック・パラリンピックや、その前年に開催されるラグビーワールドカップを契機に、受動喫煙防止対策の強化に関する制度案が検討されていますが、内容をご存知ですか。(〇は1つ)

- 1 知らなかった
- 2 聞いたことはあるが、詳しくは知らない
- 3 詳しく知っている

問8 受動喫煙による健康への影響についてどのように思いますが。(〇は1つ)

- 1 健康への悪影響はあると思う
- 2 健康への悪影響の可能性はあると思う
- 3 健康への悪影響は無いと思う
- 4 わからない

質問は以上です。ありがとうございます。

公共施設等の受動喫煙防止対策実施調査票

問1 貴施設について教えてください。
問1-1 貴施設の施設名・店舗名を教えてください。

施設名・店舗名:

問1-2 (飲食店の方のみ) 貴施設の床面積を教えてください。(〇は1つ)

- 1 30平米以下
- 2 31～100平米
- 3 101～150平米以上
- 4 151平米以上

問2 貴施設の従業員は何人ですか。(〇は1つ)

- 1 10人未満
- 2 10～50人未満
- 3 50～100人未満
- 4 100～300人未満
- 5 300～1,000人未満
- 6 1,000人以上

問3 貴施設の1日あたりの来客者は何人くらいですか。(〇は1つ)

- 1 100人未満
- 2 100～500人未満
- 3 500～1,000人未満
- 4 1,000～5,000人未満
- 5 5,000人以上

※病院、介護老人保健・福祉施設は入院(所)を含む

問4 貴施設においては、現在どのような受動喫煙防止対策*を実施していますか。(〇は1つ)

- 1 敷地内は全面禁煙にしている
- 2 建物内は禁煙にしているが、屋外に喫煙場所がある
具体的な場所()
- 3 建物内に隔離された喫煙場所(莖)を設置し、その場所以外は禁煙にしている
- 4 同じ室内に喫煙できるスペースを仕切って喫煙場所としている
- 5 どこでも自由に喫煙できる → 問5へお進みください

※ 受動喫煙とは、たばこを吸っている人の周りにいる人が、自分の意思とは無関係にたばこの煙を吸ってしまうことです。

問4-1は問4で「1」を選択した方のみお答えください

問4-1 従業員の喫煙場所等について教えてください。(〇は1つ)

- 1 近くの路上
- 2 近くのコンビニ等に設置された喫煙場所
- 3 勤務時間内は禁煙にしている
- 4 その他()
- 5 把握していない

すべての方にお答えください

問5 貴施設の入口等に、禁煙・分煙等の喫煙環境がわかる標示を行っていますか。(〇は1つ)

- 1 掲示している
- 2 掲示していない

裏面につづきます。

公共施設等の受動喫煙防止対策実態調査

問1 受動喫煙による健康への影響についてどのように思いますか。(Oは1つ)

- 1 健康への悪影響はあると思う
- 2 健康への悪影響はないと思う
- 3 健康への悪影響は無いと思う
- 4 わからない

※ 受動喫煙とは、たばこを吸っている人の周りの人に、自分の意志とは無関係にたばこの煙を吸ってしまふことです。

問2 現在、厚生労働省において2020年の東京オリンピック・パラリンピックや、その前年に開催されるラグビーワールドカップを契機に、受動喫煙防止対策に関する制度案が検討されていますが、内容をご存知ですか。(Oは1つ)

- 1 知らなかった
- 2 聞いたことはあるが、詳しくは知らない
- 3 詳しく知っている

問3 下記の場所について、現在どのような受動喫煙防止対策を実施していますか。

- (1) 鉄道車両について (Oは1つ)
- 1 全車禁煙
 - 2 喫煙できる車両がある
 - 3 その他 ()

(2) 駅構内について (Oは1つ)

- 1 全面禁煙
- 2 喫煙コーナーを設置している
- 3 喫煙コーナーを設置しているが、ラッシュ時間帯などは禁煙タイムを設定している
- 4 自由に喫煙できる
- 5 その他 ()

(3) 事業所について (控え室、休憩室を含む) (Oは1つ)

- 1 敷地内は全面禁煙にしている
- 2 建物内は禁煙にしているが、屋外に喫煙場所がある
- 3 建物内に隔離された喫煙場所(室)を設置し、その場所以外は禁煙にしている
- 4 室内に喫煙できるスペースを仕切ったり、空気清浄機を設置している
- 5 どこでも自由に喫煙できる

問3-2は問3-(3)で「1」を選択した方のみお答えください

問3-2 従業員の喫煙場所等について教えてください。(Oは1つ)

- 1 近くの路上
- 2 近くのコンビニ等に設置された喫煙場所
- 3 鉄道車両の車内
- 4 勤務時間内は禁煙にしている
- 5 その他 ()
- 6 把握していない

9/16までの方がお答えください

問4 乗務員に対して、受動喫煙の害についての教育を実施していますか。(Oは1つ)

- 1 実施している
- 2 近々実施予定
- 3 実施したことはあるが、今は実施していない
- 4 実施していない

裏面につづきます。

問5 現在の受動喫煙防止対策についてどのように思いますか。(Oは1つ)

- 1 まったくやっっていない
- 2 まだまだ不十分である
- 3 十分である
- 4 どちらかといえばやりすぎている
- 5 必要以上にやりすぎている

問6-5、問6-1は問5で「1」または「2」を選択した方のみお答えください

問6-7 今後、受動喫煙防止対策についてどのように計画されていますか。

- (1) 鉄道車両について (Oは1つ)
- 1 全車禁煙にする
 - 2 喫煙できる車両を減らす
 - 3 喫煙車両から、禁煙車両にたばこの煙が流れ出ないように等、適切な分離措置を講じる
 - 4 当面、現状のまま
 - 5 その他 ()

(2) 駅構内について (Oは1つ)

- 1 全面禁煙にする
- 2 隔離された喫煙場所(室)を設置し、その場所以外は禁煙にする
- 3 喫煙コーナーを設置する
- 4 禁煙タイムを設定する
- 5 当面、現状のまま
- 6 その他 ()

(3) 事業所 (控え室、休憩室を含む) について (Oは1つ)

- 1 敷地内は全面禁煙にする
- 2 建物内は禁煙にし、屋外に喫煙場所をつくる
- 3 建物内に隔離された喫煙場所(室)を設置し、その場所以外は禁煙にする
- 4 室内に喫煙できるスペースを仕切ったり、空気清浄機を設置する
- 5 1～4は実施しないが、勤務時間内は禁煙にする
- 6 当面、現状のまま
- 7 その他 ()

問6-1 受動喫煙防止対策が進まない、また、困難である理由は何ですか。(Oはいくつでも)

- 1 利用客が減るおそれがある
- 2 喫煙場所の設置や排気装置の設置等に費用がかかりすぎる
- 3 喫煙する従業員・職員の協力が得られない
- 4 喫煙する利用客からの協力が得られない
- 5 狭くて喫煙場所が作れない
- 6 必要性を感じていない
- 7 その他 ()

質問は以上です。ありがとうございます。

公共施設等の受動喫煙防止対策実態調査

問1 受動喫煙による健康への影響についてどのように思いますか。(Oは1つ)

- 1 健康への悪影響はあると思う
- 2 健康への悪影響の可能性はあると思う
- 3 健康への悪影響は無いと思う
- 4 わからない

※ 受動喫煙とは、たばこを吸っている人の周りにいる人が、自分の意思とは無関係にたばこの煙を吸ってしまうことです。

問2 現在、厚生労働省において2020年の東京オリンピック・パラリンピックやその前年に開催されるラグビーワールドカップを実施し、受動喫煙防止対策の強化に関する制度案が検討されていますが、内容をご存知ですか。(Oは1つ)

- 1 知らなかった
- 2 聞いたことはあるが、詳しくは知らない
- 3 詳しく知っている

問3 下記の場所について、現在どのような受動喫煙防止対策を実施していますか。

(1) バスターミナルについて (初符売り場を含む) (Oは1つ)

- 1 全面禁煙
- 2 喫煙コーナーを設置している
- 3 喫煙コーナーを設置しているが、ラッシュ時間帯などは禁煙タイムを設定している
- 4 自由に喫煙できる
- 5 その他 ()

(2) バス停留所について (Oは1つ)

- 1 全面禁煙
- 2 禁煙であるが、やむを得ず灰皿を設置している
- 3 喫煙できるが、灰皿は設置していない
- 4 喫煙でき、灰皿を設置している
- 5 その他 ()

(3) 事業所 (控え室、休憩室を含む) (Oは1つ)

- 1 敷地内は全面禁煙にしている
- 2 建物内は禁煙にしているが、屋外に喫煙場所がある
- 3 建物内に隔離された喫煙場所 (室) を設置し、その場所以外は禁煙にしている
- 4 室内に喫煙できるスペースを仕切ったり、空気清浄機を設置している
- 5 1～4は実施しないが、勤務時間内は禁煙にしている
- 6 当面、現状のまま
- 7 その他 ()

問3-1は問3-(3)で「1」を選択した方のみお答えください

問3-2 従業員の喫煙場所等について教えてください。(Oは1つ)

- 1 近くの路上
- 2 近くのコンビニ等に設置された喫煙場所
- 3 バスの車内
- 4 勤務時間内は禁煙にしている
- 5 その他 ()
- 6 把握していない

裏面につづきます。

すべての方にお答えください

問4 乗務員に対して、受動喫煙の害についての教育を実施していますか。(Oは1つ)

- 1 実施している
- 2 近々実施予定
- 3 実施したことはない
- 4 実施していない

問5 現在の受動喫煙防止対策についてどのように超えていますか。(Oは1つ)

- 1 まったくやっていない
- 2 まだまだ不十分である
- 3 十分である
- 4 どちらかといえばやりすぎている
- 5 必要以上にやりすぎている

質問は以上です。ありがとうございます。

問6-1、問6-2は問5で「1」または「2」を選択した方のみお答えください

問6-7 今後、受動喫煙防止対策についてどのように計画されていますか。

(1) バスターミナルについて (Oは1つ)

- 1 全面禁煙にする
- 2 隔離された喫煙場所 (室) を設置し、その場所以外は禁煙にする
- 3 喫煙コーナーを設置する
- 4 禁煙タイムを設定する
- 5 当面、現状のまま
- 6 その他 ()

(2) バス停留所について (Oは1つ)

- 1 全面禁煙にする
- 2 灰皿の撤去を進める
- 3 当面、現状のまま
- 4 その他 ()

(3) 事業所 (控え室、休憩室を含む) について (Oは1つ)

- 1 敷地内は全面禁煙にする
- 2 建物内は禁煙にし、屋外に喫煙場所をつくる
- 3 建物内に隔離された喫煙場所 (室) を設置し、その場所以外は禁煙にする
- 4 室内に喫煙できるスペースを仕切ったり、空気清浄機を設置する
- 5 1～4は実施しないが、勤務時間内は禁煙にする
- 6 当面、現状のまま
- 7 その他 ()

問6-1 受動喫煙防止対策が進まない、また、困難である理由は何ですか。(Oはいくつでも)

- 1 利用客が減るおそれがある
- 2 喫煙場所の設置や排気装置の設置等に費用がかかりすぎる
- 3 喫煙する従業員・職員からの協力が得られない
- 4 喫煙する利用客からの協力が得られない
- 5 狭くて喫煙場所が作れない
- 6 必要性を感じていない
- 7 その他 ()

質問は以上です。ありがとうございます。

公共施設等の受動喫煙防止対策実施調査

問1 受動喫煙による健康への影響についてどのように思われますか。(Oは1つ)

- 1 健康への悪影響はあると思う
- 2 健康への悪影響は無いと思う
- 3 健康への悪影響は無い
- 4 わからない

※ 受動喫煙とは、たばこを吸っている人の周りにいる人が、自分の意志とは無関係にたばこの煙を吸ってしまうことです。

問2 現在、厚生労働省において2020年の東京オリンピック・パラリンピックや、その前年に開催されるラグビーワールドカップを契機に、受動喫煙防止対策の強化に関する制度案が検討されていますが、内容をご存知ですか。(Oは1つ)

- 1 知らなかった
- 2 聞いたことはあるが、詳しくは知らない
- 3 詳しく知っている

問3 京都市路上喫煙の禁止等に関する条例において、京都市内全域で路上喫煙が禁止されていることをご存知ですか。(Oは1つ)

- 1 知らなかった
- 2 聞いたことはあるが、詳しくは知らない
- 3 詳しく知っている

問4 現在どのような受動喫煙防止対策を実施していますか。

(1) タクシー車両について (Oは1つ)

- 1 全車禁煙にしている
- 2 一部の車両を禁煙にしている
- 3 各車の対応にまかしている
- 4 その他 ()

問4-1(2)は問4-1で「1」を選択した方のみお答えください

(2) いかなる時も車内で喫煙していないか確認していますか。(Oはいくつでも)

- 1 いかなる時も禁煙である旨確認している。
- 2 客の要望があれば、やむを得ず喫煙可とする場合もある。
- 3 客が乗車していない時は乗務員が喫煙していることもある。
- 4 確認したことがない
- 5 その他 ()

すべての方にお答えください

(3) 事業所について (禁煙室、休憩室を含む) (Oは1つ)

- 1 敷地内は全面禁煙にしている
- 2 建物内は禁煙にしているが、屋外に喫煙場所がある
- 3 建物内に隣接された喫煙場所(室)を設置し、その場所以外は禁煙にしている
- 4 室内に喫煙できるスペースを仕切ったり、空気清浄機を設置している
- 5 どこでも自由に喫煙できる

裏面につぎます。

問4-1(4)は問4-1(3)で「1」を選択した方のみお答えください

(4) 従業員の喫煙場所等について教えてください。(Oは1つ)

- 1 近くの路上
- 2 近くのコンビニ等に設置された喫煙場所
- 3 タクシーの車内
- 4 勤務時間内は禁煙にしている
- 5 その他 ()
- 6 把握していない

すべての方にお答えください

問5 乗務員に対して、受動喫煙の害についての教育を実施していますか。(Oは1つ)

- 1 実施している
- 2 近々実施予定
- 3 実施したことはない
- 4 実施していない

問6 現在の貴事業者で実施している受動喫煙防止対策についてどのように思いますか。(Oは1つ)

- 1 まったくやっていない
- 2 まだまだ不十分である
- 3 十分である
- 4 どちらかといえばやりすぎている
- 5 必要以上にやりすぎている

質問は以上です。
ありがとうございます。

問7-1(2)は問7-1(1)または「2」を選択した方のみお答えください

問7-1(1) タクシー車両について (Oは1つ)

- 1 全車禁煙にする
- 2 禁煙車両をふやしていく
- 3 当面、現状のまま
- 4 その他 ()

(2) 事業所について (禁煙室、休憩室を含む) (Oは1つ)

- 1 敷地内は全面禁煙にする
- 2 建物内は禁煙にし、屋外に喫煙場所をつくる
- 3 建物内に隣接された喫煙場所(室)を設置し、その場所以外は禁煙にする
- 4 同じ敷内に喫煙できるスペースを仕切って喫煙場所をつくる
- 5 1～4は実施しないが、勤務時間内は禁煙にする
- 6 当面、現状のまま
- 7 その他 ()

問7-1(2) 受動喫煙防止対策が進まない、または困難である理由は何ですか。(Oはいくつでも)

- 1 利用客が減るおそれがある
- 2 喫煙場所の設置や排気装置の設置等に費用がかかりすぎる
- 3 喫煙する従業員・職員の協力が得られない
- 4 喫煙する利用客からの協力が得られない
- 5 狭くて喫煙場所が作れない
- 6 必要性を感じていない
- 7 その他 ()

質問は以上です。ありがとうございます。